

# 第2回課題調査

## 第I部 調査の概要



## 1 調査の目的

県政の直面する重要な課題や県民生活に関するテーマにおける県民ニーズを把握し、今後の行政施策の展開に資することを目的とする。

## 2 調査内容

- (1) かながわの文化芸術
- (2) 伝統的工芸品
- (3) 2027年国際園芸博覧会
- (4) 脱炭素・環境
- (5) 生物多様性
- (6) 「未病改善」の取組み
- (7) かながわ救急相談センター（#7119）
- (8) 循環器病対策
- (9) 依存症に対する意識
- (10) かながわの人権
- (11) 配偶者等からの暴力
- (12) 犯罪被害者等への支援
- (13) 生活に不安や課題がある人への支援
- (14) インクルーシブ教育
- (15) かながわの広報

## 3 調査設計

- (1) 調査地域 神奈川県全域
- (2) 調査対象 県内在住の満18歳以上の男女
- (3) 標本数 4,000標本
- (4) 標本抽出方法 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出
- (5) 調査方法  
ア 郵送による調査票の配布  
イ 郵送回答とインターネット回答の併用
- (6) 調査期間 令和7年10月24日（金）～11月18日（火）
- (7) 調査委託機関 株式会社CCNグループ

## 4 回収結果

- (1) 全体の回収結果

標本数	4,000標本
有効回収数	1,698標本 〔 郵送回答 : 901件 〕 〔 インターネット回答 : 797件 〕
有効回収率	42.5%

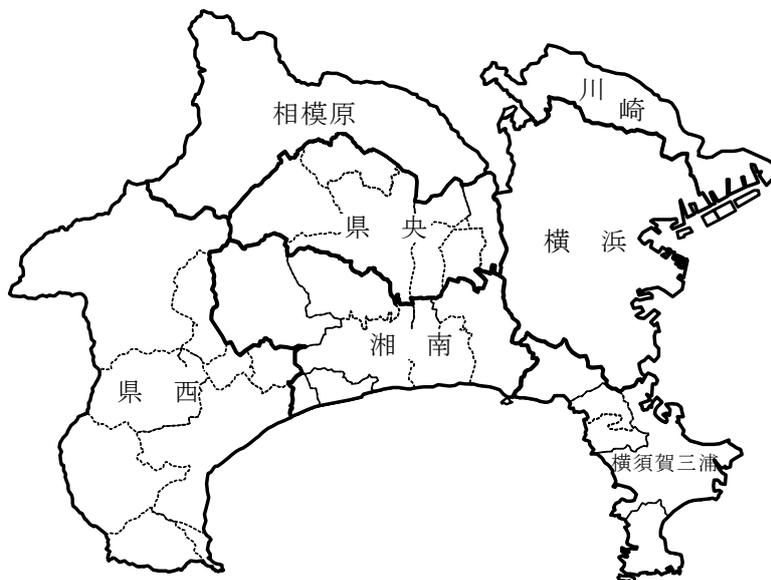
(2) 地域別の回収結果

地 域		設計標本数	有効回収数	有効回収率
横浜	横浜市	1,620	677	41.8%
川崎	川崎市	660	241	36.5%
相模原	相模原市	300	121	40.3%
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町	300	111	37.0%
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村	380	176	46.3%
湘南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町	580	272	46.9%
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町	160	74	46.3%
無 回 答			26	
全 体		4,000	1,698	42.5%

5 標本の抽出方法について

- (1) 県内を7地域に分類し、さらに各地域を人口規模によって層化した。
- (2) 各地域・人口規模別の層における18歳以上の人口（令和6年1月1日現在の推計値）により、4,000標本を比例配分した。
- (3) 比例配分した標本数を20（1地点あたりの標本数）で除し、地点数を算出した。

地域区分図



## 地点数及び標本配分

地域	人口50万人以上の市	人口50万人未満の市	町 村	計
横 浜	3,156,795人 81地点 1,620標本	-	-	3,156,795人 81地点 1,620標本
川 崎	1,283,024人 33地点 660標本	-	-	1,283,024人 33地点 660標本
相模原	607,446人 15地点 300標本	-	-	607,446人 15地点 300標本
横須賀三浦	-	557,093人 14地点 280標本	25,917人 1地点 20標本	583,010人 15地点 300標本
県 央	-	689,893人 18地点 360標本	36,552人 1地点 20標本	726,445人 19地点 380標本
湘 南	-	1,017,415人 26地点 520標本	91,084人 3地点 60標本	1,108,499人 29地点 580標本
県 西	-	193,400人 5地点 100標本	90,880人 3地点 60標本	284,280人 8地点 160標本
人口計	5,047,265人	2,457,801人	244,433人	7,749,499人
地点数計	129地点	63地点	8地点	200地点
標本数計	2,580標本	1,260標本	160標本	4,000標本

※ 人口数は、「神奈川県年齢別人口統計調査（令和6年1月1日現在）」（県統計センター）をもとに、18歳以上の各市区町村の人口を積算したものである。

## 6 集計・分析にあたって

- (1) 集計にあたっては、小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (2) 標本数「n」は「number of cases」の略で、質問に対する回答者数を表す。
- (3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並べ替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。（例えば、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせたものを《重要である》と表現している。）また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (6) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。
- (7) 今後の精査により、数値等は変動することがある。

## 7 調査結果の誤差

この調査は、全数調査ではないので、調査結果の数値は真の値（全数調査をした場合に得られる数値）と異なることがある。これを標本誤差という。

層化二段無作為抽出の場合、信頼度 95%のときの標本誤差は次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

$b$  = 標本誤差  
 $N$  = 母集団数  
 $n$  = 回答者数  
 $P$  = 回答比率

上の式により、回答者数 (n)、および回答比率 (P) ごとに信頼度 95%のときの標本誤差(%)を計算すると、おおよそ次表のとおりとなる。

回答比率 (P) 回答者数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,698	± 2.06	± 2.75	± 3.15	± 3.36	± 3.43
1,200	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
800	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
600	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
400	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
200	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

※上表は  $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$  として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数 (n) が 1,698 で、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差は 95%の信頼度で、±3.36 以内（真の値は、56.64%～63.36%）である」とみることができる。

## 8 回答者の属性

(1) 居住地域 (n=1, 698) (%)

横浜	39.9
川崎	14.2
相模原	7.1
横須賀三浦	6.5
県央	10.4
湘南	16.0
県西	4.4

(無回答 1.5)

(2) 性別 (n=1, 698) (%)

男性	41.4
女性	55.1

(無回答 3.5)

(3) 年齢 (n=1, 698) (%)

18～29歳	5.2
30～39歳	9.9
40～49歳	18.0
50～59歳	23.9
60～69歳	20.0
70～74歳	7.1
75歳以上	14.3

(無回答 1.8)

(4) 子どもの状況 (複数回答) (n=1, 698) (%)

小学校入学前	7.8
小学校在学中	10.1
中学校在学中	6.7
高校在学中	7.9
短大、専門学校等在学中	0.8
大学、大学院等在学中	7.5
学校教育終了[未婚]	23.3
学校教育終了[既婚]	24.4
その他	2.4
子どもはいない	30.7

(無回答 2.4)

(5) 家族形態 (n=1, 698) (%)

一人暮らし (単身世帯)	14.6
夫婦のみ (1世代世帯)	27.5
親と子の世帯 (2世代世帯)	47.4
祖父母と親と子の世帯 (3世代世帯)	3.5
その他の世帯	4.8

(無回答 2.1)

(6) 職業区分 (n=1, 698) (%)

自営業主・ 家族従業者	自営業主	5.4
	家族従業者	1.0
勤め・内職	勤め (フルタイム)	40.2
	勤め (パートタイム)	16.2
	内職	0.2
主婦・主夫 (勤めていない)	14.5	
学生	0.8	
無職	16.0	
その他	1.8	

(無回答 4.0)

(6-1) 有職者の職業内容 (n=1, 068) (%)

自営業主・ 家族従業者	農林水産業	0.4
	商工サービス業	4.9
	自由業	4.4
勤め・内職	経営・管理職	8.3
	専門・技術職	18.8
	事務職	24.3
	教育職	6.1
	技能・労務職	9.8
	販売・サービス職	20.5

(無回答 2.5)



## 第 2 回課題調査

# 第Ⅱ部 調査結果の概要



## 調査結果の概要

### 【記載内容についての注意】

- ・ 調査結果の比率（％）の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。
- ・ 複数回答の設問では、その比率（％）の合計が100%を上回ることがある。
- ・ 文中の「n」は、「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- ・ 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせた場合に用いる。  
 （例：問5で「ぜひ購入したいと思う」と「機会があれば購入したいと思う」を合わせたものを《購入したいと思う》と表現している。）
- ・ また、この場合の比率は実際の回答数の合計から算出しており、個々の選択肢の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- ・ 文中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

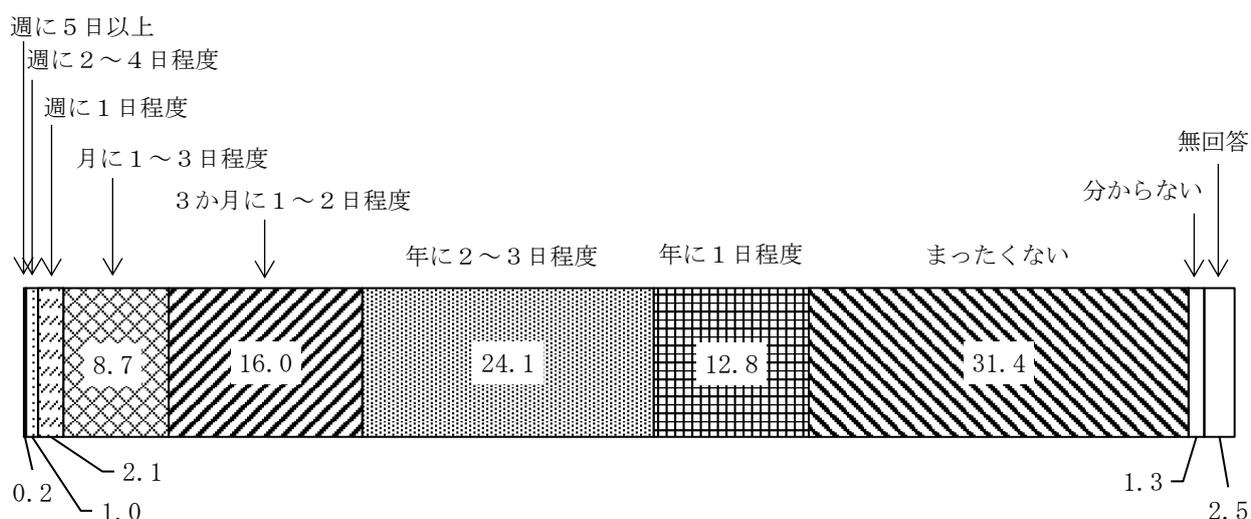
## 1 かながわの文化芸術（問1～問3）

県では、真にゆとりとうるおいを実感できる心豊かな県民生活と、個性豊かで活力に満ちた地域づくりを実現するため、県民の方に文化芸術に触れる様々な機会を提供し、あらゆる人の文化芸術活動が充実するよう取り組んでいます。今回、1年間の文化芸術の鑑賞または文化芸術活動に参加した日数などについて調査しました。

### ▼ 1年間の文化芸術の鑑賞または文化芸術活動に参加した日数（問1）

この1年間で文化芸術を鑑賞、または、文化芸術活動に参加した日数を尋ねたところ、「まったくない」が31.4%で最も多く、次いで「年に2～3日程度」が24.1%であった。[図表1]

図表1 1年間の文化芸術の鑑賞または文化芸術活動に参加した日数（n=1,698）（％）



## 2 伝統的工芸品（問4～問5）

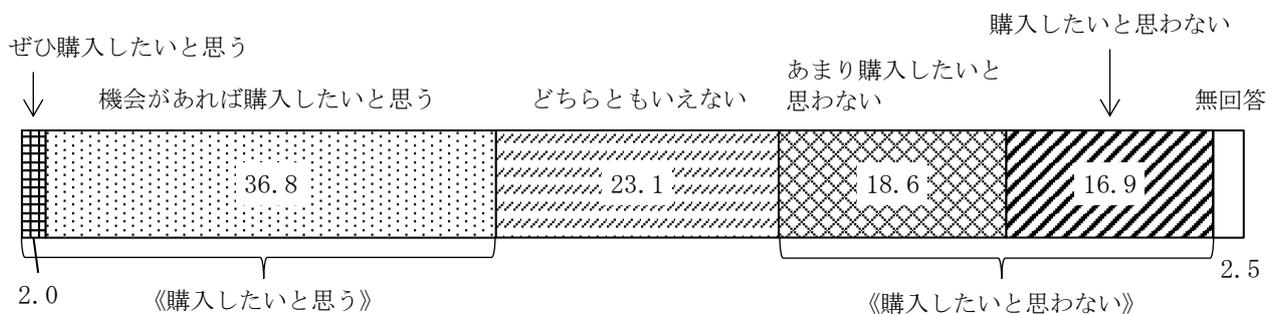
県では、長年本県で受け継がれてきた鎌倉彫、箱根寄木細工、小田原漆器などの伝統的工芸品の将来にわたる持続的な発展に向け、支援に取り組んでいます。今回、令和8年度に伝統的工芸品に関する国内最大級のイベントである KOUGEI EXPO in KANAGAWA を開催するにあたり、伝統的工芸品への購買意欲などについて調査しました。

### ▼伝統的工芸品への購買意欲（問5）

鎌倉彫、箱根寄木細工、小田原漆器などの伝統的工芸品を、今後、購入したいと思うか尋ねたところ、「ぜひ購入したいと思う」（2.0%）と「機会があれば購入したいと思う」（36.8%）を合わせた《購入したいと思う》は38.8%であった。

一方、「購入したいと思わない」（16.9%）と「あまり購入したいと思わない」（18.6%）を合わせた《購入したいと思わない》は35.5%であった。[図表2]

図表2 伝統的工芸品への購買意欲（n=1,698）（%）



## 3 2027年国際園芸博覧会（問6～問7）

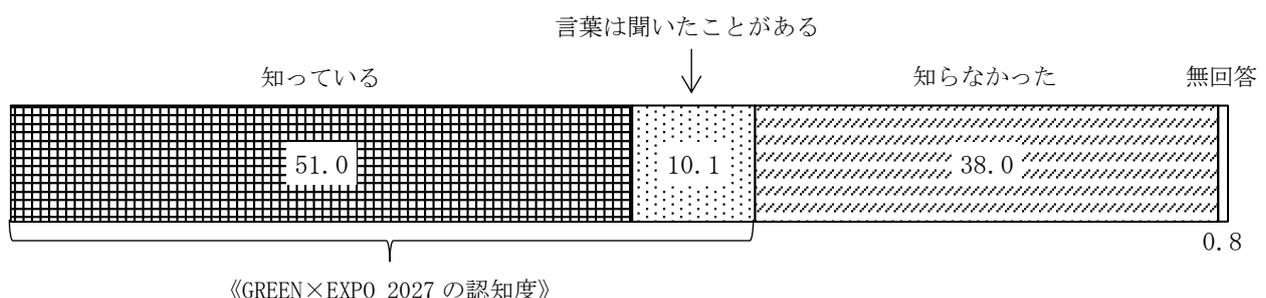
県では、一都三県初の万博である GREEN×EXPO 2027 の開催に向け、機運醸成に取り組んでいます。今回、GREEN×EXPO 2027 の認知度などについて調査しました。

### ▼GREEN×EXPO 2027の認知度（問6）

「2027年国際園芸博覧会（正式略称：GREEN×EXPO 2027）」が開催されることを知っているか尋ねたところ、「知っている」（51.0%）と「言葉は聞いたことがある」（10.1%）を合わせた《GREEN×EXPO 2027の認知度》は61.1%であった。

一方、「知らなかった」が38.0%であった。[図表3]

図表3 GREEN×EXPO 2027の認知度（n=1,698）（%）



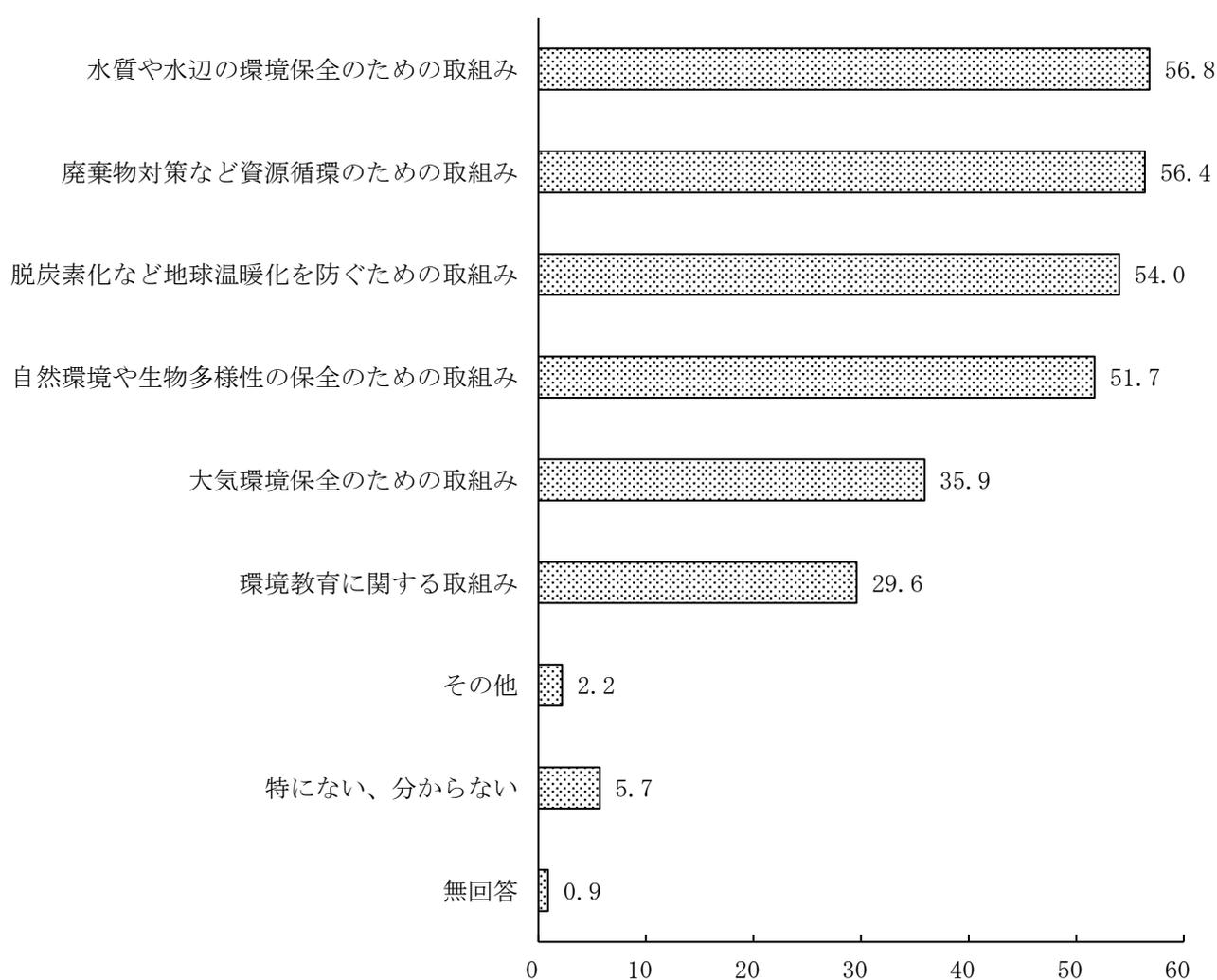
#### 4 脱炭素・環境（問8～問11）

県では、「神奈川県環境基本計画」に基づき、環境施策を推進しています。今回、県に特に力を入れてほしい環境に関する取組みなどについて調査しました。

##### ▼特に力を入れてほしい環境に関する取組み（問8）

今後、県には環境に関するどのような取組みに対して、特に力を入れてほしいかを複数回答で尋ねたところ、「水質や水辺の環境保全のための取組み」が56.8%で最も多く、次いで「廃棄物対策など資源循環のための取組み」が56.4%であった。〔図表4〕

図表4 特に力を入れてほしい環境に関する取組み（複数回答）（n=1,698）（%）



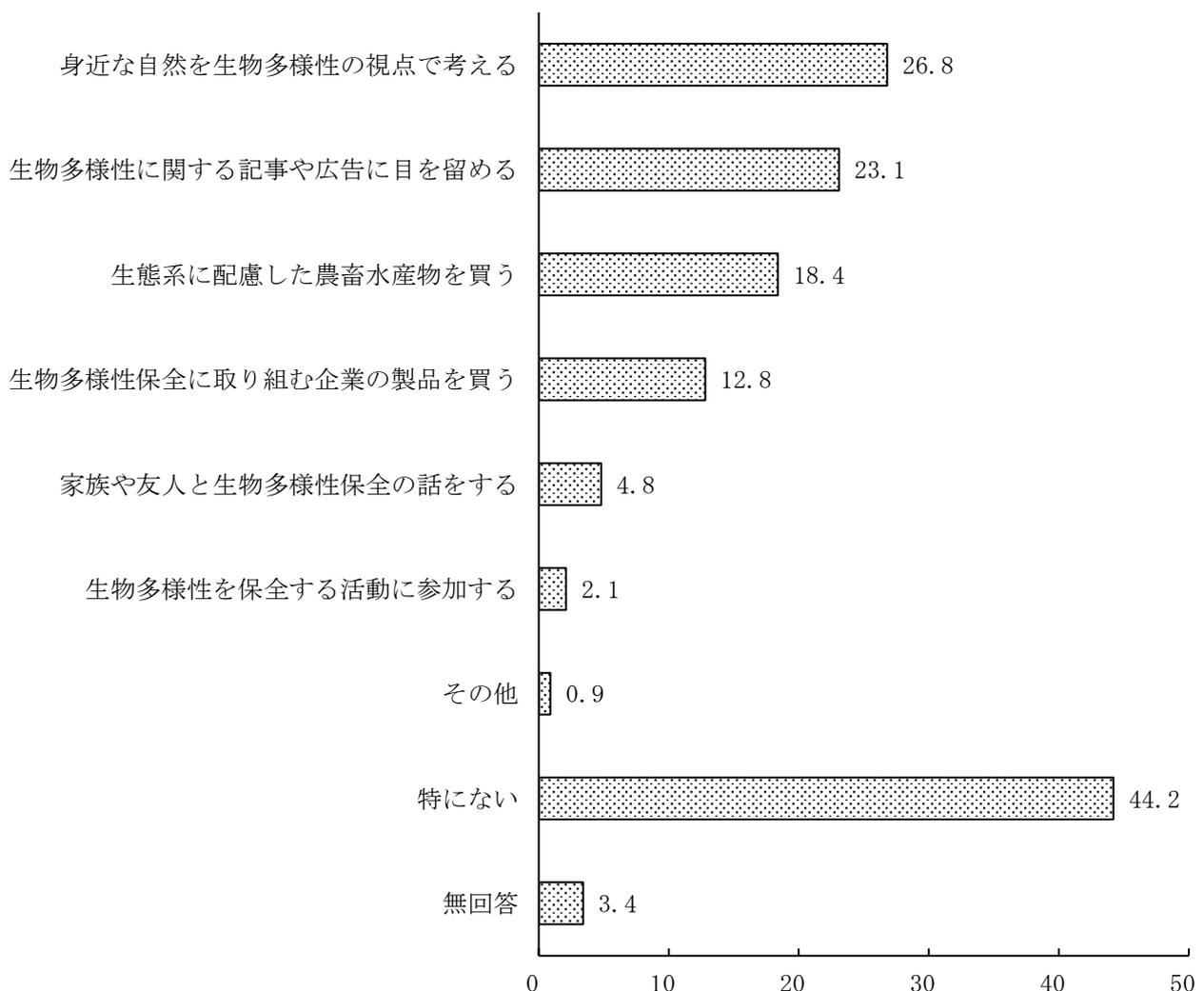
## 5 生物多様性（問 12～問 14）

県では、生物多様性の保全に取り組んでいます。今回、生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることなどについて調査しました。

### ▼生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること（問 13）

生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることを複数回答で尋ねたところ、「身近な自然を生物多様性の視点で考える」が 26.8%で最も多く、次いで「生物多様性に関する記事や広告に目を留める」が 23.1%であった。[図表 5]

図表 5 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること  
（複数回答）（n=1,698）（%）



## 6 「未病改善」の取組み（問 15～問 18）

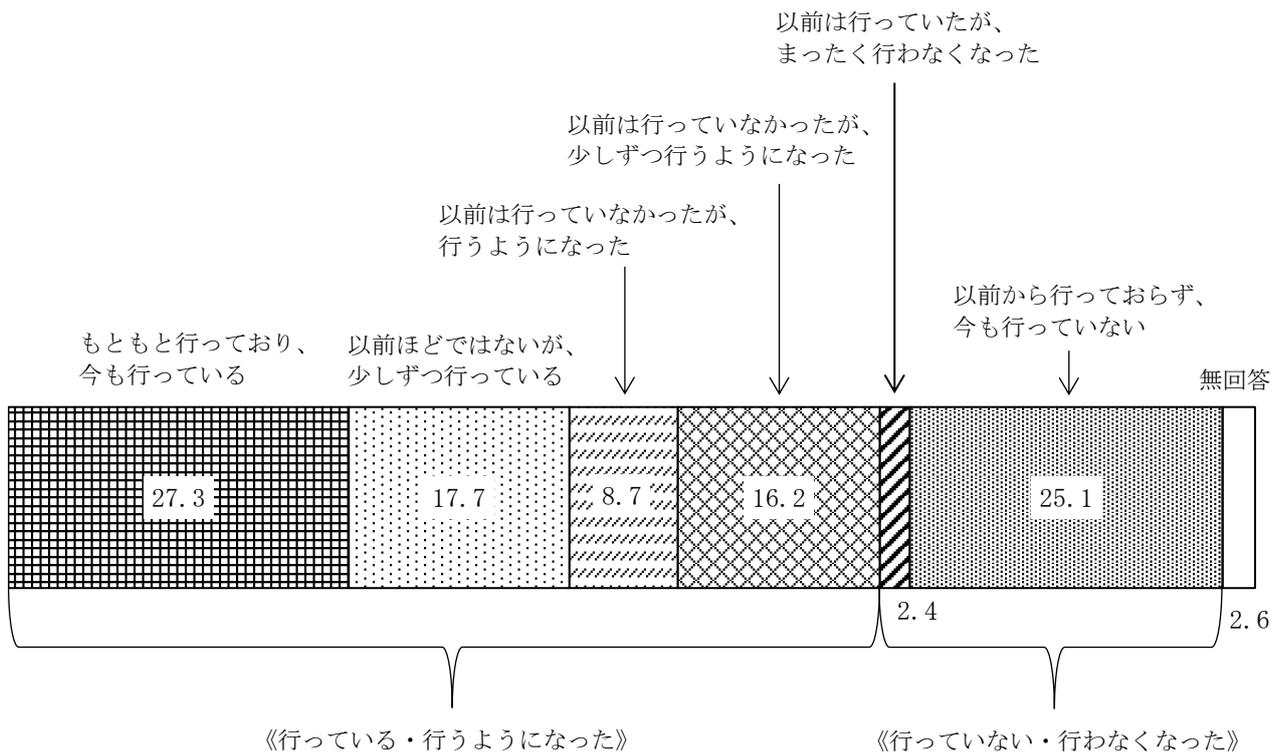
県では、「食」「運動」「社会参加」を基本に、「未病改善」の取組みを進めています。「未病」とは、健康と病気を2つの明確に分けられる概念で捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものとして捉え、このすべての変化の過程を表す概念です。今回、過去1年間の「未病改善」の取組状況などについて調査しました。

### ▼過去1年間の「未病改善」の取組状況（問 16）

過去1年間で「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）を以前と比べて行うようになったと思うか尋ねたところ、「もともと行っており、今も行っている」（27.3%）、「以前ほどではないが、少しずつ行っている」（17.7%）、「以前は行っていなかったが、行うようになった」（8.7%）、「以前は行っていなかったが、少しずつ行うようになった」（16.2%）、を合わせた《行っている・行うようになった》は69.8%であった。

一方、「以前から行っておらず、今も行っていない」（25.1%）と「以前は行っていたが、まったく行わなくなった」（2.4%）を合わせた《行っていない・行わなくなった》は27.6%であった。〔図表6〕

図表6 過去1年間の「未病改善」の取組状況（n=1,698）（%）



## 7 かながわ救急相談センター（#7119）（問 19）

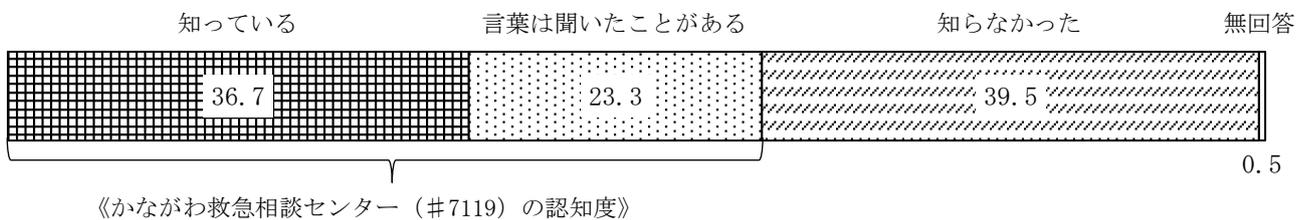
県では、急な病気やケガをしたときに、救急車を呼んだ方がいいのかなどで迷った際に、電話でアドバイスを受けることができる、かながわ救急相談センター（#7119）を運営し、救急車の適正利用や医療機関の適正受診を推進しています。今回、かながわ救急相談センター（#7119）の認知度について調査しました。

### ▼かながわ救急相談センター（#7119）の認知度（問 19）

かながわ救急相談センター（#7119）を知っているか尋ねたところ、「知っている」（36.7%）と「言葉は聞いたことがある」（23.3%）を合わせた《かながわ救急相談センター（#7119）の認知度》は60.0%であった。

一方、「知らなかった」が39.5%であった。〔図表 7〕

図表 7 かながわ救急相談センター（#7119）の認知度（n=1,698）（%）



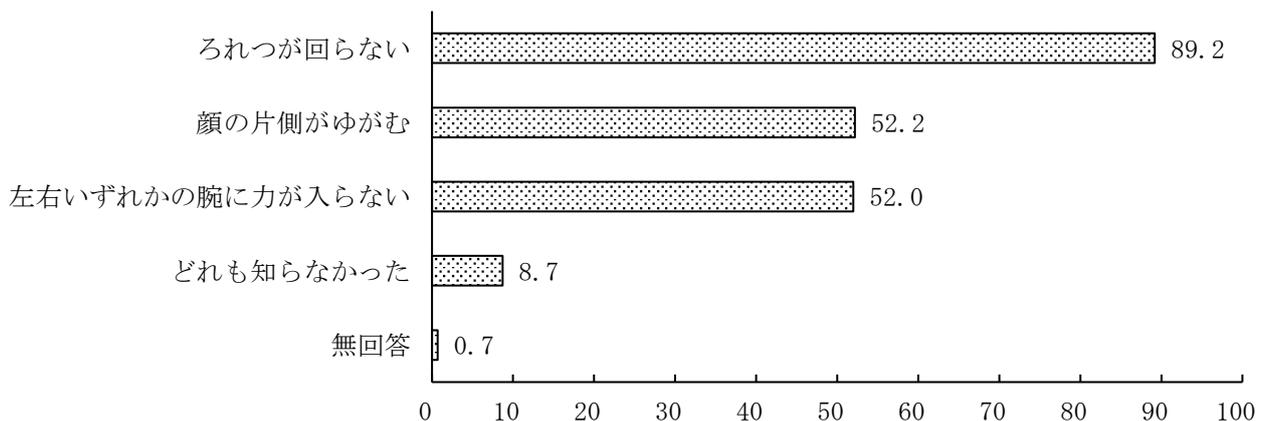
## 8 循環器病対策（問 20～問 22）

県では、循環器病（脳卒中や心疾患など）の未病改善や正しい知識の普及啓発、保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実などに取り組んでいます。今回、脳卒中の主な初期症状の認知度などについて調査しました。

### ▼脳卒中の主な初期症状の認知度（問 20）

脳卒中の主な初期症状について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「ろれつが回らない」が89.2%で最も多く、次いで「顔の片側がゆがむ」が52.2%であった。〔図表 8〕

図表 8 脳卒中の主な初期症状の認知度（複数回答）（n=1,698）（%）



## 9 依存症に対する意識（問 23～問 24）

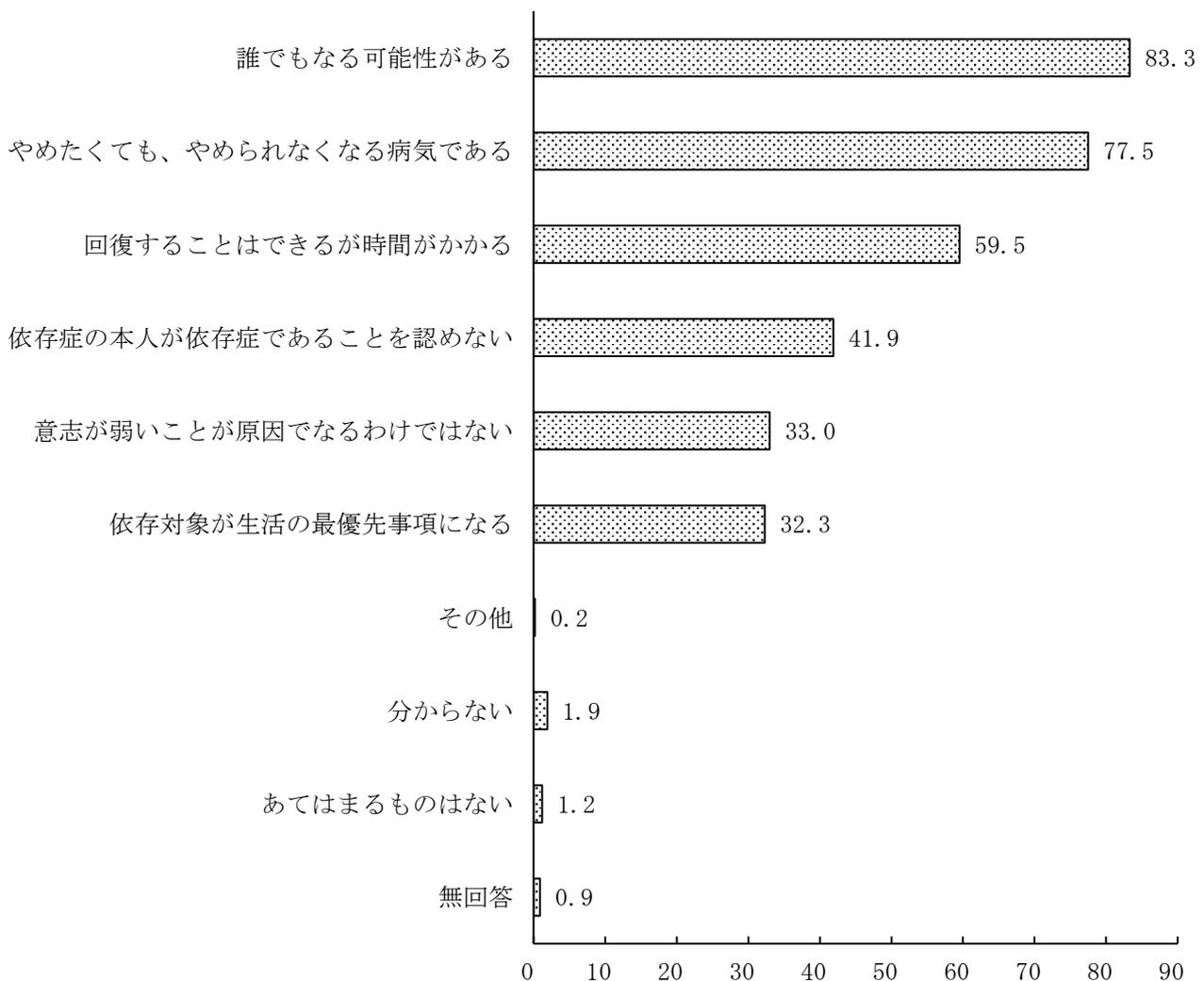
県では、アルコール、薬物、ギャンブルなどの依存症に関する普及啓発、相談支援体制や治療、回復支援体制の強化、医療連携体制の構築を図り、依存症対策を総合的に推進しています。今回、依存症について、あてはまると思うことなどについて調査しました。

### ▼依存症について、あてはまると思うこと（問 23）

依存症について、あてはまると思うことを複数回答で尋ねたところ、「誰でもなる可能性がある」が 83.3%で最も多く、次いで「やめたくても、やめられなくなる病気である」が 77.5%であった。

[図表 9]

図表 9 依存症について、あてはまると思うこと（複数回答）（n=1,698）（%）



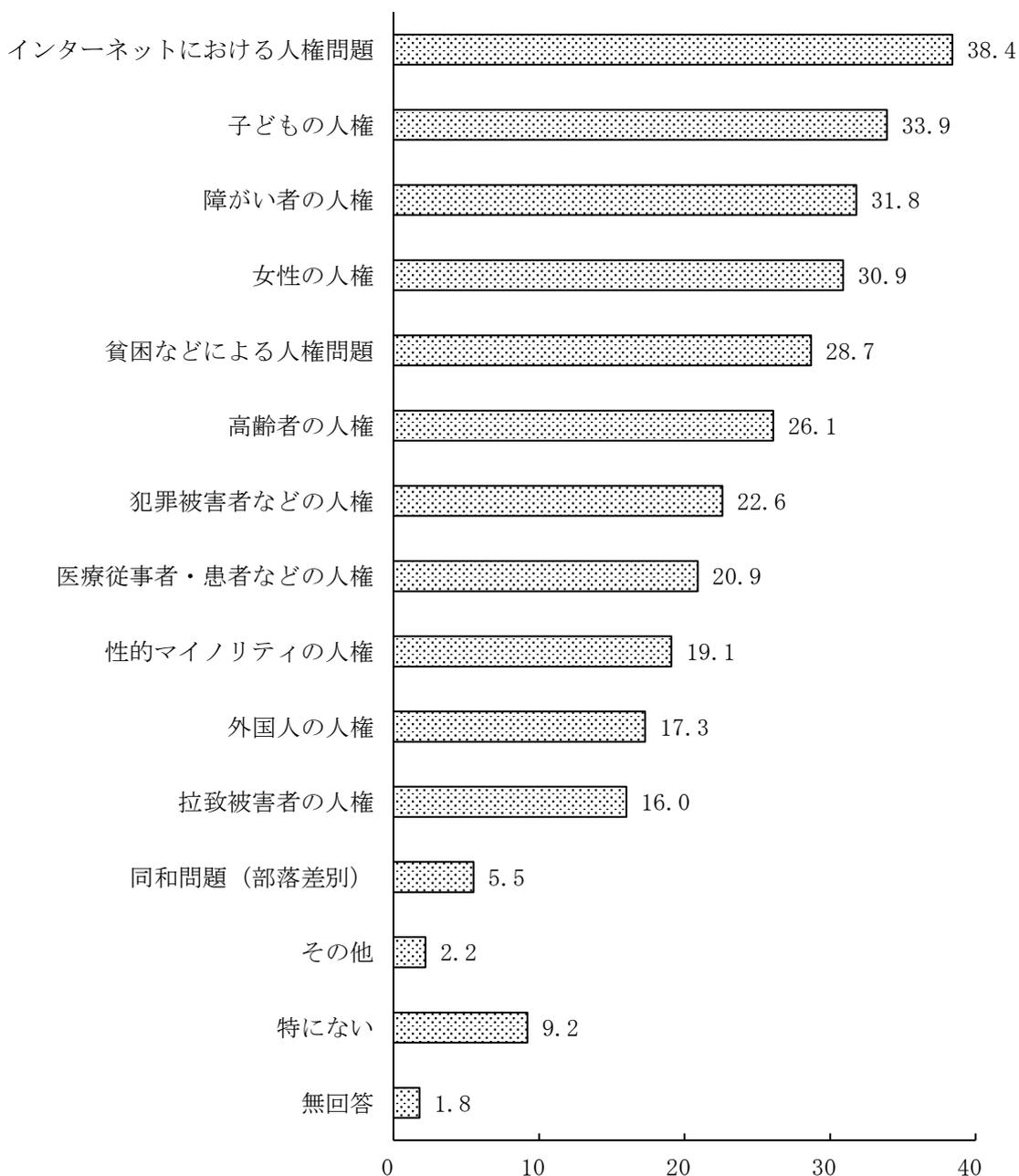
## 10 かながわの人権（問 25～問 27）

県では、「かながわ人権施策推進指針」に基づき、人権がすべての人に保障される地域社会の実現を目指して、取組みを進めています。今回、普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題などについて調査しました。

### ▼普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（問 26）

普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題を複数回答で尋ねたところ、「インターネットにおける人権問題」が38.4%で最も多く、次いで「子どもの人権」が33.9%であった。[図表 10]

図表 10 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（複数回答）（n=1,698）（%）



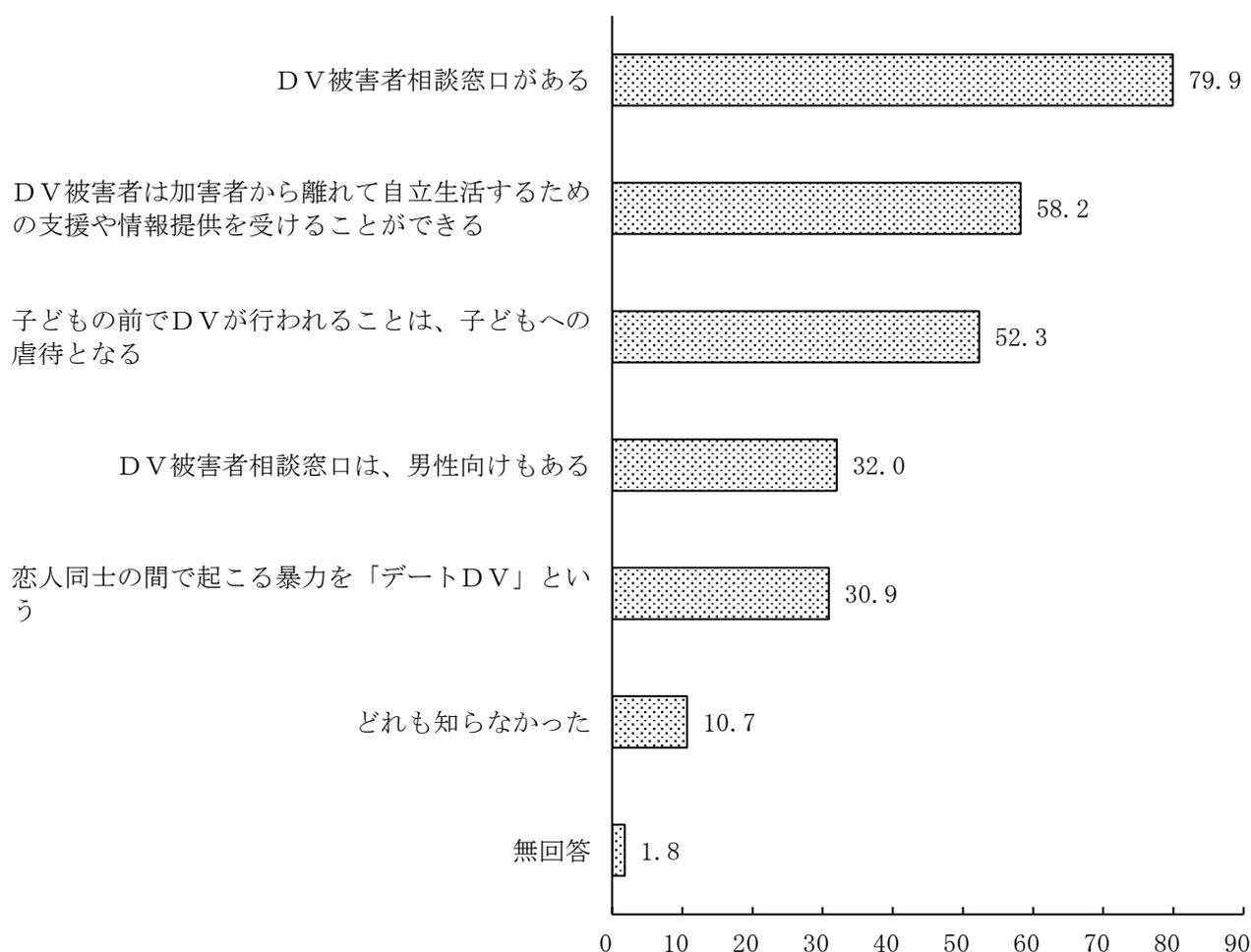
## 11 配偶者等からの暴力（問 28）

県では、「かながわ困難な問題を抱える女性等支援計画」に基づき、DV・ストーカー被害者への支援の充実に加え、DV防止の取組みの強化を図っています。今回、配偶者等からの暴力（DV）について知っていたことについて調査しました。

### ▼配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと（問 28）

配偶者等からの暴力（DV）について、知っていたことを複数回答で尋ねたところ、「DV被害者相談窓口がある」が79.9%で最も多く、次いで「DV被害者は加害者から離れて自立生活するための支援や情報提供を受けることができる」が58.2%であった。[図表 11]

図表 11 配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと（複数回答）（n=1,698）（%）



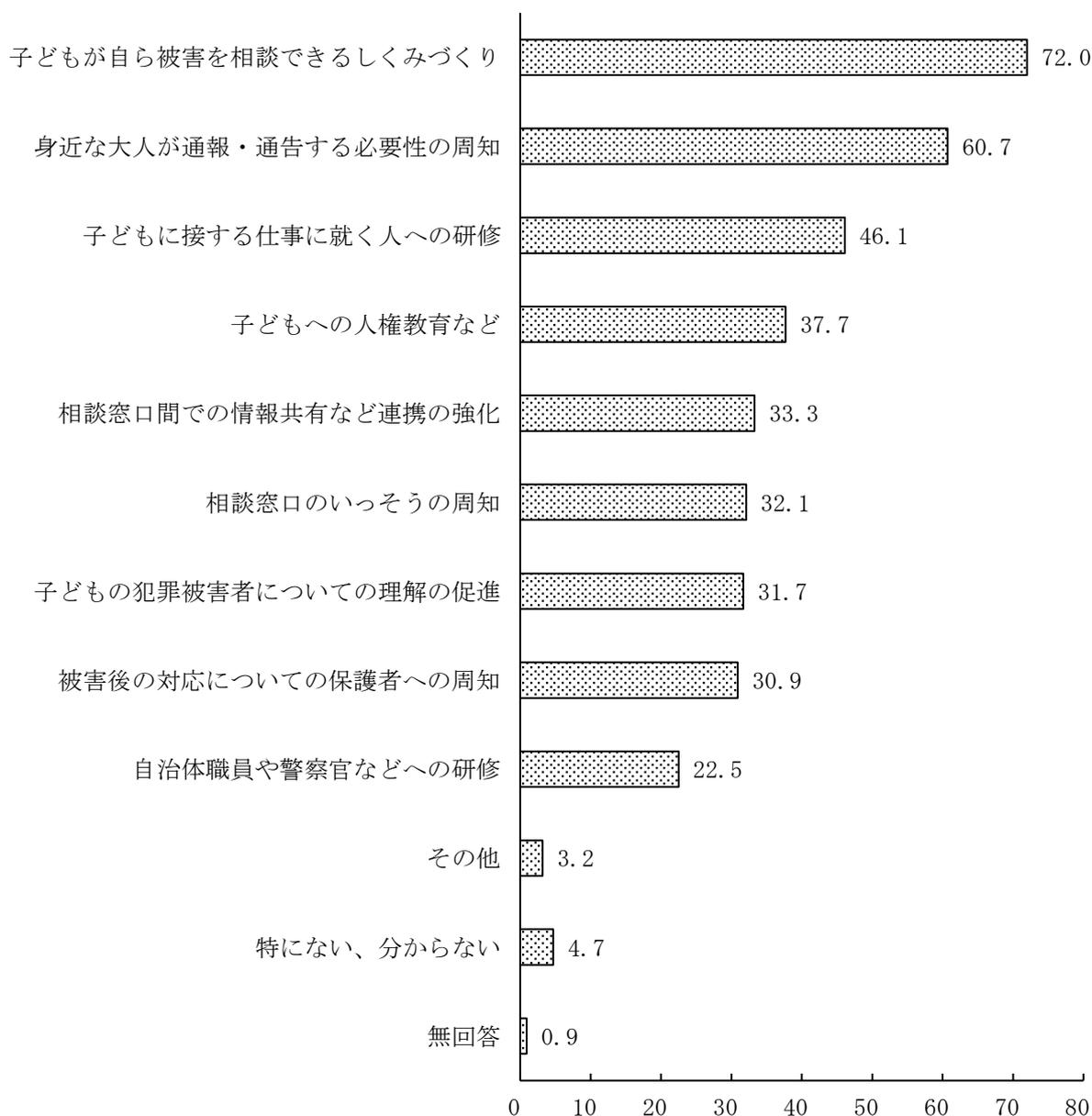
## 12 犯罪被害者等への支援（問 29～問 31）

県では、犯罪被害者等を温かく支える地域社会を目指して、支援・施策の充実に取り組んでいます。今回、犯罪被害にあっている子どもを早期発見するために効果的だと思う取組みなどについて調査しました。

### ▼犯罪被害にあっている子どもを早期発見するために効果的だと思う取組み（問 31）

犯罪被害にあっている子どもを早期発見するために効果的だと思う取組みについて複数回答で尋ねたところ、「子どもが自ら被害を相談できるしくみづくり」が 72.0%で最も多く、次いで「身近な大人が通報・通告する必要性の周知」が 60.7%であった。〔図表 12〕

図表 12 犯罪被害にあっている子どもを早期発見するために効果的だと思う取組み  
（複数回答）（n=1,698）（%）



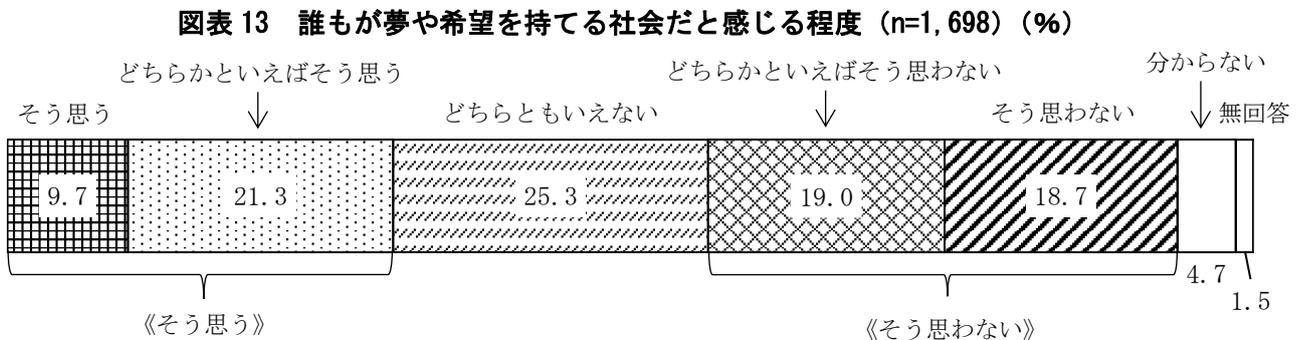
### 13 生活に不安や課題がある人への支援（問 32～問 34）

県では、多様な担い手と連携し、生きづらさ・くらしにくさを抱えながら、声を上げない・上げられない方に積極的にアプローチし、早期に相談や地域の支援につなげる取組みなどを推進し、誰もが自分らしく夢や希望を持つことができる地域づくりに取り組んでいます。今回、誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度などについて調査しました。

#### ▼誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度（問 32）

私たちのくらす社会では、生まれ育った環境にかかわらず誰もが夢や希望を持てると思うか尋ねたところ、「そう思う」（9.7%）と「どちらかといえばそう思う」（21.3%）を合わせた《そう思う》は30.9%であった。

一方、「そう思わない」（18.7%）と「どちらかといえばそう思わない」（19.0%）を合わせた《そう思わない》は37.7%であった。[図表 13]



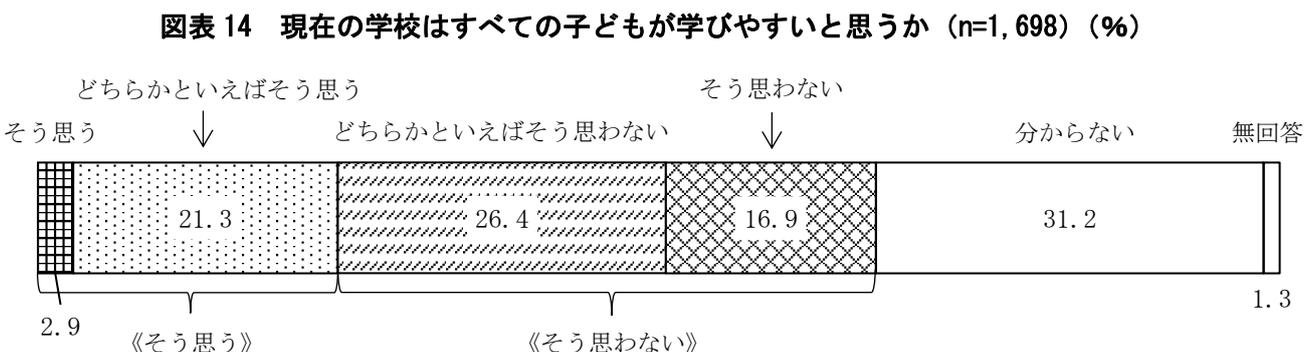
### 14 インクルーシブ教育（問 35～問 37）

県では、共生社会の実現に向け、すべての子どもが同じ場でともに学びともに育つことを目指して、インクルーシブ教育を推進し、すべての子どもにとって学びやすい学校づくりに取り組んでいます。今回、現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うかなどについて調査しました。

#### ▼現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか（問 36）

現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか尋ねたところ、「そう思う」（2.9%）と「どちらかといえばそう思う」（21.3%）を合わせた《そう思う》は24.3%であった。

一方、「そう思わない」（16.9%）と「どちらかといえばそう思わない」（26.4%）を合わせた《そう思わない》は43.3%であった。[図表 14]



## 15 かながわの広報（問 38～問 40）

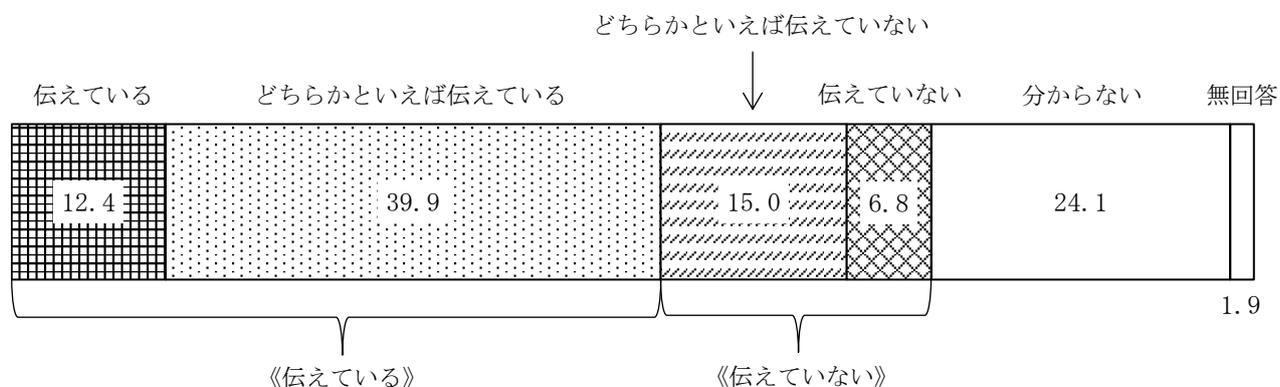
県では、「県のたより」などの広報紙や県広報テレビ・ラジオ番組、ホームページ、ソーシャルメディアなどを通じて、様々な県政情報をお伝えしています。今回は、県の広報の達成度などについて調査しました。

### ▼県の広報の達成度（問 38）

県が県政情報を伝えていると思うか尋ねたところ、「伝えている」（12.4%）と「どちらかといえば伝えている」（39.9%）を合わせた《伝えている》は52.3%であった。

一方、「伝えていない」（6.8%）と「どちらかといえば伝えていない」（15.0%）を合わせた《伝えていない》は21.7%であった。[図表 15]

図表 15 県の広報の達成度（n=1,698）（%）



# 第Ⅲ部 調査結果の詳細

### 【報告書を読む際の注意】

- (注1) 小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (注2) 「n」は「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- (注3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (注4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並び替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (注5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (注6) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。



# 第1章 かながわの文化芸術【問1～問3】

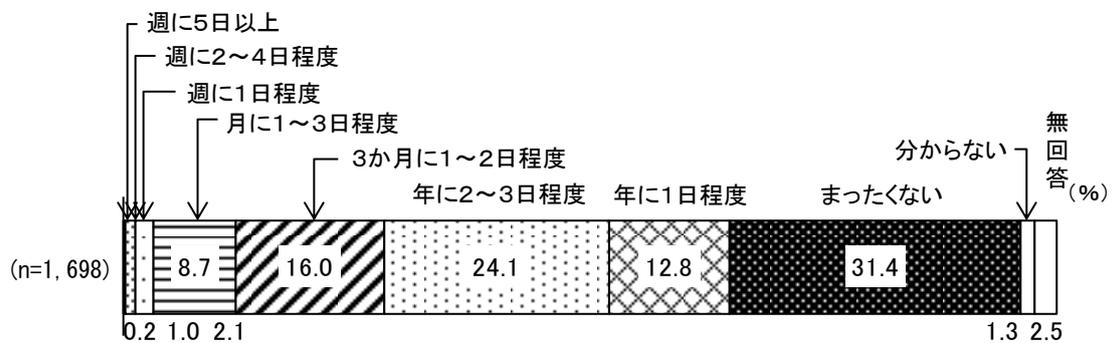
## 1 文化芸術を鑑賞または文化芸術活動に参加した日数【問1】

### 【全体の状況】

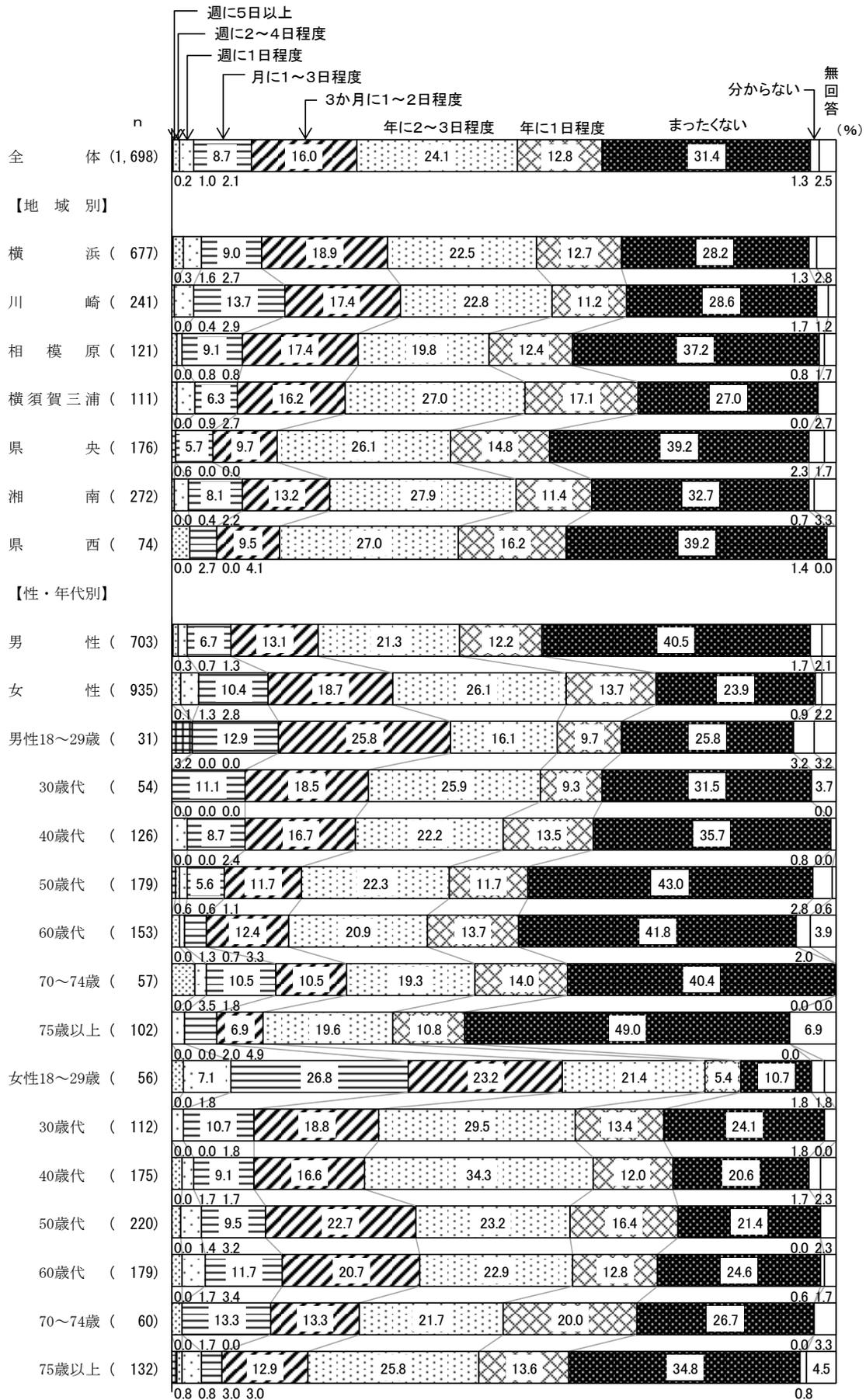
この1年間で文化芸術を鑑賞、または、文化芸術活動に参加した日数はどのくらいになるか尋ねたところ、「まったくない」が31.4%で最も多く、次いで「年に2～3日程度」が24.1%であった。

(図表1-1-1)

図表1-1-1 文化芸術を鑑賞または文化芸術活動に参加した日数



図表1-1-2 文化芸術を鑑賞または文化芸術活動に参加した日数—地域別、性・年代別

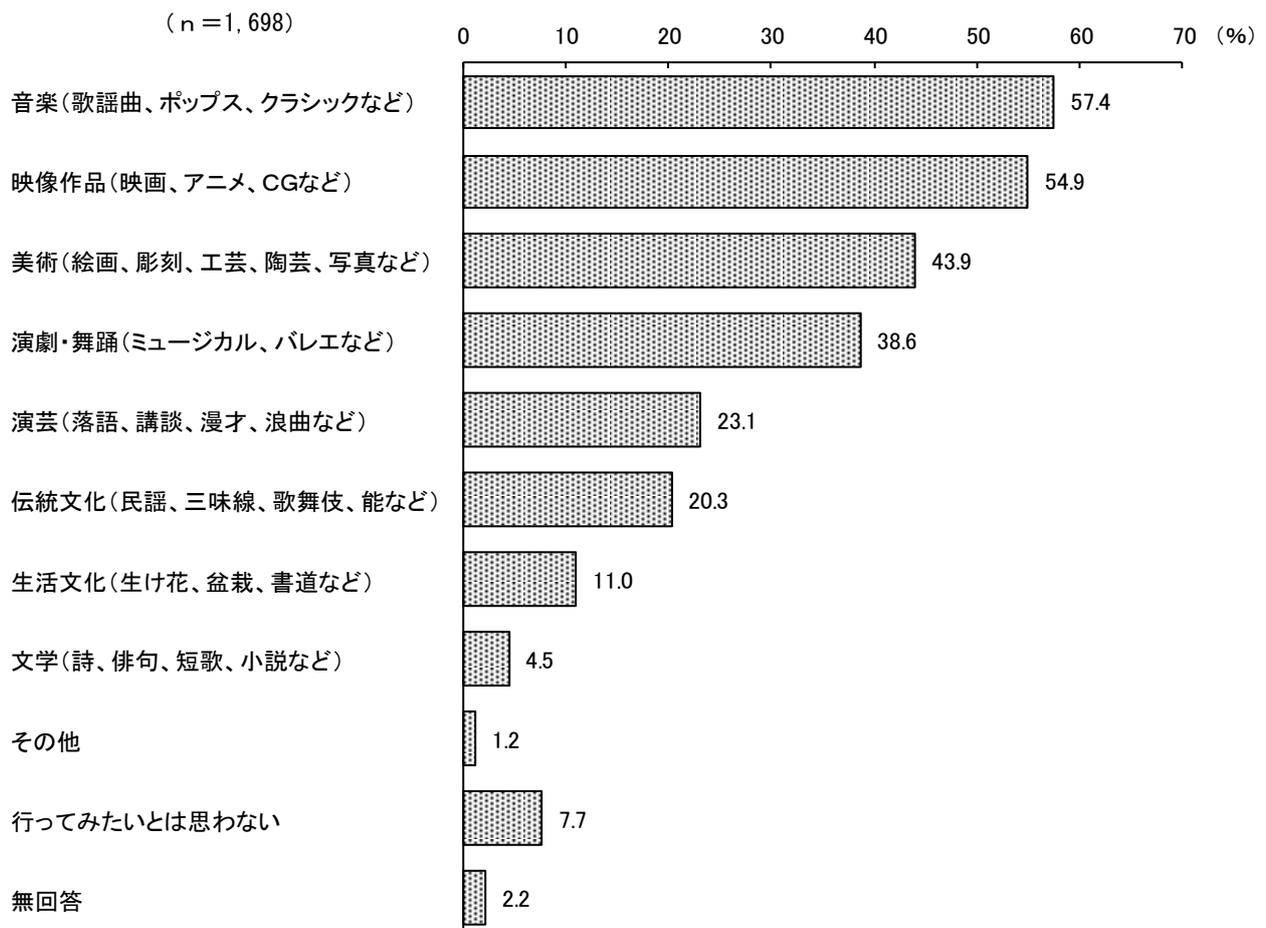


## 2 公演や展覧会へ行ってみたいと思うジャンル【問2】

### 【全体の状況】

ホールなどの文化施設での公演や展覧会へ行ってみたいと思うジャンルについて複数回答で尋ねたところ、「音楽（歌謡曲、ポップス、クラシックなど）」が57.4%で最も多く、次いで「映像作品（映画、アニメ、CGなど）」が54.9%であった。（図表1-2-1）

図表1-2-1 公演や展覧会へ行ってみたいと思うジャンル（複数回答）



図表1-2-2 公演や展覧会へ行ってみたいと思うジャンル（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	音楽（歌謡曲、ポップス、クラシックなど）	映像作品（映画、アニメ、CGなど）	美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など）	演劇・舞踊（ミュージカル、バレエなど）	演芸（落語、講談、漫才、浪曲など）	伝統文化（民謡、三味線、歌舞伎、能など）	生活文化（生け花、盆栽、書道など）	文学（詩、俳句、短歌、小説など）	その他	行ってみたいとは思わない	無回答
全体	1,698	57.4	54.9	43.9	38.6	23.1	20.3	11.0	4.5	1.2	7.7	2.2
【地域別】												
横浜	677	58.3	56.1	46.5	39.7	25.7	22.0	10.5	4.1	1.0	6.8	2.5
川崎	241	57.7	60.6	50.6	40.7	21.6	18.3	11.2	5.8	1.7	7.9	1.2
相模原	121	52.9	61.2	40.5	42.1	19.8	19.0	12.4	5.0	1.7	5.0	1.7
横須賀三浦	111	56.8	56.8	48.6	42.3	19.8	21.6	11.7	8.1	2.7	5.4	2.7
県央	176	57.4	47.2	33.5	31.8	17.0	16.5	12.5	3.4	1.1	10.8	1.7
湘南	272	58.1	50.7	40.1	37.9	23.5	21.7	9.9	4.0	1.1	8.8	2.2
県西	74	59.5	54.1	37.8	29.7	27.0	17.6	12.2	2.7	-	8.1	-
【性・年代別】												
男性	703	51.6	54.3	36.8	20.6	25.2	13.2	5.8	3.6	1.0	11.5	2.0
女性	935	61.9	55.9	49.8	52.3	21.4	25.5	14.8	5.3	1.5	4.4	2.1
男性18～29歳	31	51.6	64.5	41.9	25.8	25.8	12.9	9.7	12.9	-	-	3.2
30歳代	54	55.6	74.1	35.2	27.8	18.5	13.0	3.7	3.7	1.9	5.6	-
40歳代	126	58.7	61.9	37.3	27.0	24.6	13.5	7.1	2.4	-	12.7	-
50歳代	179	52.0	61.5	27.4	29.6	22.9	12.3	7.3	1.7	1.1	10.6	0.6
60歳代	153	52.3	49.7	41.8	16.3	24.8	13.7	3.9	1.3	0.7	13.1	3.9
70～74歳	57	56.1	42.1	50.9	5.3	29.8	15.8	3.5	7.0	1.8	8.8	-
75歳以上	102	37.3	33.3	37.3	6.9	31.4	12.7	5.9	6.9	2.0	16.7	5.9
女性18～29歳	56	55.4	73.2	41.1	60.7	23.2	16.1	5.4	7.1	-	1.8	1.8
30歳代	112	62.5	70.5	42.9	65.2	19.6	21.4	13.4	3.6	0.9	5.4	0.9
40歳代	175	70.3	67.4	44.6	54.3	17.1	25.7	10.9	4.0	1.7	4.0	2.3
50歳代	220	68.2	57.3	52.7	55.9	24.1	26.8	12.7	5.0	1.4	4.1	2.3
60歳代	179	62.0	49.7	50.8	53.6	21.8	23.5	20.7	4.5	2.2	2.8	2.2
70～74歳	60	58.3	36.7	65.0	36.7	26.7	33.3	11.7	5.0	-	5.0	1.7
75歳以上	132	44.7	35.6	53.0	34.1	20.5	29.5	21.2	9.8	2.3	7.6	3.0

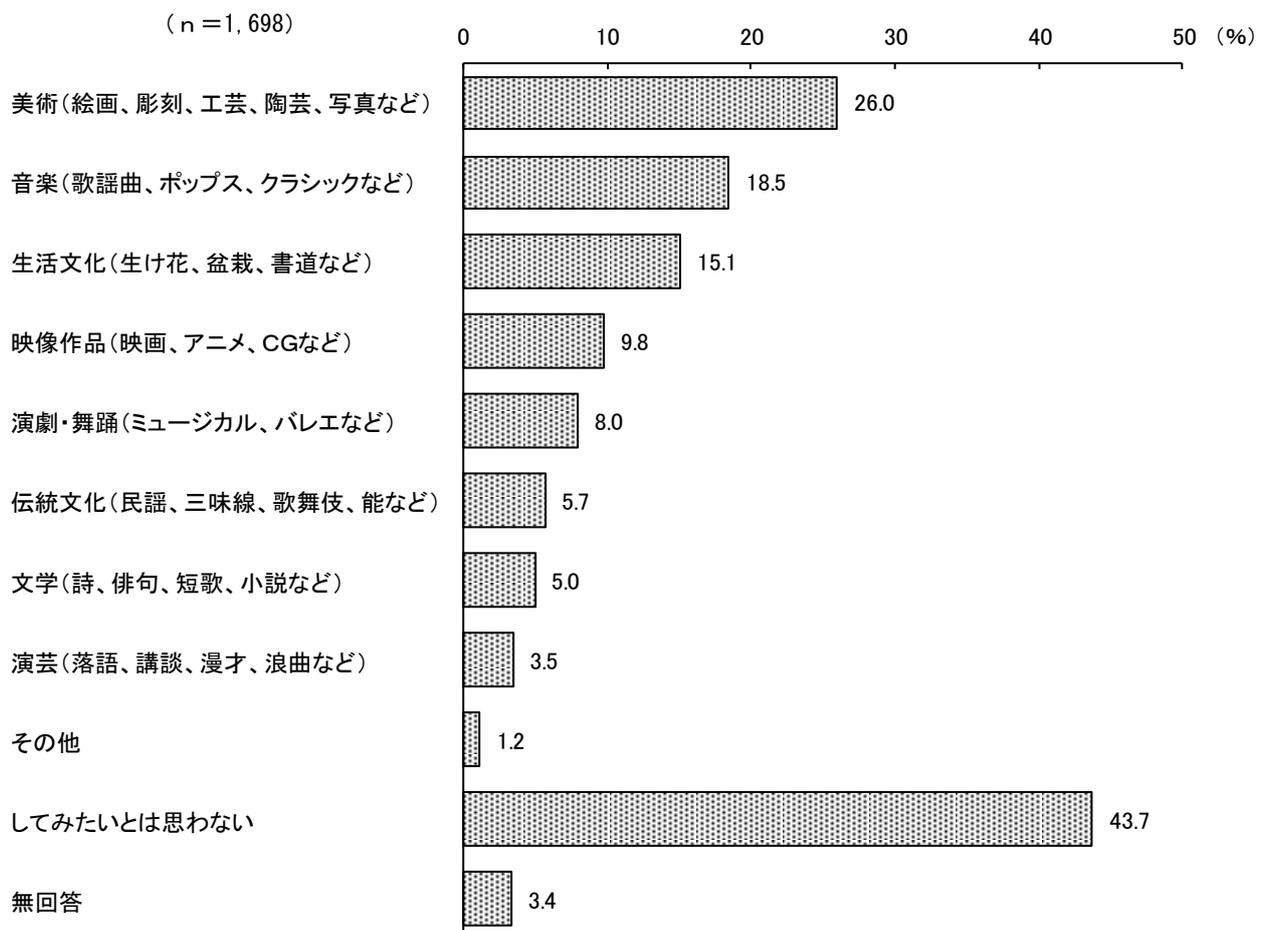
### 3 文化芸術活動に参加してみたいと思うジャンル【問3】

#### 【全体の状況】

文化芸術活動に参加してみたいと思うジャンルについて複数回答で尋ねたところ、「美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など）」が26.0%で最も多く、次いで「音楽（歌謡曲、ポップス、クラシックなど）」が18.5%であった。

一方、「してみたいとは思わない」が43.7%であった。（図表1-3-1）

図表1-3-1 文化芸術活動に参加してみたいと思うジャンル（複数回答）



図表1-3-2 文化芸術活動に参加してみたいと思うジャンル（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

	n	美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など）	音楽（歌謡曲、ポップス、クラシックなど）	生活文化（生け花、盆栽、書道など）	映像作品（映画、アニメ、CGなど）	演劇・舞踊（ミュージカル、バレエなど）	伝統文化（民謡、三味線、歌舞伎、能など）	文学（詩、俳句、短歌、小説など）	演芸（落語、講談、漫才、浪曲など）	その他	してみたいとは思わない	無回答
全体	1,698	26.0	18.5	15.1	9.8	8.0	5.7	5.0	3.5	1.2	43.7	3.4
【地域別】												
横浜	677	26.3	19.1	14.5	9.5	8.4	5.5	3.8	3.0	1.0	43.1	4.1
川崎	241	29.5	18.3	17.4	10.8	8.7	5.8	7.5	4.6	1.2	41.1	1.2
相模原	121	25.6	19.8	19.0	13.2	8.3	7.4	4.1	1.7	1.7	40.5	2.5
横須賀三浦	111	25.2	20.7	17.1	6.3	8.1	9.9	9.0	8.1	1.8	45.0	2.7
県央	176	21.6	17.6	11.4	11.4	5.7	4.0	4.5	2.8	1.1	47.2	4.5
湘南	272	24.6	17.6	15.4	9.2	8.5	4.8	4.4	3.3	1.5	45.6	2.2
県西	74	29.7	16.2	13.5	9.5	5.4	4.1	6.8	2.7	1.4	41.9	5.4
【性・年代別】												
男性	703	23.6	18.6	7.8	12.8	3.7	4.3	4.3	4.8	1.1	48.9	2.7
女性	935	28.0	18.9	20.7	7.9	11.6	6.3	5.8	2.6	1.2	39.3	3.7
男性18～29歳	31	25.8	32.3	22.6	29.0	3.2	6.5	9.7	6.5	-	29.0	3.2
30歳代	54	22.2	22.2	7.4	22.2	5.6	1.9	7.4	5.6	3.7	44.4	-
40歳代	126	25.4	23.0	7.1	15.1	8.7	3.2	3.2	4.8	0.8	51.6	-
50歳代	179	20.1	16.2	8.9	14.5	3.9	5.0	2.2	6.7	0.6	55.3	1.1
60歳代	153	22.9	15.7	5.2	10.5	1.3	4.6	3.3	1.3	1.3	51.6	3.3
70～74歳	57	29.8	21.1	7.0	5.3	1.8	7.0	10.5	3.5	-	40.4	5.3
75歳以上	102	25.5	14.7	6.9	4.9	1.0	2.9	3.9	6.9	2.0	43.1	7.8
女性18～29歳	56	28.6	26.8	21.4	16.1	16.1	7.1	8.9	1.8	-	35.7	1.8
30歳代	112	31.3	25.0	17.0	18.8	22.3	7.1	4.5	2.7	0.9	33.0	0.9
40歳代	175	32.0	15.4	19.4	9.1	9.1	8.0	4.0	3.4	0.6	43.4	3.4
50歳代	220	36.8	24.5	22.3	7.3	15.5	7.7	5.0	3.2	0.9	33.2	2.3
60歳代	179	23.5	15.1	23.5	4.5	8.9	4.5	5.0	1.7	2.2	41.3	2.2
70～74歳	60	18.3	10.0	20.0	3.3	5.0	5.0	6.7	1.7	-	46.7	8.3
75歳以上	132	15.9	15.2	19.7	1.5	3.8	3.8	9.8	2.3	2.3	43.9	9.8

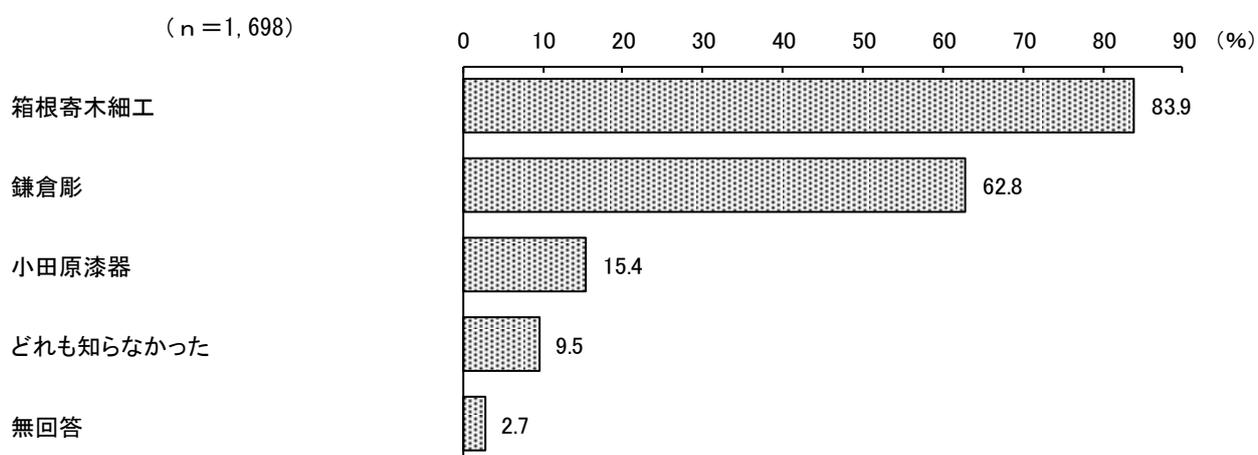
## 第2章 伝統的工芸品【問4～問5-1】

### 1 県の伝統的工芸品の認知度【問4】

#### 【全体の状況】

県の伝統的工芸品のうち、知っているものについて複数回答で尋ねたところ、「箱根寄木細工」が83.9%で最も多く、次いで「鎌倉彫」が62.8%であった。(図表2-1-1)

図表2-1-1 県の伝統的工芸品の認知度（複数回答）



図表2-1-2 県の伝統的工芸品の認知度（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)						
	n	箱根寄木細工	鎌倉彫	小田原漆器	どれも知らなかった	無回答
全 体	1,698	83.9	62.8	15.4	9.5	2.7
<b>【地 域 別】</b>						
横 浜	677	82.4	65.4	12.0	10.5	3.2
川 崎	241	80.5	50.6	13.3	14.9	1.7
相 模 原	121	75.2	53.7	19.0	13.2	1.7
横 須 賀 三 浦	111	83.8	84.7	14.4	3.6	1.8
県 央	176	88.6	60.2	11.9	6.8	2.3
湘 南	272	89.0	66.9	19.9	6.6	2.2
県 西	74	94.6	51.4	37.8	2.7	2.7
<b>【性・年代別】</b>						
男 性	703	81.1	57.5	15.4	12.4	2.1
女 性	935	85.9	66.5	15.2	7.6	2.8
男性18～29歳	31	67.7	32.3	22.6	22.6	3.2
30歳代	54	63.0	20.4	3.7	35.2	—
40歳代	126	74.6	38.9	15.9	19.8	—
50歳代	179	83.8	57.5	20.1	10.6	0.6
60歳代	153	85.0	65.4	12.4	7.8	3.9
70～74歳	57	94.7	80.7	19.3	—	1.8
75歳以上	102	84.3	82.4	12.7	4.9	5.9
女性18～29歳	56	73.2	23.2	10.7	17.9	1.8
30歳代	112	77.7	24.1	16.1	20.5	—
40歳代	175	81.7	52.6	14.3	11.4	2.9
50歳代	220	88.2	70.9	13.6	5.5	3.6
60歳代	179	91.6	89.4	16.2	1.7	2.2
70～74歳	60	90.0	85.0	16.7	3.3	3.3
75歳以上	132	90.2	92.4	17.4	0.8	4.5

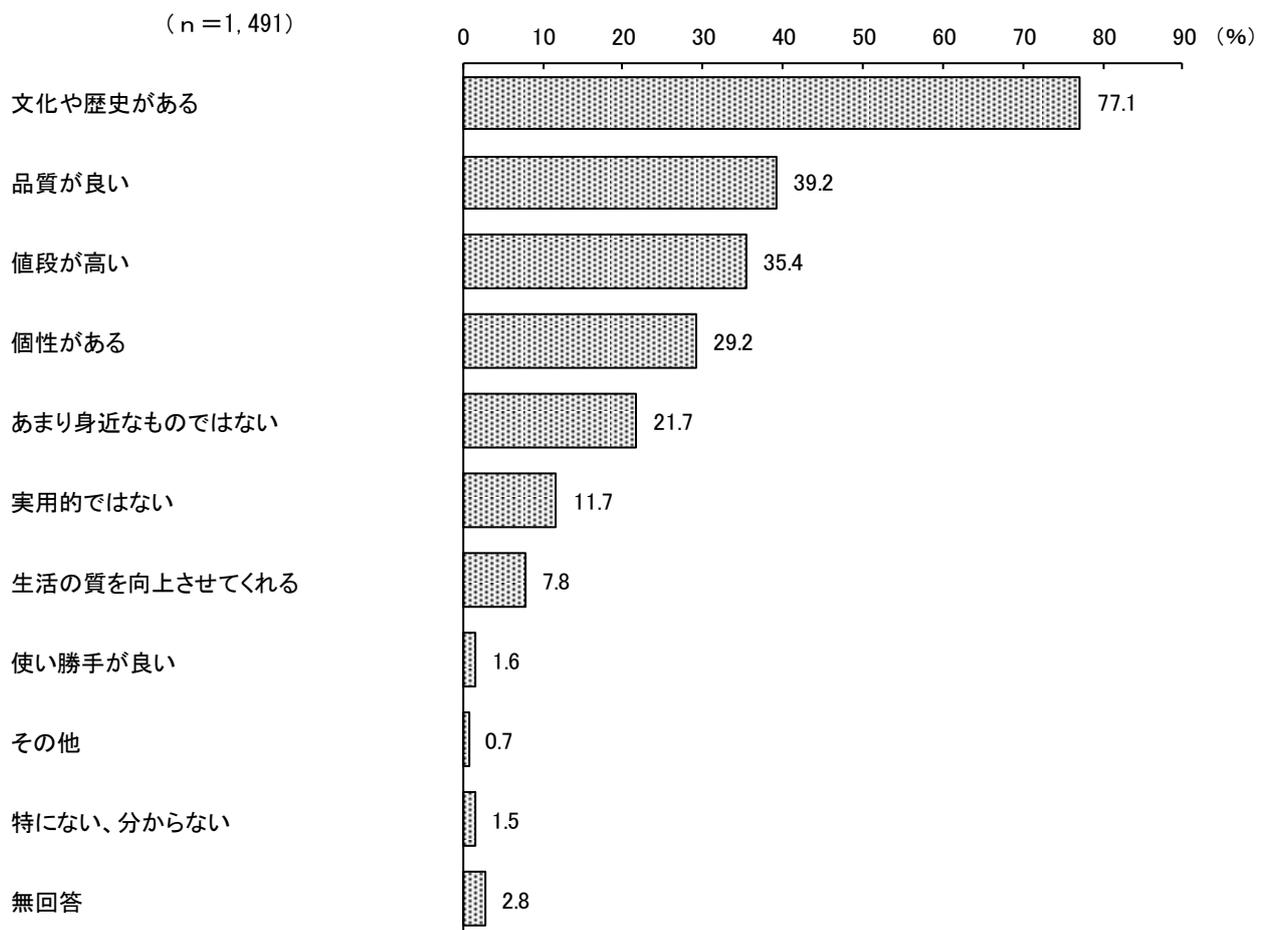
## 2 伝統的工芸品のイメージ【問4-1】

### 【全体の状況】

県の伝統的工芸品の認知度（問4）で、「鎌倉彫」、「箱根寄木細工」、「小田原漆器」のいずれかを知っていると回答した1,491人に、伝統的工芸品にどのようなイメージがあるか複数回答で尋ねたところ、「文化や歴史がある」が77.1%で最も多く、次いで「品質が良い」が39.2%であった。

（図表2-2-1）

図表2-2-1 伝統的工芸品のイメージ（複数回答）



図表2-2-2 伝統的工芸品のイメージ（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	文化や歴史がある	品質が良い	値段が高い	個性がある	あまり身近なものではない	実用的ではない	生活の質を向上させてくれる	使い勝手が良い	その他	特にない、分からない	無回答
全体	1,491	77.1	39.2	35.4	29.2	21.7	11.7	7.8	1.6	0.7	1.5	2.8
【地域別】												
横浜	584	80.7	41.3	36.8	28.4	21.4	11.8	8.0	0.9	0.3	1.2	3.6
川崎	201	76.1	36.8	32.8	29.9	23.9	11.4	7.0	1.5	1.5	1.0	3.0
相模原	103	73.8	35.0	24.3	32.0	28.2	10.7	5.8	-	1.0	1.0	3.9
横須賀三浦	105	72.4	34.3	38.1	29.5	24.8	17.1	8.6	-	1.0	1.9	1.0
県央	160	75.6	37.5	35.0	26.9	18.8	10.6	7.5	2.5	-	4.4	1.3
湘南	248	74.2	41.1	33.5	28.6	20.6	10.5	8.5	4.4	1.2	1.2	2.8
県西	70	74.3	42.9	50.0	34.3	14.3	12.9	7.1	1.4	1.4	-	-
【性・年代別】												
男性	601	71.0	33.6	28.3	31.8	25.5	11.3	5.2	1.3	0.7	2.5	2.2
女性	838	81.5	43.4	40.6	27.0	19.5	12.1	9.5	1.9	0.8	0.8	3.1
男性18～29歳	23	65.2	34.8	21.7	52.2	39.1	13.0	8.7	-	-	4.3	-
30歳代	35	60.0	34.3	31.4	25.7	40.0	11.4	5.7	-	2.9	5.7	2.9
40歳代	101	72.3	32.7	30.7	36.6	29.7	13.9	2.0	3.0	2.0	3.0	-
50歳代	159	74.8	34.0	25.2	25.8	25.2	10.7	3.8	0.6	-	2.5	2.5
60歳代	135	69.6	30.4	31.9	38.5	25.2	11.1	4.4	-	0.7	1.5	1.5
70～74歳	56	69.6	39.3	30.4	19.6	19.6	5.4	5.4	3.6	-	3.6	3.6
75歳以上	91	72.5	35.2	25.3	31.9	16.5	12.1	11.0	2.2	-	1.1	4.4
女性18～29歳	45	77.8	31.1	28.9	28.9	17.8	8.9	2.2	2.2	-	4.4	2.2
30歳代	89	76.4	42.7	39.3	21.3	27.0	10.1	6.7	3.4	-	1.1	1.1
40歳代	150	82.7	42.7	40.0	25.3	22.7	14.0	9.3	0.7	2.0	1.3	3.3
50歳代	200	84.0	44.0	40.0	28.5	22.0	17.0	9.5	1.5	1.0	-	1.5
60歳代	172	85.5	45.3	43.0	27.9	15.7	8.7	9.9	1.2	0.6	0.6	3.5
70～74歳	56	67.9	42.9	39.3	30.4	17.9	12.5	5.4	3.6	-	-	7.1
75歳以上	125	81.6	46.4	44.0	27.2	12.0	8.8	16.0	3.2	0.8	0.8	4.8

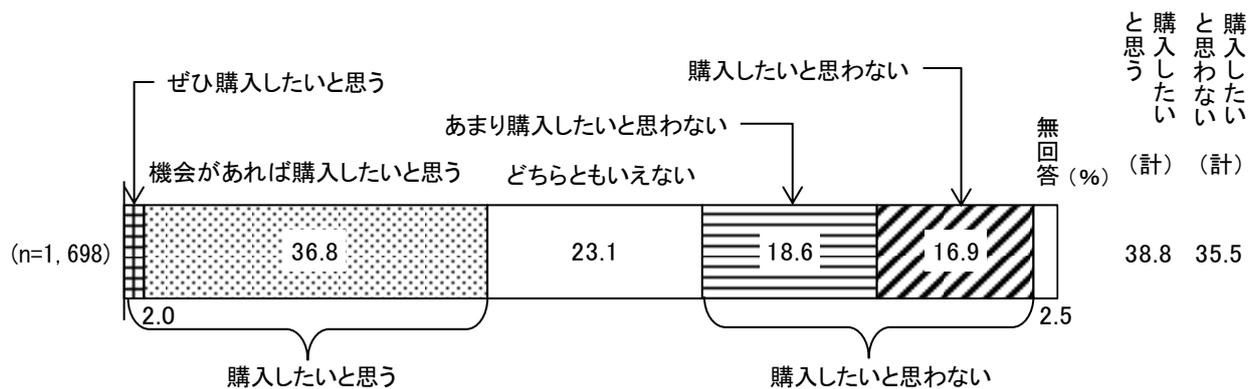
### 3 伝統的工芸品への購買意欲【問5】

#### 【全体の状況】

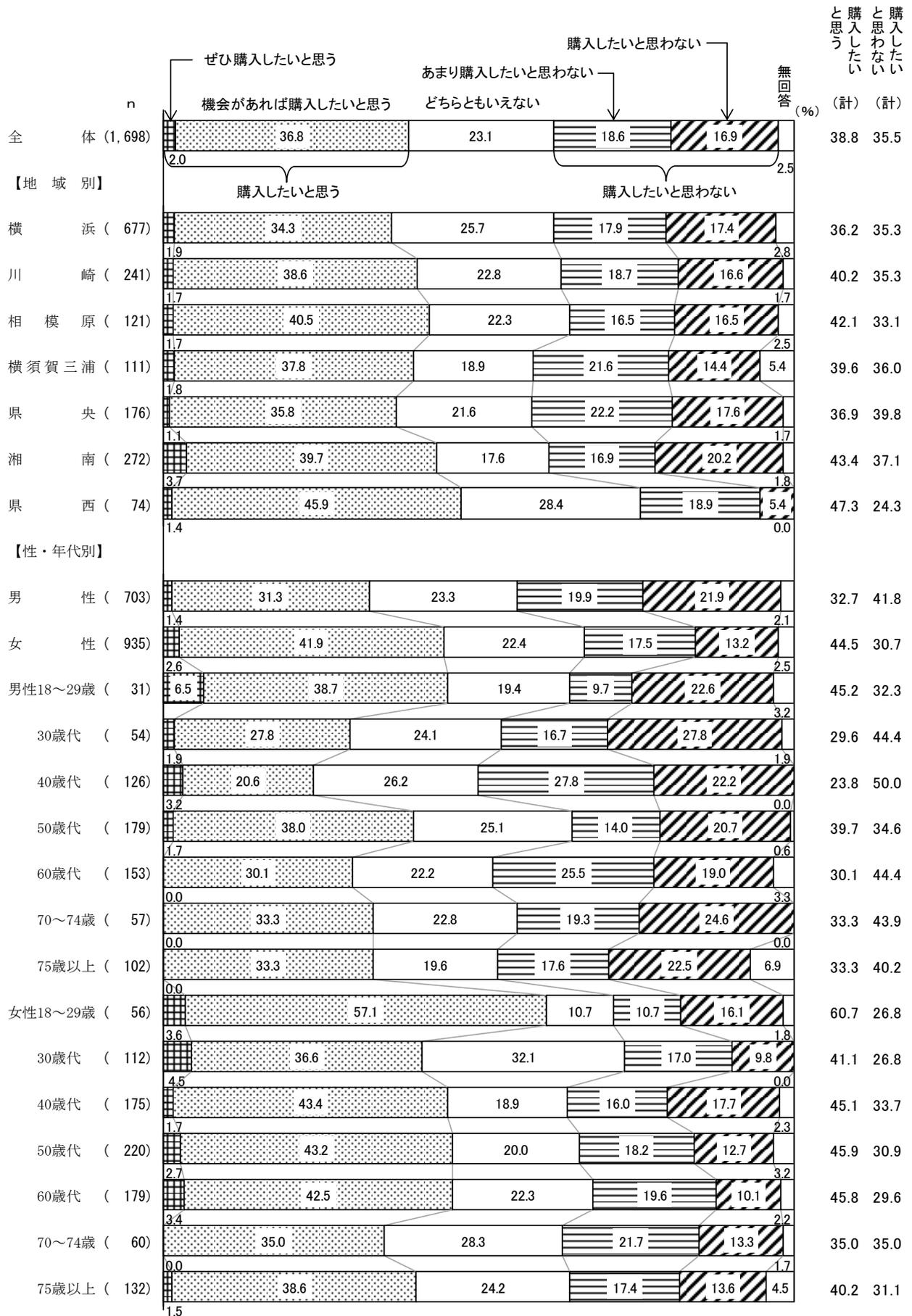
今後、伝統的工芸品を購入したいと思うか尋ねたところ、「ぜひ購入したいと思う」(2.0%)と「機会があれば購入したいと思う」(36.8%)を合わせた《購入したいと思う》は38.8%であった。

一方、「購入したいと思わない」(16.9%)と「あまり購入したいと思わない」(18.6%)を合わせた《購入したいと思わない》は35.5%であった。(図表2-3-1)

図表2-3-1 伝統的工芸品への購買意欲



図表2-3-2 伝統的工芸品への購買意欲—地域別、性・年代別



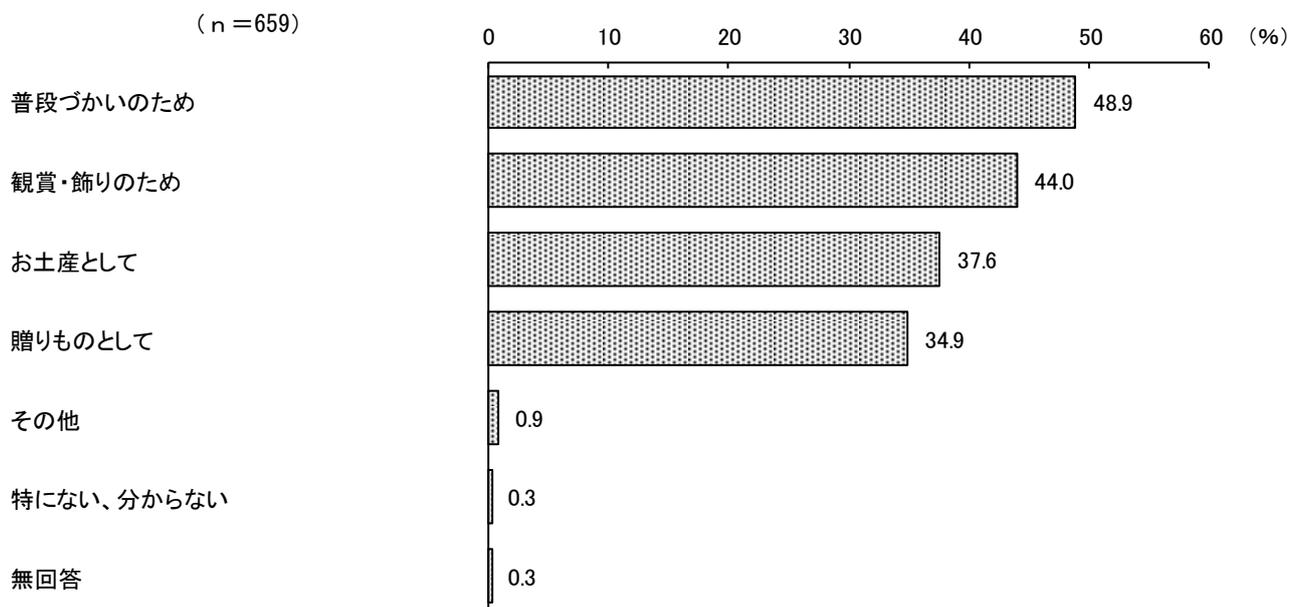
#### 4 伝統的工芸品を購入する目的【問5-1】

##### 【全体の状況】

伝統的工芸品への購買意欲（問5）で、「ぜひ購入したいと思う」または「機会があれば購入したいと思う」と回答した659人に、購入するとしたら何のためか複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「普段づかいのため」が48.9%で最も多く、次いで「観賞・飾りのため」が44.0%であった。

（図表2-4-1）

図表2-4-1 伝統的工芸品を購入する目的（複数回答）



図表2-4-2 伝統的工芸品を購入する目的（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

	n	普段づかいのため	観賞・飾りのため	お土産として	贈りものとして	その他	特にない、分からない	無回答
全 体	659	48.9	44.0	37.6	34.9	0.9	0.3	0.3
【地 域 別】								
横 浜	245	45.7	47.3	43.3	33.5	0.8	-	-
川 崎	97	49.5	42.3	40.2	30.9	1.0	1.0	-
相 模 原	51	45.1	47.1	37.3	27.5	-	-	-
横 須 賀 三 浦	44	52.3	36.4	29.5	40.9	-	2.3	2.3
県 央	65	46.2	43.1	33.8	40.0	-	-	-
湘 南	118	55.9	39.0	32.2	39.0	1.7	-	0.8
県 西	35	54.3	51.4	28.6	34.3	2.9	-	-
【性・年代別】								
男 性	230	41.3	52.6	36.1	32.6	0.4	-	0.4
女 性	416	53.4	39.7	38.2	35.8	1.2	0.5	0.2
男性18～29歳	14	28.6	50.0	57.1	64.3	-	-	-
30歳代	16	31.3	81.3	37.5	43.8	-	-	-
40歳代	30	50.0	50.0	36.7	30.0	3.3	-	3.3
50歳代	71	33.8	47.9	42.3	32.4	-	-	-
60歳代	46	47.8	56.5	37.0	30.4	-	-	-
70～74歳	19	47.4	42.1	21.1	31.6	-	-	-
75歳以上	34	47.1	52.9	20.6	20.6	-	-	-
女性18～29歳	34	32.4	50.0	47.1	35.3	-	-	2.9
30歳代	46	56.5	39.1	45.7	34.8	2.2	-	-
40歳代	79	40.5	46.8	50.6	38.0	-	-	-
50歳代	101	53.5	42.6	40.6	35.6	1.0	1.0	-
60歳代	82	69.5	31.7	30.5	31.7	-	1.2	-
70～74歳	21	52.4	23.8	33.3	38.1	14.3	-	-
75歳以上	53	58.5	35.8	17.0	39.6	-	-	-

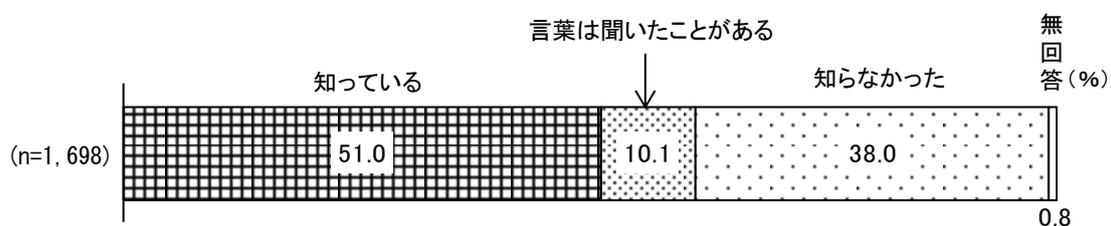
### 第3章 2027年国際園芸博覧会【問6～問7】

#### 1 GREEN×EXPO 2027の認知度【問6】

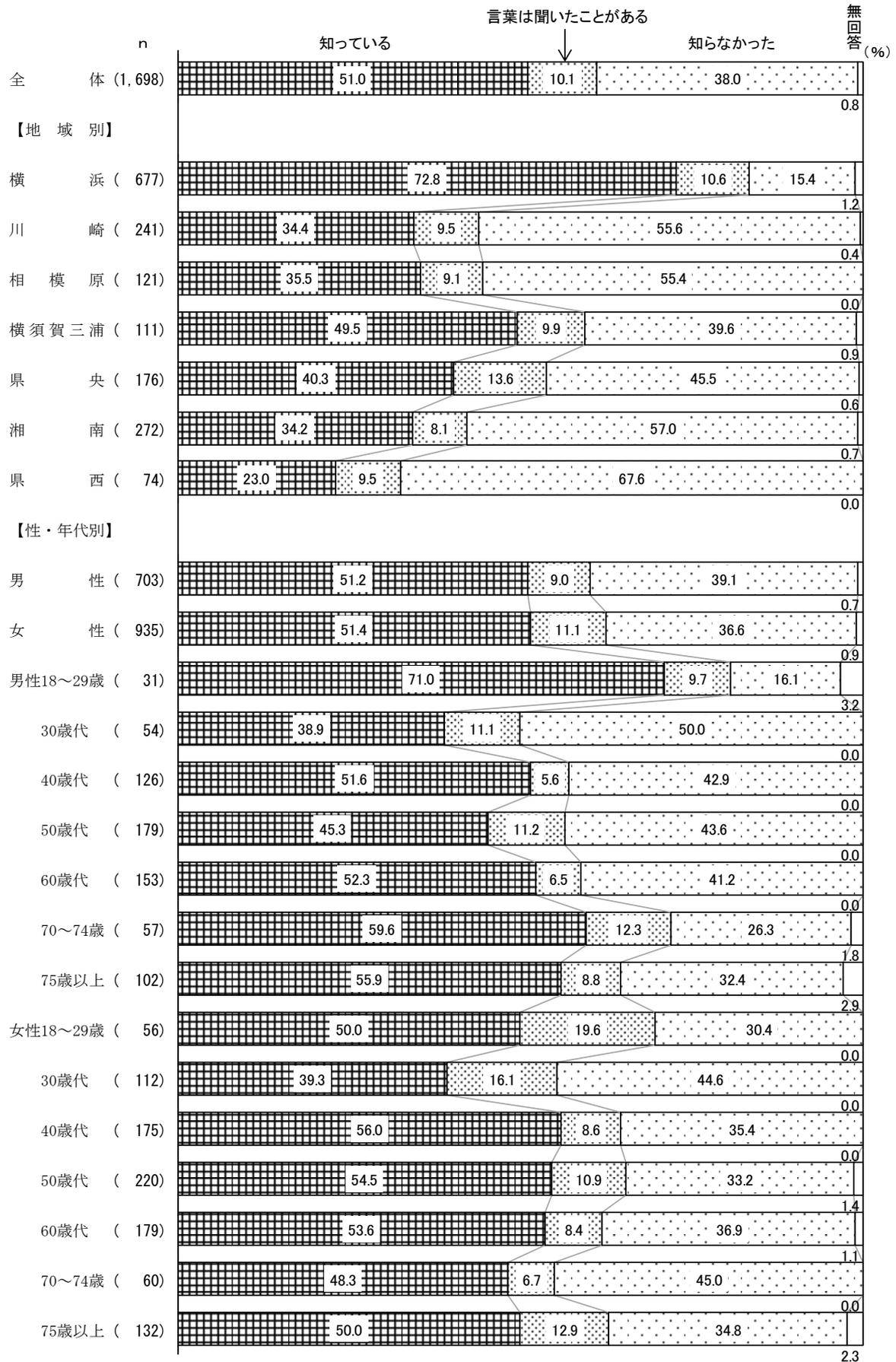
##### 【全体の状況】

「2027年国際園芸博覧会（正式略称：GREEN×EXPO 2027）」が開催されることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が51.0%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が10.1%であった。一方、「知らなかった」が38.0%であった。（図表3-1-1）

図表3-1-1 GREEN×EXPO 2027の認知度



図表3-1-2 GREEN×EXPO 2027の認知度—地域別、性・年代別



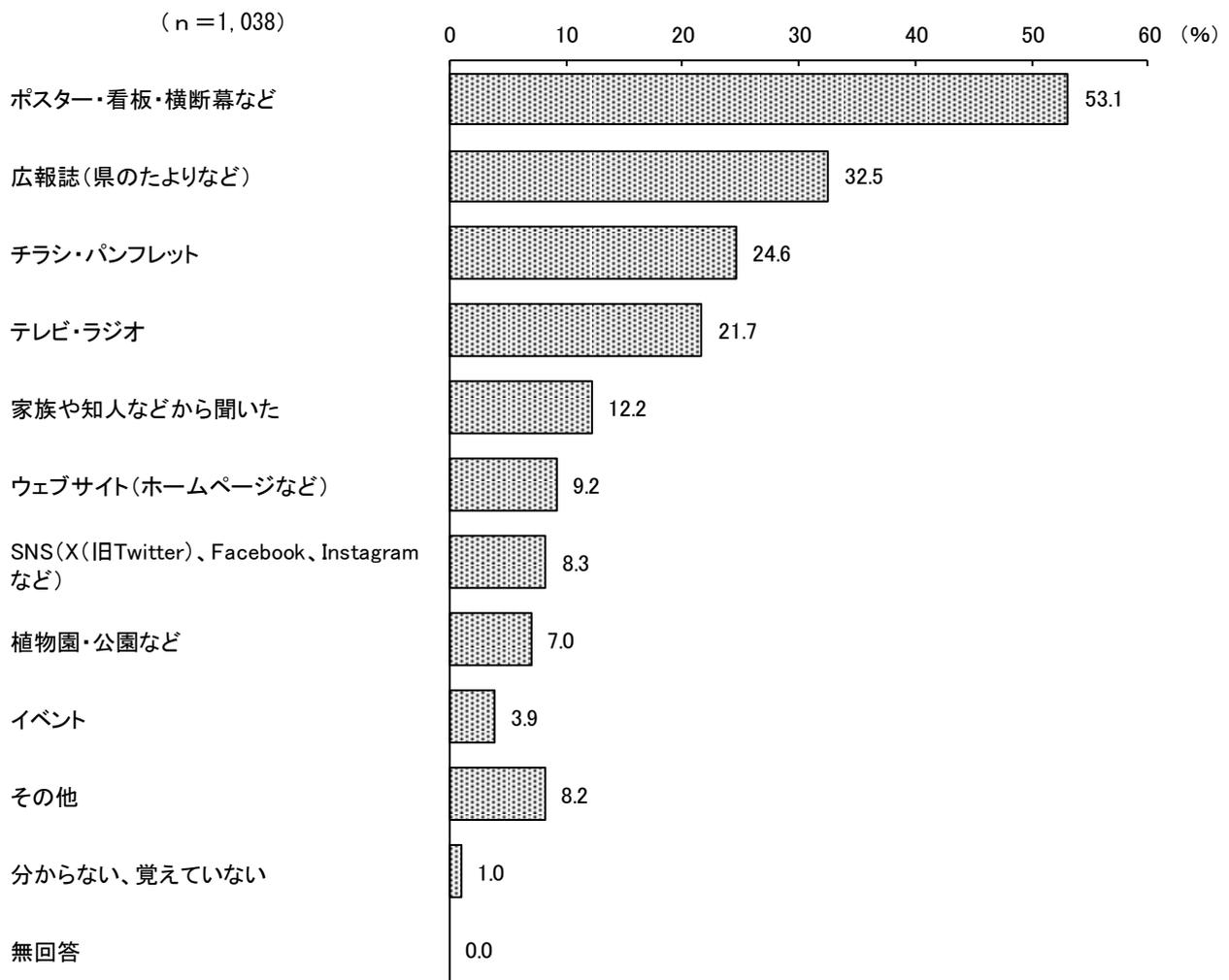
## 2 GREEN×EXPO 2027を知ったきっかけ【問6-1】

### 【全体の状況】

GREEN×EXPO 2027の認知度（問6）で、「知っている」または「言葉は聞いたことがある」と回答した1,038人に、GREEN×EXPO 2027を知ったきっかけについて複数回答で尋ねたところ、「ポスター・看板・横断幕など」が53.1%で最も多く、次いで「広報誌（県のたよりなど）」が32.5%であった。

（図表3-2-1）

図表3-2-1 GREEN×EXPO 2027を知ったきっかけ（複数回答）



図表3-2-2 GREEN×EXPO 2027を知ったきっかけ（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

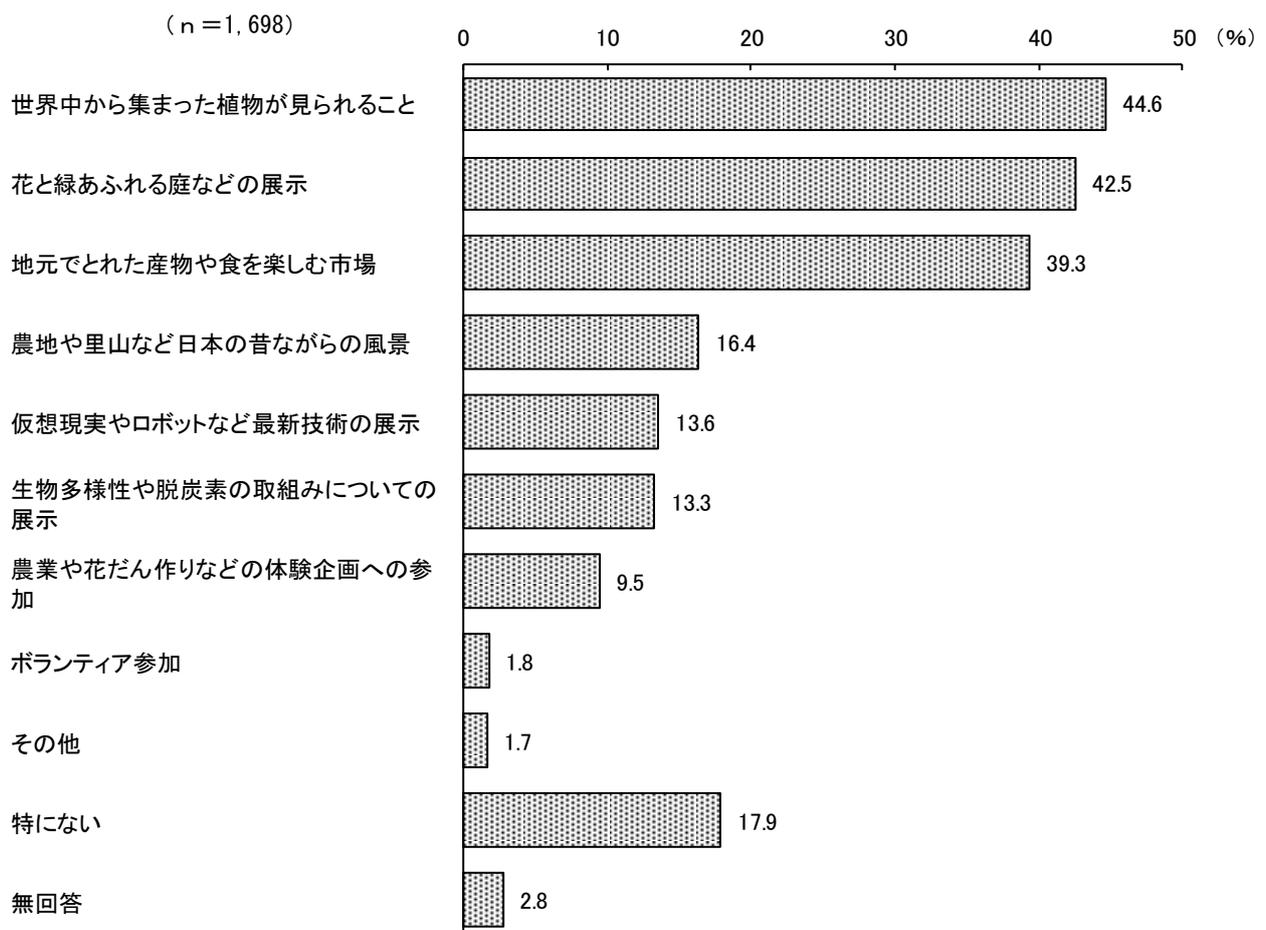
	n	ポスター・看板・横断幕など	広報誌（県のたよりなど）	チラシ・パンフレット	テレビ・ラジオ	家族や知人などから聞いた	ウェブサイト（ホームページなど）	Instagramなど	SNS（X（旧Twitter）、Facebook、Twitterなど）	植物園・公園など	イベント	その他	分からない、覚えていない	無回答
全体	1,038	53.1	32.5	24.6	21.7	12.2	9.2	8.3	7.0	3.9	8.2	1.0	-	
【地域別】														
横浜	565	68.5	40.7	31.9	16.8	10.1	8.8	5.7	9.0	4.2	6.9	0.7	-	
川崎	106	36.8	16.0	17.0	26.4	15.1	10.4	13.2	4.7	5.7	10.4	0.9	-	
相模原	54	24.1	20.4	13.0	35.2	18.5	14.8	11.1	3.7	1.9	5.6	3.7	-	
横須賀三浦	66	42.4	19.7	12.1	22.7	10.6	9.1	9.1	4.5	3.0	9.1	1.5	-	
県央	95	37.9	22.1	16.8	24.2	13.7	11.6	10.5	2.1	1.1	12.6	1.1	-	
湘南	115	30.4	26.1	16.5	28.7	15.7	6.1	13.9	7.0	4.3	9.6	-	-	
県西	24	20.8	37.5	16.7	45.8	12.5	4.2	4.2	-	-	8.3	4.2	-	
【性・年代別】														
男性	423	53.0	31.2	27.0	24.1	10.6	12.5	7.6	5.2	4.3	8.3	1.7	-	
女性	585	53.8	33.2	23.1	20.0	12.8	7.0	8.9	8.2	3.6	8.0	0.5	-	
男性18～29歳	25	64.0	4.0	12.0	8.0	32.0	4.0	8.0	4.0	4.0	8.0	-	-	
30歳代	27	70.4	7.4	29.6	-	14.8	25.9	25.9	14.8	7.4	-	3.7	-	
40歳代	72	59.7	16.7	34.7	18.1	9.7	13.9	8.3	8.3	9.7	6.9	2.8	-	
50歳代	101	44.6	26.7	21.8	22.8	13.9	13.9	7.9	5.0	3.0	8.9	2.0	-	
60歳代	90	55.6	34.4	33.3	31.1	8.9	13.3	7.8	3.3	1.1	10.0	-	-	
70～74歳	41	46.3	48.8	26.8	46.3	4.9	9.8	4.9	2.4	4.9	9.8	2.4	-	
75歳以上	66	48.5	59.1	22.7	24.2	3.0	7.6	-	3.0	3.0	9.1	1.5	-	
女性18～29歳	39	61.5	7.7	12.8	10.3	17.9	2.6	15.4	10.3	-	2.6	2.6	-	
30歳代	62	61.3	12.9	17.7	6.5	8.1	8.1	16.1	12.9	8.1	8.1	-	-	
40歳代	113	58.4	20.4	27.4	15.0	15.0	7.1	12.4	9.7	4.4	10.6	0.9	-	
50歳代	144	56.3	30.6	18.8	20.1	11.8	9.7	10.4	8.3	4.2	10.4	0.7	-	
60歳代	111	55.9	43.2	28.8	16.2	16.2	6.3	4.5	6.3	2.7	6.3	-	-	
70～74歳	33	42.4	51.5	30.3	33.3	3.0	6.1	3.0	6.1	3.0	6.1	-	-	
75歳以上	83	36.1	61.4	22.9	41.0	12.0	4.8	1.2	4.8	1.2	6.0	-	-	

### 3 GREEN×EXPO 2027に期待すること【問7】

#### 【全体の状況】

GREEN×EXPO 2027に期待することを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「世界中から集まった植物が見られること」が44.6%で最も多く、次いで「花と緑あふれる庭などの展示」が42.5%であった。（図表3-3-1）

図表3-3-1 GREEN×EXPO 2027に期待すること（複数回答）



図表3-3-2 GREEN×EXPO 2027に期待すること（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	世界中から集まった植物が見られること	花と緑あふれる庭などの展示	地元でとれた産物や食を楽しむ市場	農地や里山など日本の昔ながらの風景	仮想現実やロボットなど最新技術の展示	生物多様性や脱炭素の取組みについての展示	農業や花だん作りなどの体験企画への参加	ボランティア参加	その他	特にない	無回答
全体	1,698	44.6	42.5	39.3	16.4	13.6	13.3	9.5	1.8	1.7	17.9	2.8
【地域別】												
横浜	677	47.7	46.2	38.7	17.4	12.7	13.4	9.5	2.5	2.2	15.2	3.7
川崎	241	40.7	39.0	41.5	17.8	13.7	12.9	12.4	2.1	1.2	19.5	1.2
相模原	121	44.6	38.8	41.3	11.6	13.2	10.7	5.0	1.7	0.8	26.4	1.7
横須賀三浦	111	36.9	36.0	34.2	12.6	10.8	17.1	11.7	-	1.8	21.6	3.6
県央	176	39.2	44.9	41.5	19.9	13.6	11.9	9.7	0.6	0.6	19.9	0.6
湘南	272	52.2	39.0	40.1	12.1	12.5	14.7	8.5	1.1	1.5	16.9	3.3
県西	74	27.0	37.8	35.1	23.0	31.1	9.5	9.5	4.1	4.1	14.9	5.4
【性・年代別】												
男性	703	37.3	31.9	32.7	20.1	16.8	14.4	8.0	1.0	1.6	24.3	1.8
女性	935	50.8	49.9	44.6	13.7	11.2	12.6	10.7	2.6	1.9	12.6	3.5
男性18～29歳	31	35.5	19.4	32.3	12.9	22.6	19.4	9.7	-	-	22.6	-
30歳代	54	37.0	29.6	29.6	11.1	38.9	16.7	9.3	3.7	1.9	24.1	-
40歳代	126	42.1	27.8	36.5	11.1	20.6	15.1	10.3	3.2	4.0	23.0	-
50歳代	179	29.6	26.8	33.5	19.6	15.6	14.5	7.3	-	2.2	26.8	3.9
60歳代	153	32.7	34.0	33.3	20.9	15.0	15.7	9.2	0.7	0.7	25.5	-
70～74歳	57	45.6	38.6	31.6	22.8	3.5	3.5	3.5	-	-	29.8	5.3
75歳以上	102	47.1	43.1	28.4	36.3	10.8	14.7	5.9	-	-	17.6	2.9
女性18～29歳	56	42.9	41.1	41.1	23.2	16.1	8.9	19.6	7.1	1.8	17.9	1.8
30歳代	112	46.4	42.0	42.9	8.9	20.5	8.9	9.8	-	0.9	21.4	0.9
40歳代	175	51.4	43.4	52.0	12.0	10.3	11.4	14.9	2.3	3.4	14.9	2.9
50歳代	220	47.3	55.5	52.3	14.1	11.4	10.5	8.6	3.2	2.3	10.9	2.3
60歳代	179	52.0	54.2	44.1	14.0	7.8	13.4	8.9	3.9	1.1	8.9	5.0
70～74歳	60	48.3	50.0	35.0	18.3	11.7	18.3	10.0	1.7	3.3	11.7	1.7
75歳以上	132	62.9	53.8	29.5	12.9	6.8	18.2	8.3	0.8	0.8	8.3	8.3

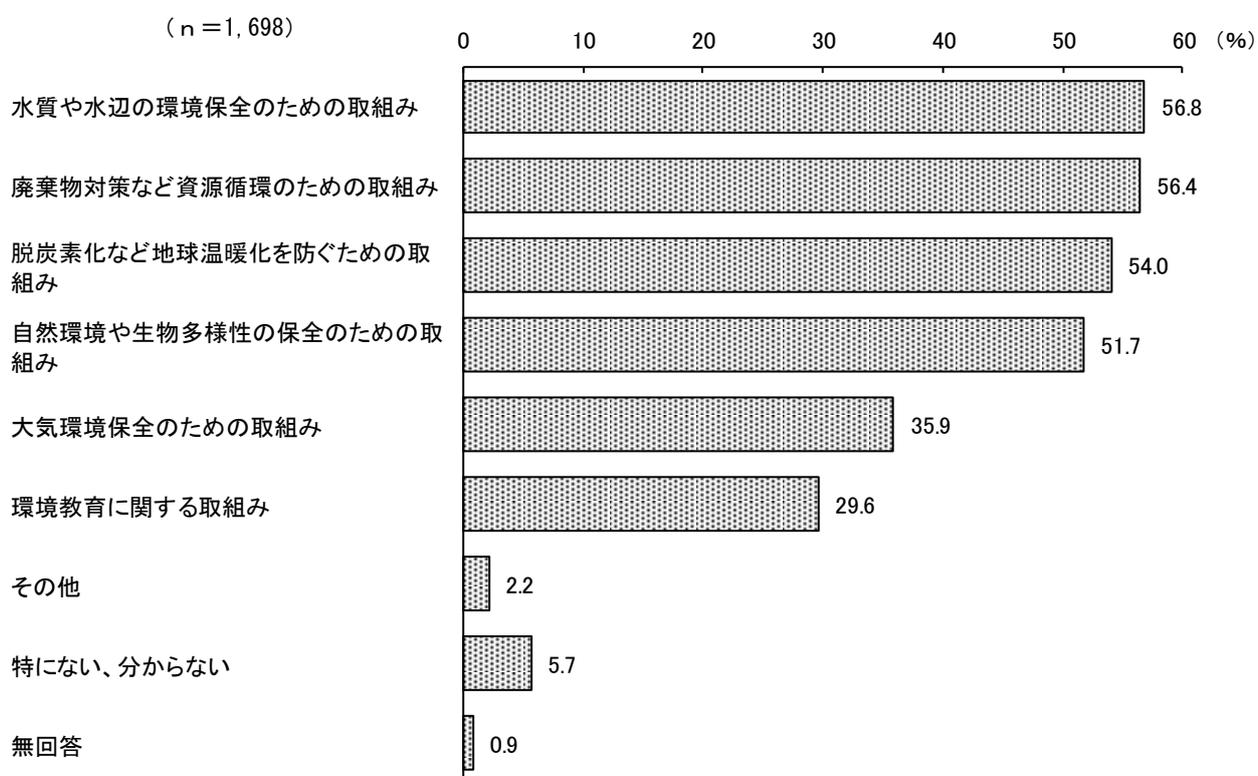
## 第4章 脱炭素・環境【問8～問11】

### 1 特に力を入れてほしい環境に関する取組み【問8】

#### 【全体の状況】

今後、県には環境に関するどのような取組みに対して、特に力を入れてほしいか複数回答で尋ねたところ、「水質や水辺の環境保全のための取組み」が56.8%で最も多く、次いで「廃棄物対策など資源循環のための取組み」が56.4%であった。（図表4-1-1）

図表4-1-1 特に力を入れてほしい環境に関する取組み（複数回答）



図表4-1-2 特に力を入れてほしい環境に関する取組み（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

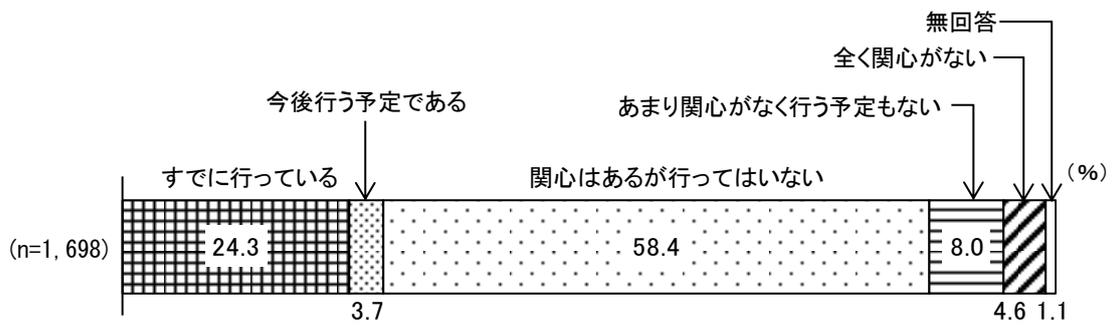
	n	水質や水辺の環境保全のための取組み	廃棄物対策など資源循環のための取組み	脱炭素化など地球温暖化を防ぐための取組み	自然環境や生物多様性の保全のための取組み	大気環境保全のための取組み	環境教育に関する取組み	その他	特にない、分からない	無回答
全体	1,698	56.8	56.4	54.0	51.7	35.9	29.6	2.2	5.7	0.9
【地域別】										
横浜	677	56.3	58.3	54.8	49.8	35.2	29.5	2.2	5.2	1.0
川崎	241	54.4	50.6	51.5	51.5	36.5	29.0	2.5	6.2	0.4
相模原	121	60.3	53.7	47.1	48.8	34.7	28.1	1.7	9.1	-
横須賀三浦	111	55.0	65.8	56.8	54.1	40.5	33.3	2.7	3.6	1.8
県央	176	59.1	55.1	50.0	51.1	38.1	23.9	1.1	6.3	1.1
湘南	272	57.0	53.7	54.0	54.4	32.4	32.7	3.3	5.5	1.5
県西	74	63.5	56.8	64.9	55.4	40.5	32.4	-	6.8	-
【性・年代別】										
男性	703	60.3	54.1	43.7	50.8	31.9	23.9	3.0	7.1	0.6
女性	935	54.9	58.2	61.1	52.5	38.2	34.1	1.5	4.6	1.2
男性18～29歳	31	51.6	54.8	35.5	48.4	45.2	32.3	6.5	6.5	-
30歳代	54	55.6	40.7	20.4	46.3	22.2	33.3	3.7	13.0	-
40歳代	126	64.3	51.6	37.3	52.4	29.4	26.2	4.0	10.3	-
50歳代	179	64.8	53.6	40.2	51.4	36.3	25.1	4.5	5.0	-
60歳代	153	60.8	52.3	54.2	52.3	28.8	19.0	1.3	7.2	-
70～74歳	57	57.9	66.7	45.6	59.6	26.3	24.6	-	5.3	1.8
75歳以上	102	52.9	60.8	54.9	43.1	36.3	18.6	2.0	4.9	2.9
女性18～29歳	56	51.8	51.8	46.4	48.2	23.2	33.9	-	10.7	-
30歳代	112	47.3	50.0	44.6	48.2	28.6	30.4	0.9	6.3	-
40歳代	175	60.6	61.1	58.9	51.4	37.7	42.9	1.7	5.1	-
50歳代	220	55.0	58.2	64.5	58.2	41.4	31.8	1.4	3.2	1.8
60歳代	179	53.6	56.4	67.0	54.2	41.9	32.4	2.2	2.2	1.7
70～74歳	60	56.7	51.7	68.3	55.0	38.3	40.0	1.7	5.0	-
75歳以上	132	55.3	68.9	66.7	46.2	42.4	28.8	1.5	5.3	3.0

## 2 脱炭素を意識した取組み【問9】

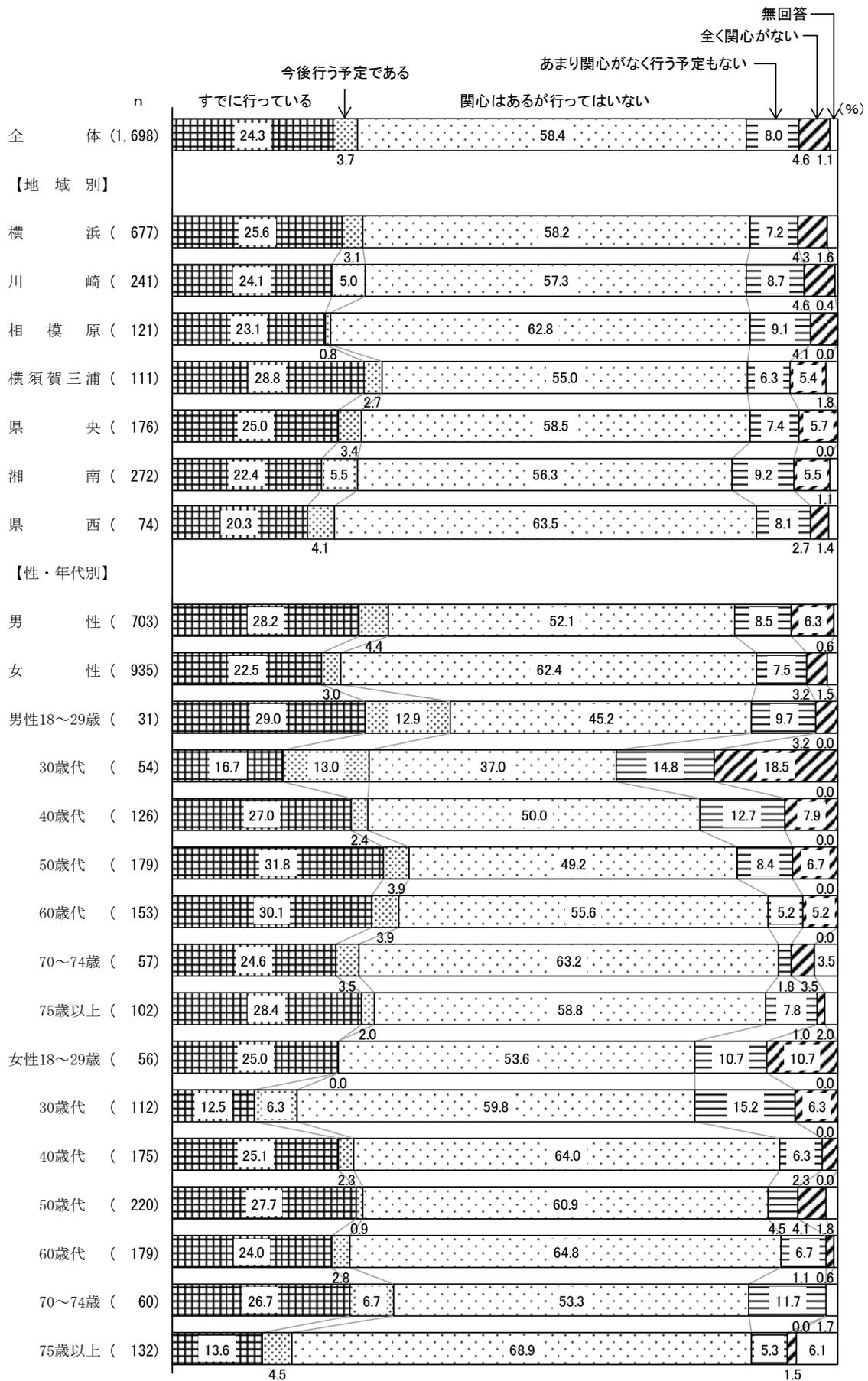
### 【全体の状況】

省エネや再エネの導入など、脱炭素を意識した取組みを行っているか尋ねたところ、「関心はあるが行ってはいない」が58.4%で最も多く、次いで「すでに行っている」が24.3%であった。(図表4-2-1)

図表4-2-1 脱炭素を意識した取組み



図表4-2-2 脱炭素を意識した取組み—地域別、性・年代別

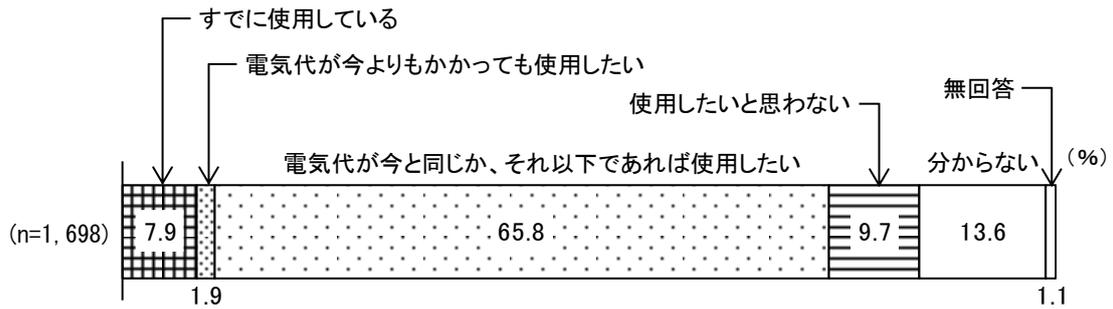


### 3 再生可能エネルギー由来の電力の使用意向【問10】

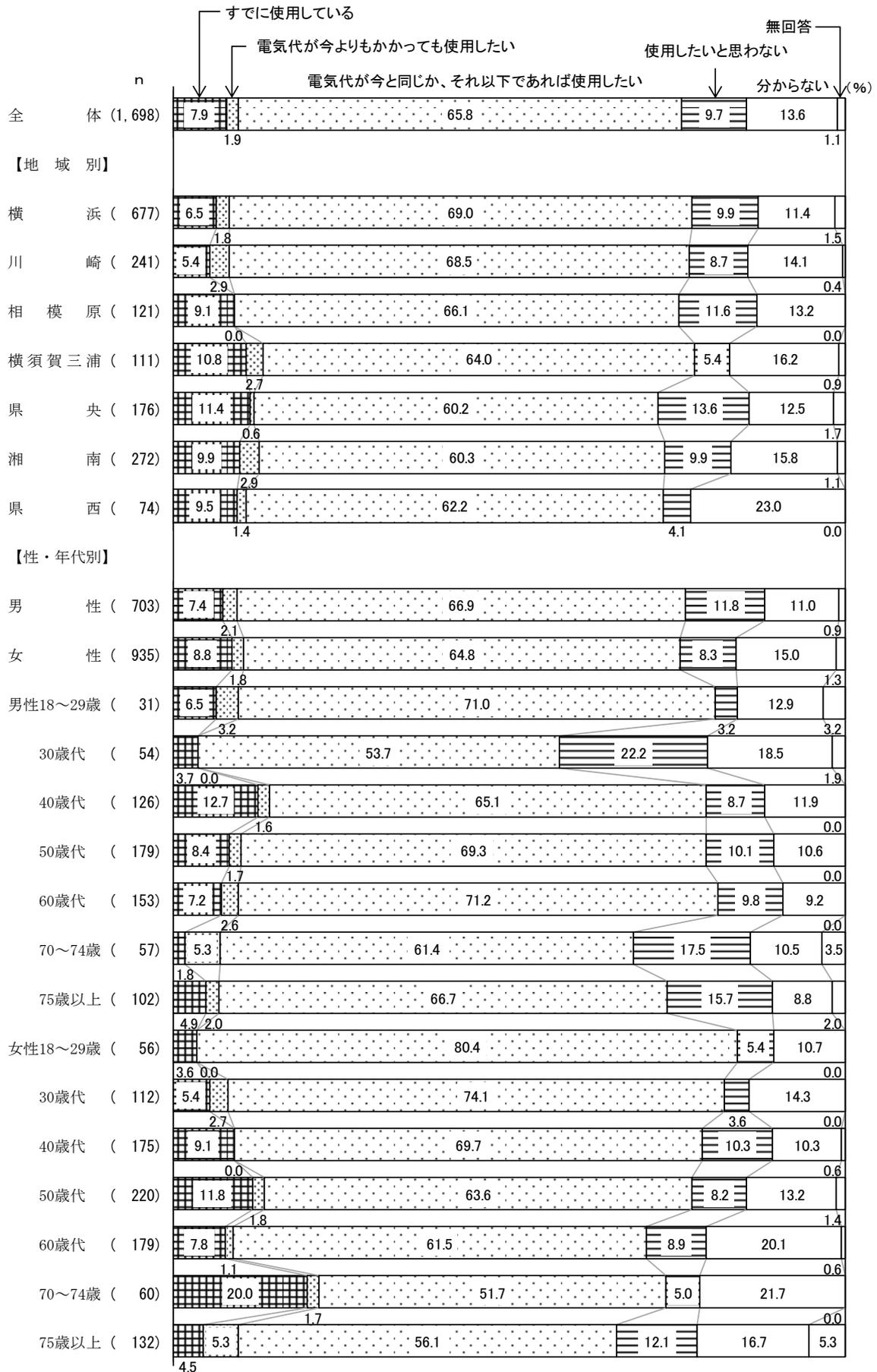
#### 【全体の状況】

家で使用する電力について、再エネ由来の電力を使用したいと思うか尋ねたところ、「電気代が今と同じか、それ以下であれば使用したい」が65.8%で最も多く、次いで「使用したいと思わない」が9.7%であった。（図表4-3-1）

図表4-3-1 再生可能エネルギー由来の電力の使用意向



図表4-3-2 再生可能エネルギー由来の電力の使用意向—地域別、性・年代別



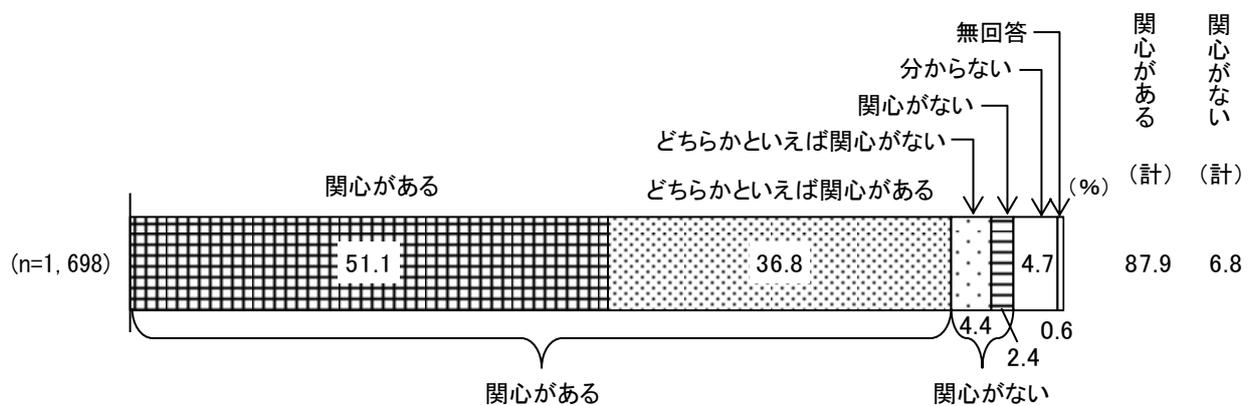
#### 4 「気候変動への適応」への関心【問11】

##### 【全体の状況】

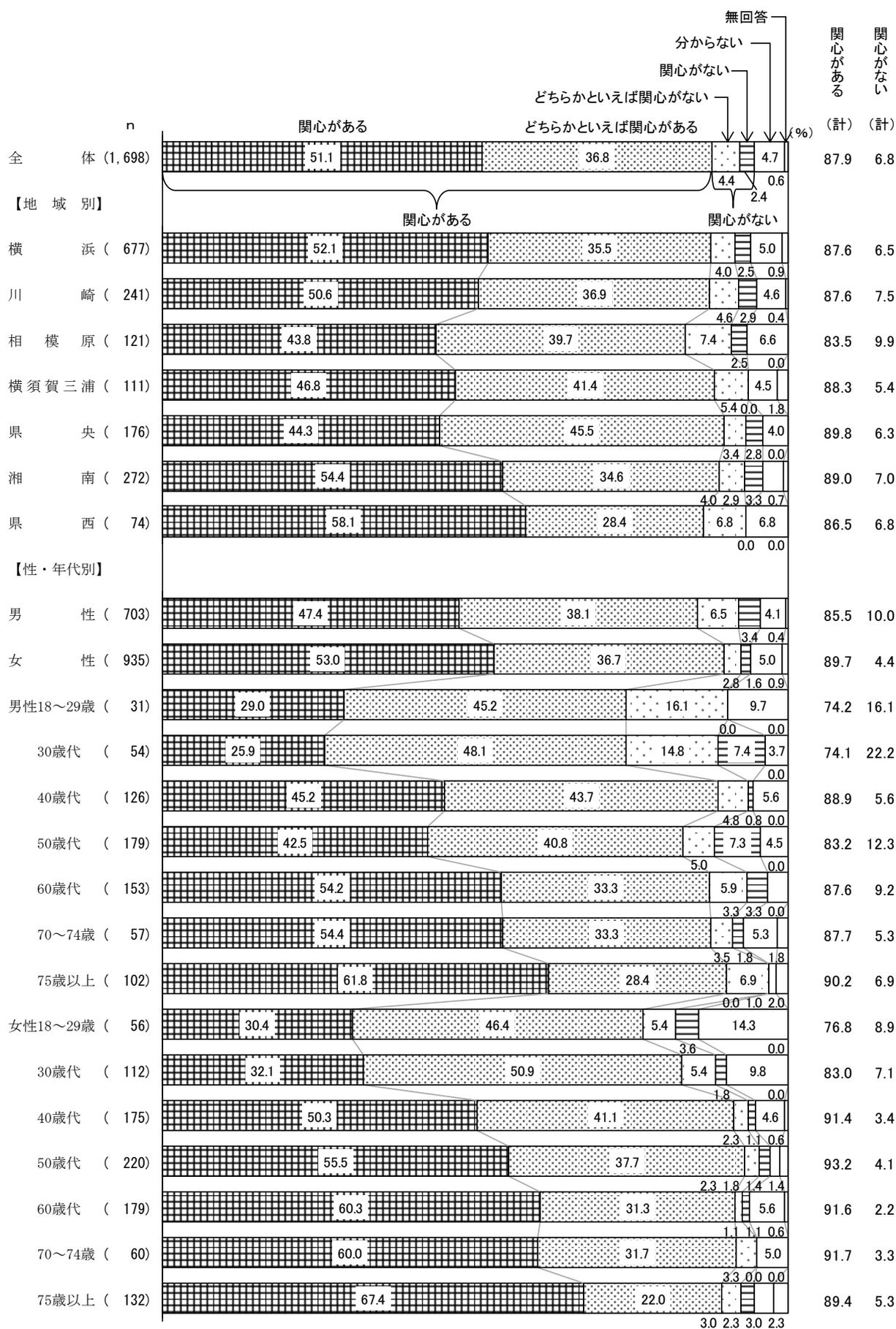
「気候変動への適応」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(51.1%)と「どちらかといえば関心がある」(36.8%)を合わせた《関心がある》は87.9%であった。

一方、「関心がない」(2.4%)と「どちらかといえば関心がない」(4.4%)を合わせた《関心がない》は6.8%であった。(図表4-4-1)

図表4-4-1 「気候変動への適応」への関心



図表4-4-2 「気候変動への適応」への関心—地域別、性・年代別



## 第5章 生物多様性【問12～問14】

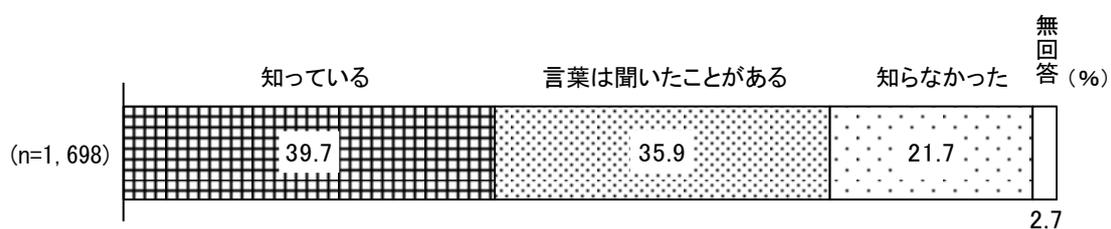
### 1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度【問12】

#### 【全体の状況】

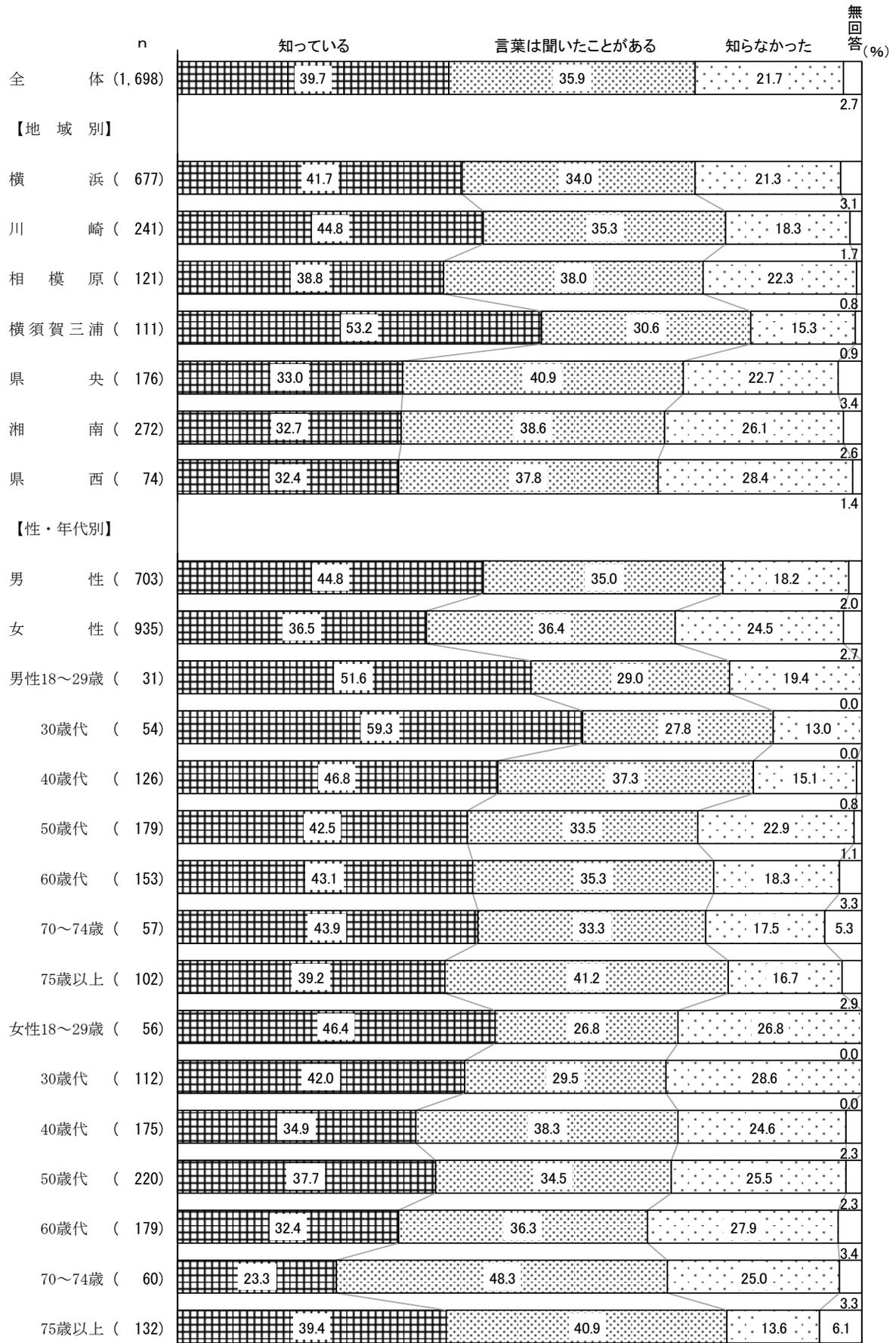
「生物多様性」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」が39.7%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が35.9%であった。

一方、「知らなかった」が21.7%であった。(図表5-1-1)

図表5-1-1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度



図表5-1-2 「生物多様性」の言葉の意味の認知度—地域別、性・年代別



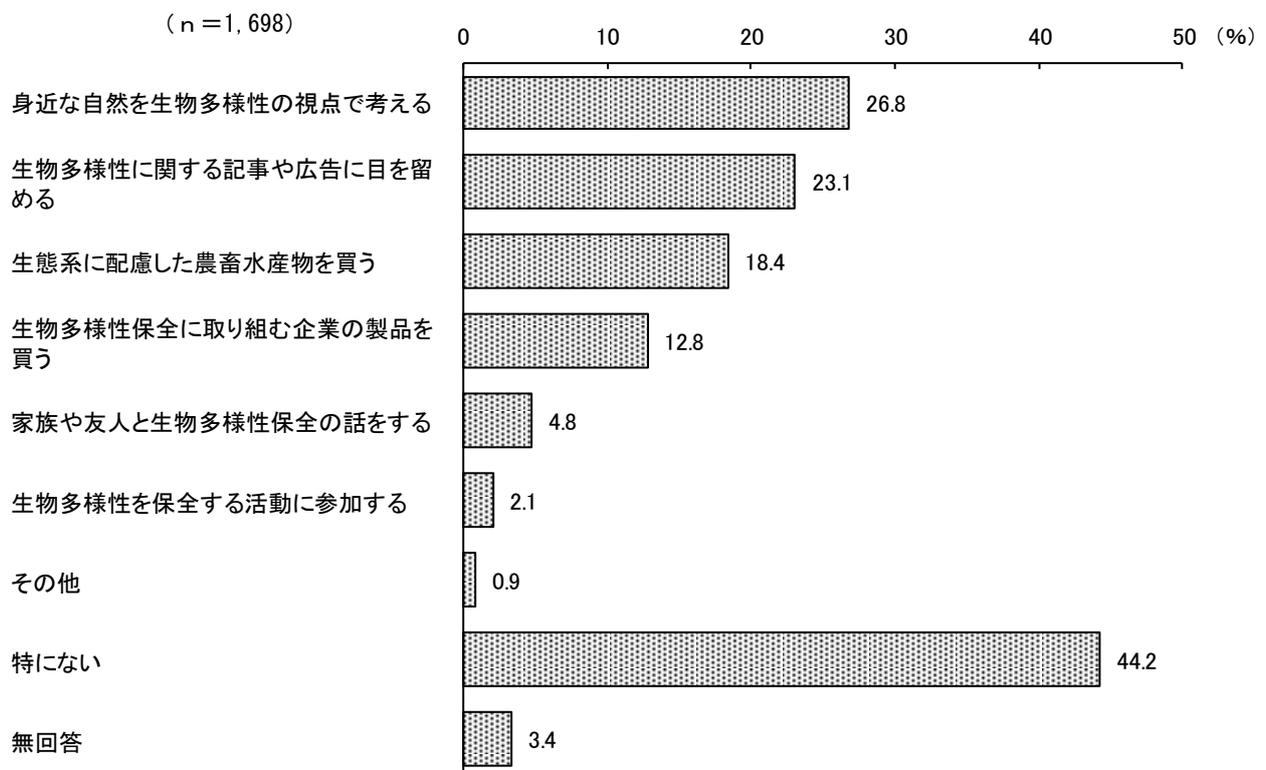
## 2 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること【問13】

### 【全体の状況】

生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることを複数回答で尋ねたところ、「身近な自然を生物多様性の視点で考える」が26.8%で最も多く、次いで「生物多様性に関する記事や広告に目を留める」が23.1%であった。

一方、「特にない」が44.2%であった。(図表 5-2-1)

図表5-2-1 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること  
(複数回答)



図表5-2-2 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること  
(複数回答) - 地域別、性・年代別

(%)

	n	身近な自然を生物多様性の視点で考える	生物多様性に関する記事や広告に目を留める	生態系に配慮した農畜水産物を買う	生物多様性保全に取り組む企業の製品を買う	家族や友人と生物多様性保全の話をする	生物多様性を保全する活動に参加する	その他	特にない	無回答
全 体	1,698	26.8	23.1	18.4	12.8	4.8	2.1	0.9	44.2	3.4
【地 域 別】										
横 浜	677	25.1	24.4	17.4	12.1	4.7	1.9	0.9	46.1	3.8
川 崎	241	27.8	20.3	18.3	12.4	5.8	2.5	1.2	44.8	1.7
相 模 原	121	23.1	23.1	19.0	12.4	4.1	1.7	1.7	47.1	0.8
横 須 賀 三 浦	111	36.9	24.3	18.0	13.5	9.0	1.8	0.9	35.1	3.6
県 央	176	22.7	18.8	19.9	10.2	4.0	1.1	0.6	44.3	5.1
湘 南	272	30.5	25.4	19.1	14.3	4.0	3.3	1.1	41.2	2.6
県 西	74	25.7	18.9	18.9	17.6	4.1	2.7	-	51.4	2.7
【性・年代別】										
男 性	703	31.6	22.5	15.1	10.0	4.0	2.7	1.1	45.8	1.7
女 性	935	24.0	23.7	20.7	14.9	5.5	1.8	0.9	43.5	4.0
男性18~29歳	31	25.8	16.1	3.2	3.2	6.5	3.2	-	58.1	-
30歳代	54	33.3	13.0	13.0	7.4	5.6	-	3.7	44.4	-
40歳代	126	27.8	14.3	13.5	8.7	3.2	5.6	2.4	54.8	0.8
50歳代	179	27.4	24.0	13.4	11.2	6.7	2.2	0.6	50.8	0.6
60歳代	153	35.9	23.5	17.0	10.5	2.6	2.6	-	41.2	3.3
70~74歳	57	38.6	29.8	10.5	10.5	1.8	-	-	36.8	3.5
75歳以上	102	33.3	31.4	24.5	11.8	2.0	2.9	2.0	35.3	2.9
女性18~29歳	56	19.6	23.2	8.9	7.1	5.4	-	-	58.9	-
30歳代	112	24.1	20.5	13.4	8.0	7.1	0.9	-	58.0	-
40歳代	175	22.9	20.6	21.1	10.9	8.6	4.6	1.1	48.6	2.3
50歳代	220	23.6	22.3	20.5	16.4	6.4	2.3	0.5	43.2	2.7
60歳代	179	24.0	27.9	25.1	20.1	1.1	-	1.1	36.3	5.0
70~74歳	60	23.3	20.0	16.7	8.3	5.0	1.7	1.7	41.7	6.7
75歳以上	132	27.3	29.5	28.0	22.7	4.5	0.8	1.5	29.5	10.6

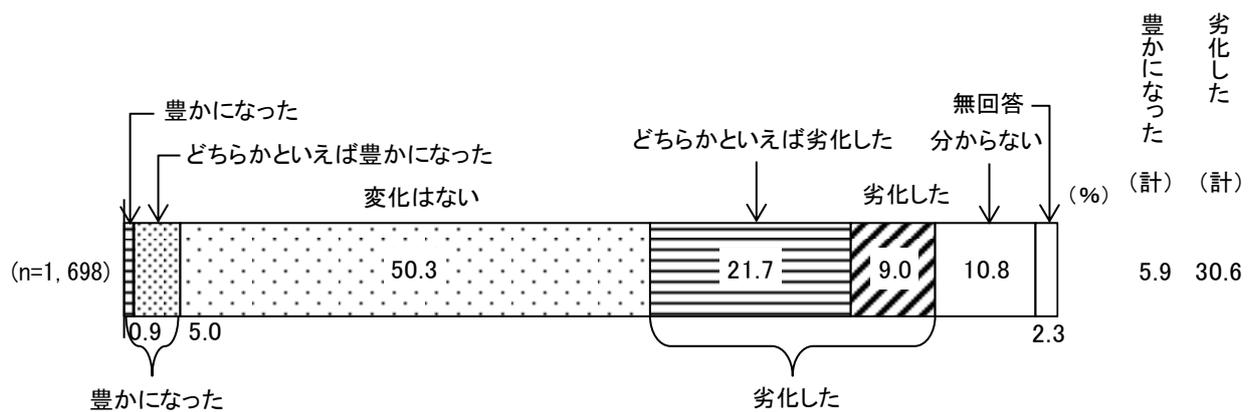
### 3 周辺地域の自然環境の変化【問14】

#### 【全体の状況】

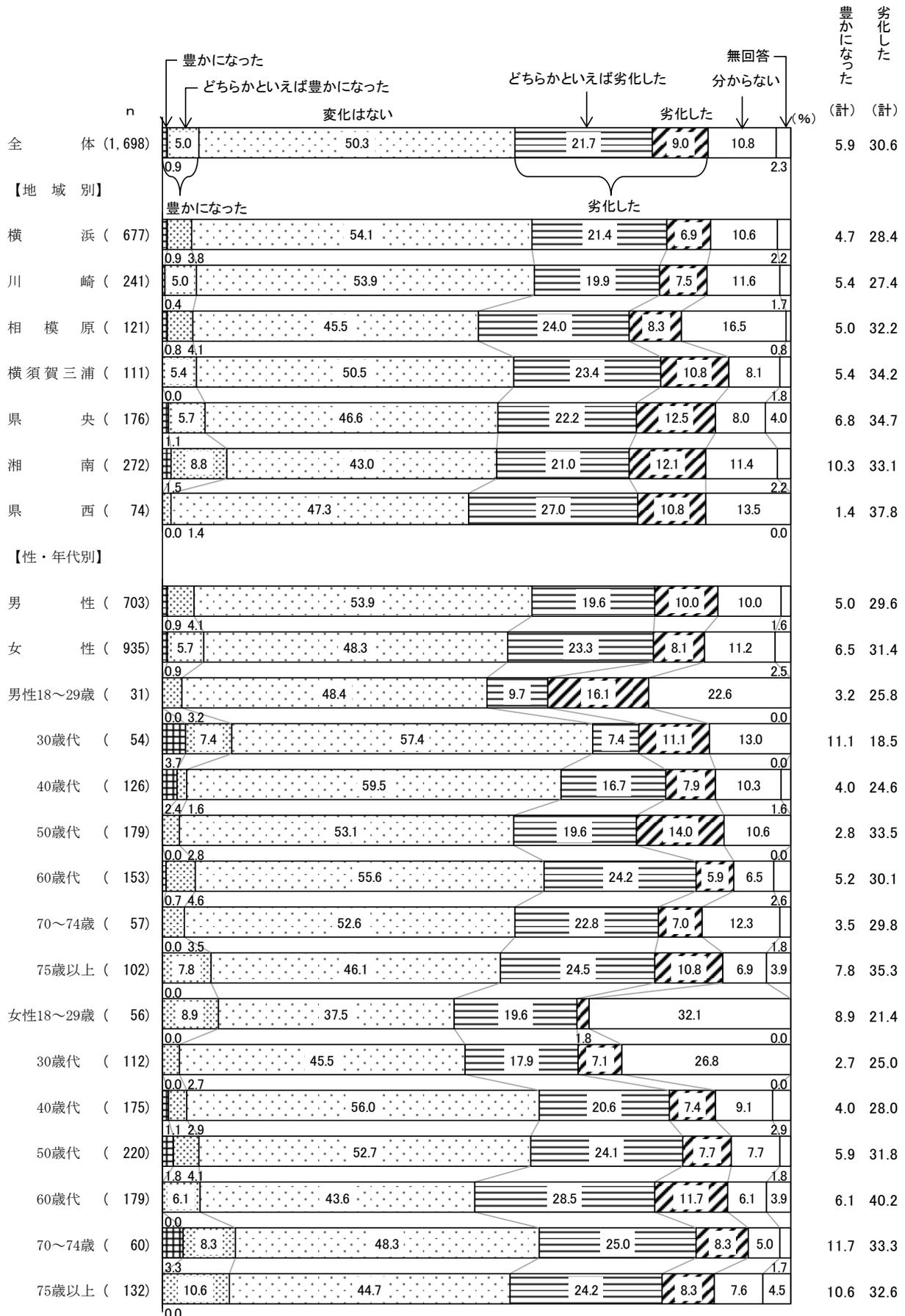
周辺地域の自然環境の変化について尋ねたところ、「豊かになった」(0.9%)と「どちらかといえば豊かになった」(5.0%)を合わせた《豊かになった》は5.9%であった。

一方、「劣化した」(9.0%)と「どちらかといえば劣化した」(21.7%)を合わせた《劣化した》は30.6%であった。(図表5-3-1)

図表5-3-1 周辺地域の自然環境の変化



図表5-3-2 周辺地域の自然環境の変化—地域別、性・年代別



## 第6章 「未病改善」の取組み【問15～問18】

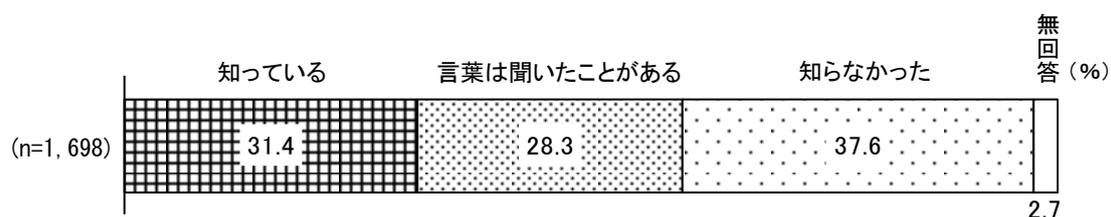
### 1 「未病（ME-BYO）」の認知度【問15】

#### 【全体の状況】

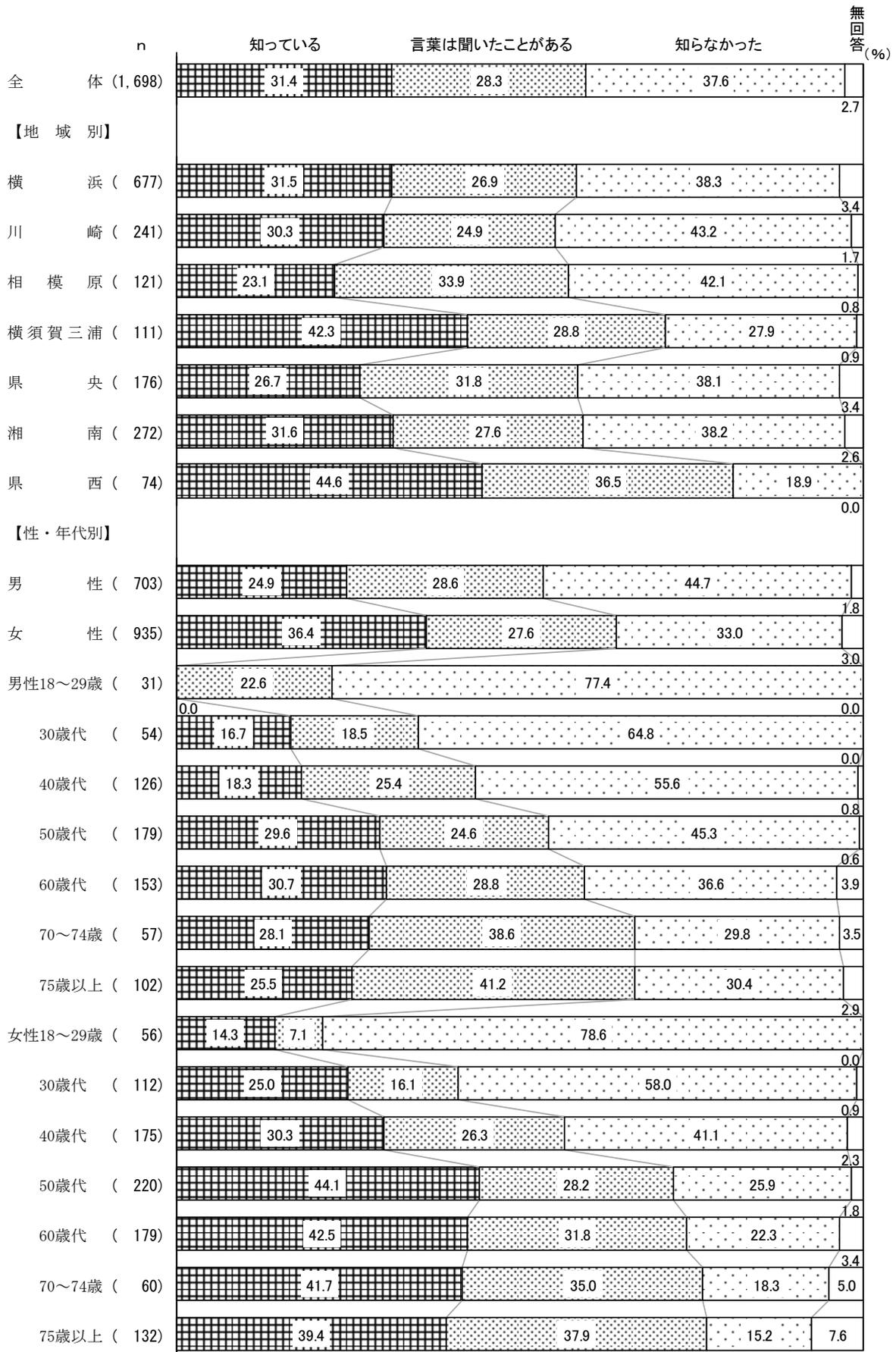
「未病（ME-BYO）」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」が31.4%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が28.3%であった。

一方、「知らなかった」が37.6%であった。（図表6-1-1）

図表6-1-1 「未病（ME-BYO）」の認知度



図表6-1-2 「未病（ME-BYO）」の認知度—地域別、性・年代別

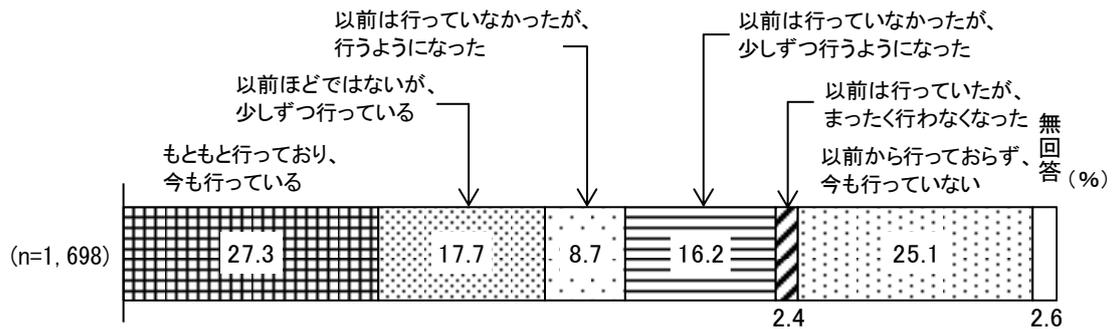


## 2 過去1年間の「未病改善」の取組状況【問16】

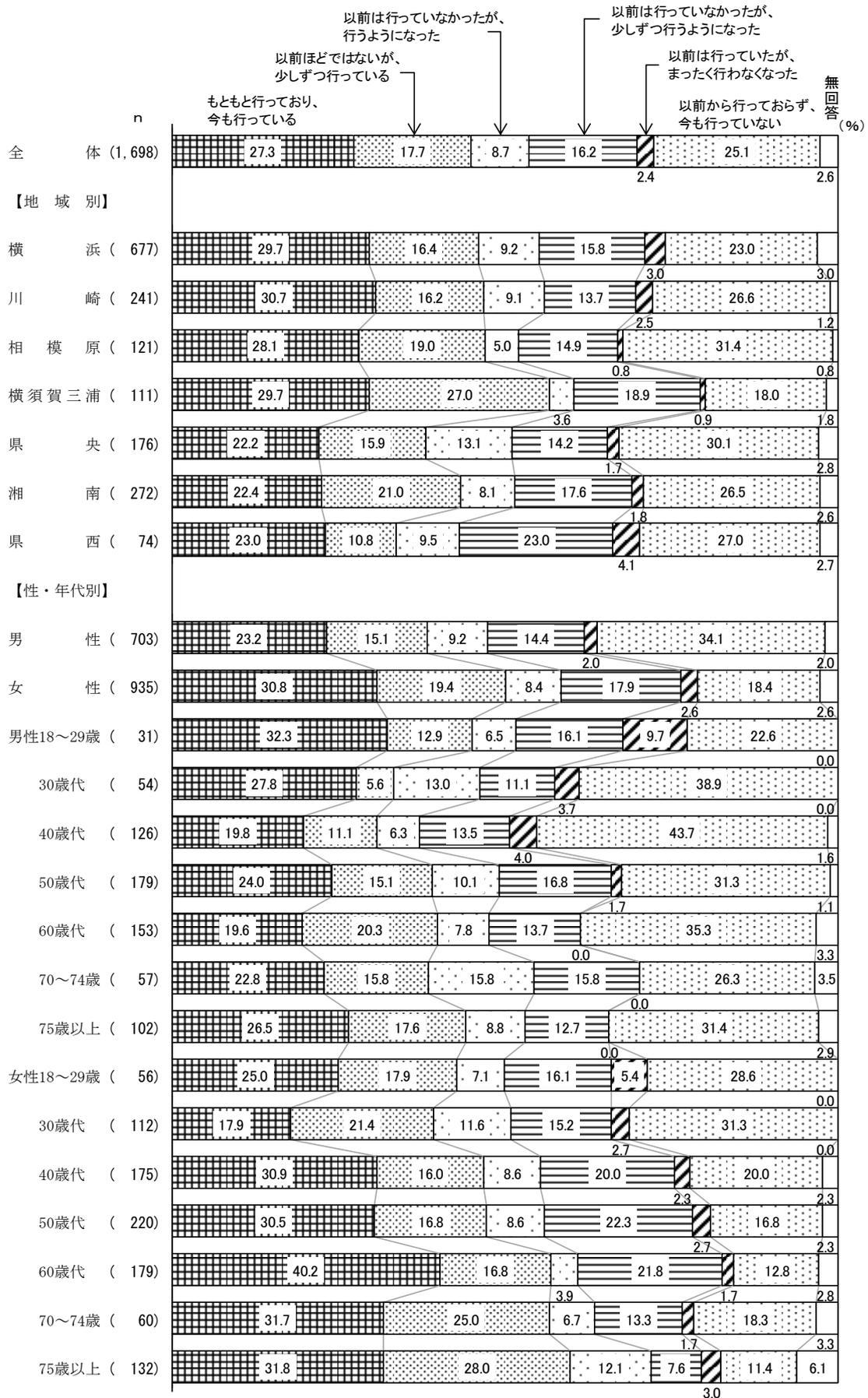
### 【全体の状況】

過去1年間で「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）を以前と比べて行うようになったと思うか尋ねたところ、「もともと行っており、今も行っている」が27.3%で最も多く、次いで「以前から行っておらず、今も行っていない」が25.1%であった。（図表6-2-1）

図表6-2-1 過去1年間の「未病改善」の取組状況



図表6-2-2 過去1年間の「未病改善」の取組状況—地域別、性・年代別

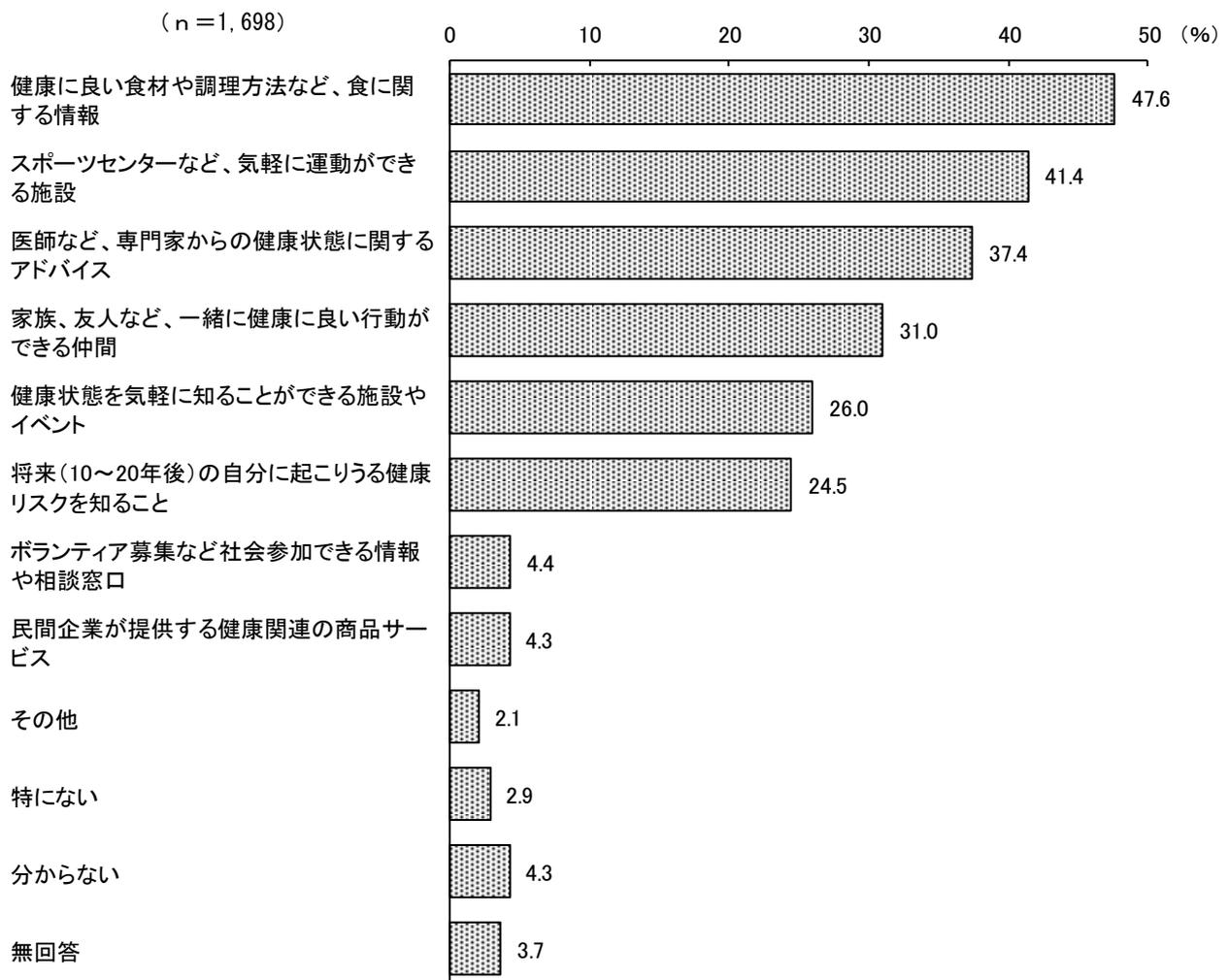


### 3 「未病改善」の取組みに必要なと思うもの【問17】

#### 【全体の状況】

「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）をするにあたって必要だと思うものを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「健康に良い食材や調理方法など、食に関する情報」が47.6%で最も多く、次いで「スポーツセンターなど、気軽に運動ができる施設」が41.4%であった。（図表6-3-1）

図表6-3-1 「未病改善」の取組みに必要なと思うもの（複数回答）



図表6-3-2 「未病改善」の取組みに必要だと思うもの（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	健康に関する情報 食に良い食材や調理方法など、	スポーツセンターなど、気軽に運動ができる施設	医師など、専門家からの健康状態に関するアドバイス	家族、友人など、一緒に健康に良い行動ができる仲間	健康状態を気軽に知ることができる施設やイベント	将来（10～20年後）の自分についてこりうる健康リスクを知ること	ボランティア募集など社会参加できる情報や相談窓口	民間企業が提供する健康関連の商品サービス	その他	特になし	分からない	無回答
全 体	1,698	47.6	41.4	37.4	31.0	26.0	24.5	4.4	4.3	2.1	2.9	4.3	3.7
【地 域 別】													
横 浜	677	49.5	43.4	36.8	31.9	24.4	23.2	4.3	4.0	2.4	3.4	4.1	4.3
川 崎	241	45.6	45.6	33.6	33.6	25.3	25.3	5.8	3.3	2.1	2.9	5.0	2.1
相 模 原	121	43.0	39.7	33.1	28.1	25.6	25.6	3.3	7.4	4.1	3.3	5.0	1.7
横 須 賀 三 浦	111	42.3	41.4	38.7	34.2	22.5	25.2	5.4	3.6	3.6	2.7	2.7	2.7
県 央	176	46.0	32.4	44.9	26.1	31.3	27.3	4.0	5.1	1.1	3.4	4.5	4.5
湘 南	272	49.6	38.6	38.2	28.7	26.5	26.1	3.7	3.7	1.5	2.2	5.1	4.0
県 西	74	48.6	45.9	36.5	36.5	32.4	20.3	6.8	6.8	-	1.4	2.7	1.4
【性・年代別】													
男 性	703	42.2	40.5	41.0	27.3	22.2	21.2	3.6	5.0	2.7	5.4	6.5	2.4
女 性	935	51.6	42.6	34.7	34.1	28.4	26.8	5.2	3.9	1.7	1.3	2.6	4.4
男性18～29歳	31	48.4	48.4	19.4	48.4	22.6	29.0	3.2	3.2	3.2	-	9.7	-
30歳代	54	40.7	46.3	29.6	31.5	20.4	25.9	1.9	7.4	13.0	5.6	3.7	1.9
40歳代	126	34.9	44.4	37.3	35.7	15.9	27.8	3.2	7.9	3.2	2.4	11.1	1.6
50歳代	179	39.1	39.7	39.1	26.8	20.7	26.8	5.0	5.6	1.1	5.6	7.3	0.6
60歳代	153	40.5	37.9	45.1	21.6	26.8	16.3	3.9	2.6	2.0	7.8	6.5	3.9
70～74歳	57	45.6	36.8	52.6	17.5	24.6	17.5	1.8	3.5	1.8	7.0	1.8	3.5
75歳以上	102	56.9	38.2	49.0	23.5	25.5	7.8	2.9	3.9	1.0	4.9	2.9	4.9
女性18～29歳	56	48.2	50.0	23.2	50.0	19.6	26.8	5.4	7.1	-	1.8	1.8	-
30歳代	112	47.3	43.8	31.3	29.5	26.8	28.6	6.3	5.4	1.8	-	6.3	2.7
40歳代	175	48.0	45.7	31.4	35.4	28.0	33.7	5.7	2.9	2.3	0.6	2.3	5.1
50歳代	220	50.5	45.0	31.4	35.0	33.2	26.8	6.4	3.2	1.8	2.3	3.6	2.3
60歳代	179	54.7	45.3	39.1	29.6	29.1	24.0	6.1	4.5	2.2	-	1.1	6.1
70～74歳	60	50.0	30.0	28.3	35.0	26.7	28.3	3.3	-	3.3	6.7	1.7	3.3
75歳以上	132	59.1	32.6	48.5	33.3	26.5	19.7	1.5	4.5	-	0.8	0.8	8.3

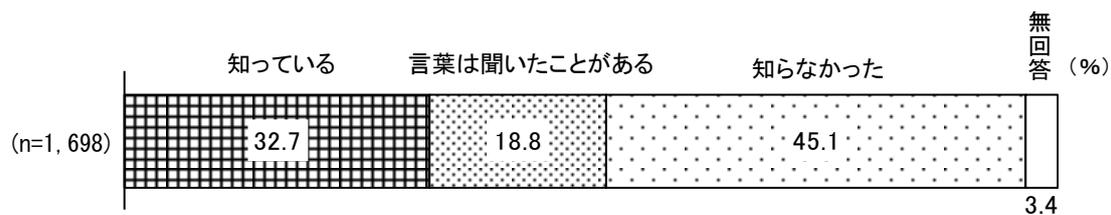
#### 4 「フレイル」の認知度【問18】

##### 【全体の状況】

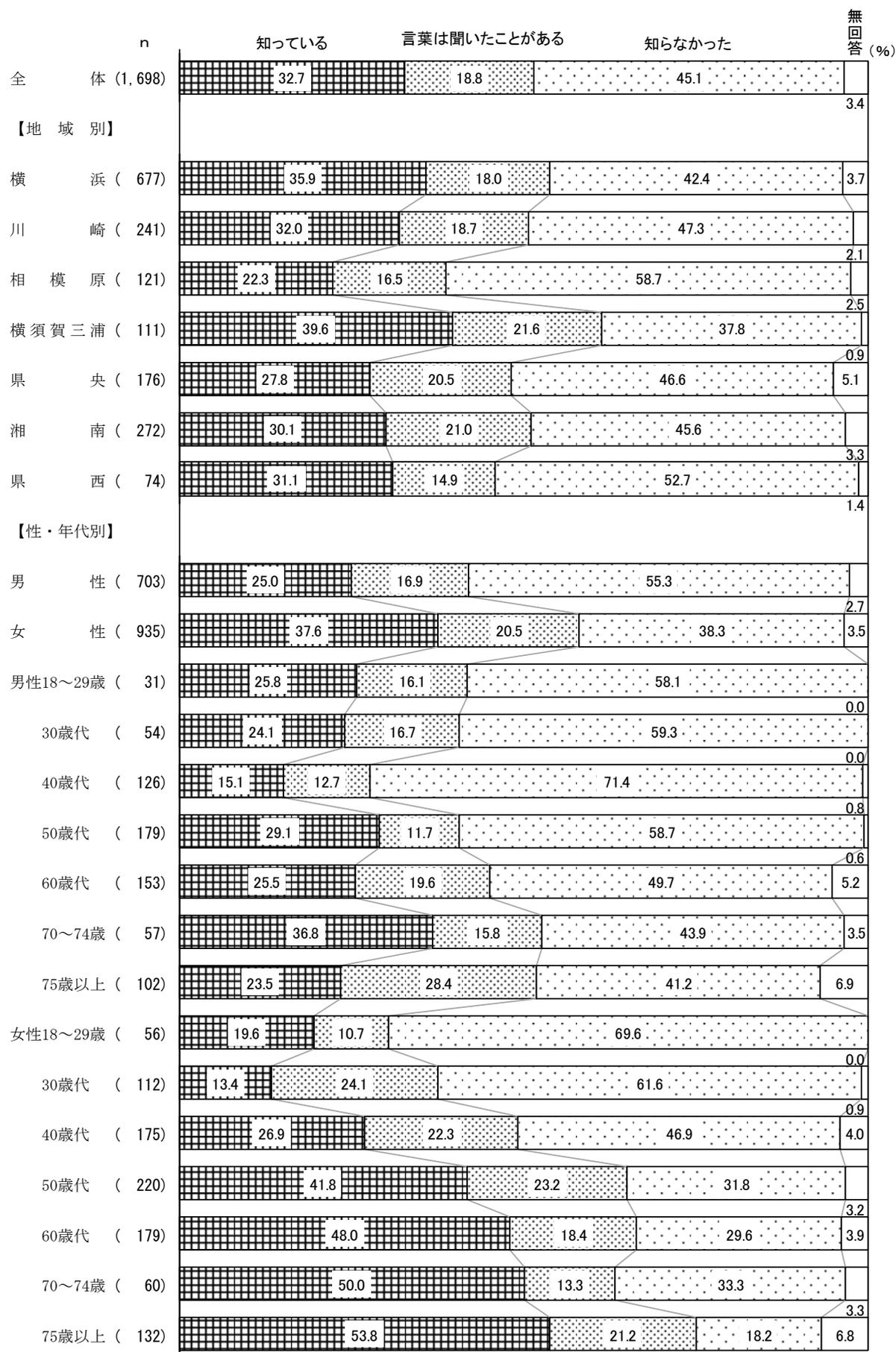
「フレイル」という言葉を知っているか尋ねたところ、「知っている」が32.7%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が18.8%であった。

一方、「知らなかった」が45.1%であった。(図表6-4-1)

図表6-4-1 「フレイル」の認知度



図表6-4-2 「フレイル」の認知度—地域別、性・年代別



## 第7章 かながわ救急相談センター（#7119）【問19】

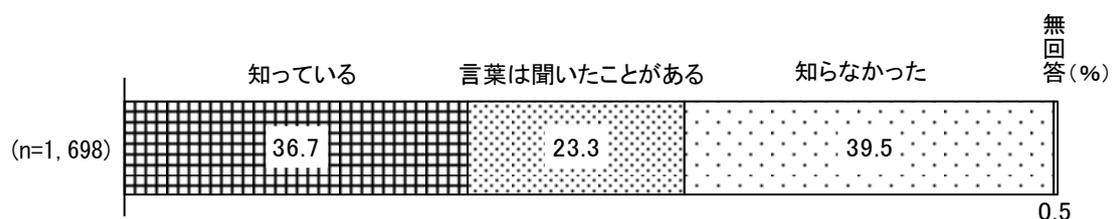
### 1 かながわ救急相談センター（#7119）の認知度【問19】

#### 【全体の状況】

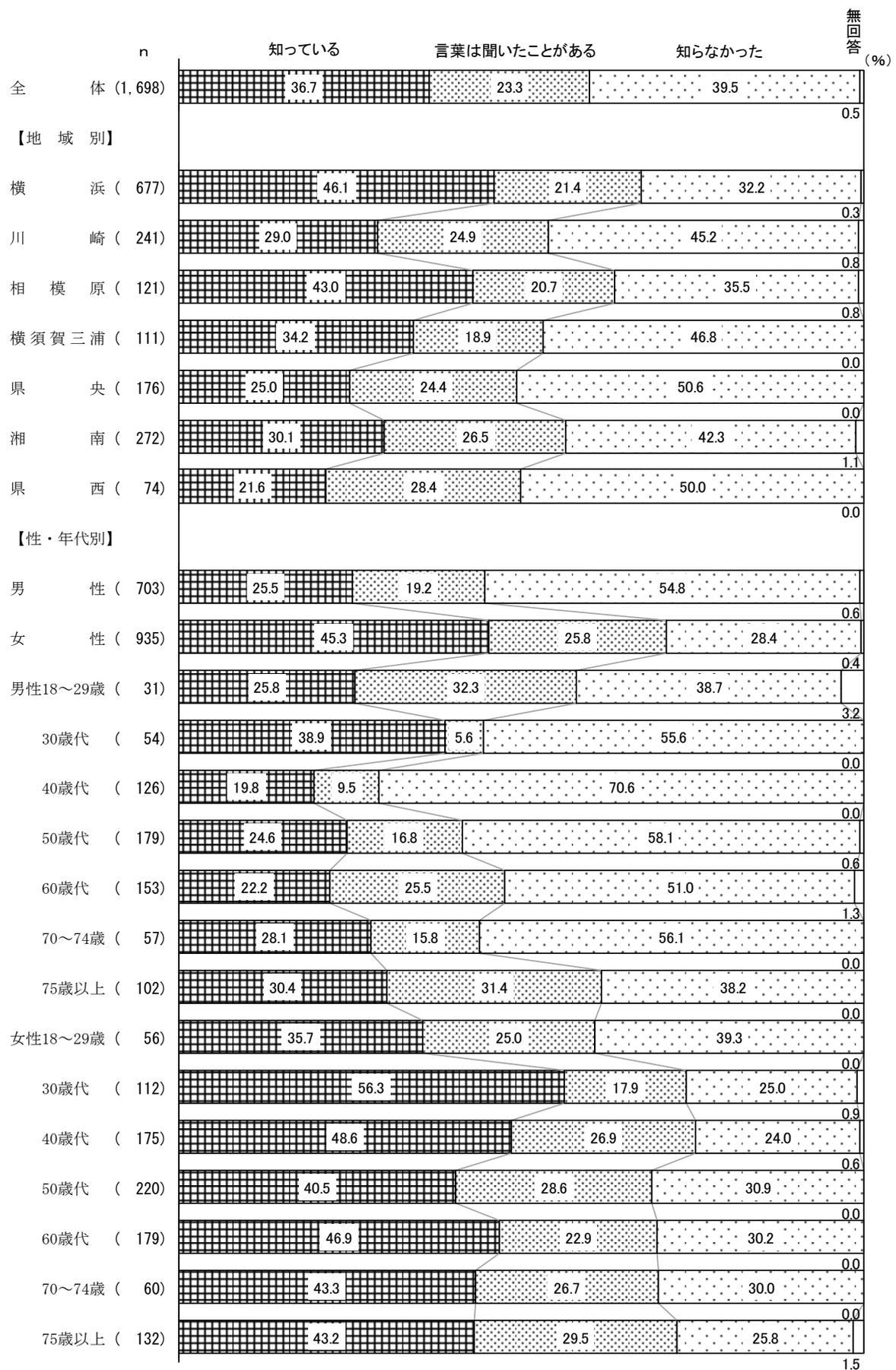
かながわ救急相談センター（#7119）を知っているか尋ねたところ、「知っている」が36.7%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が23.3%であった。

一方、「知らなかった」が39.5%であった。（図表7-1-1）

図表7-1-1 かながわ救急相談センター（#7119）の認知度



図表7-1-2 かながわ救急相談センター（#7119）の認知度—地域別、性・年代別



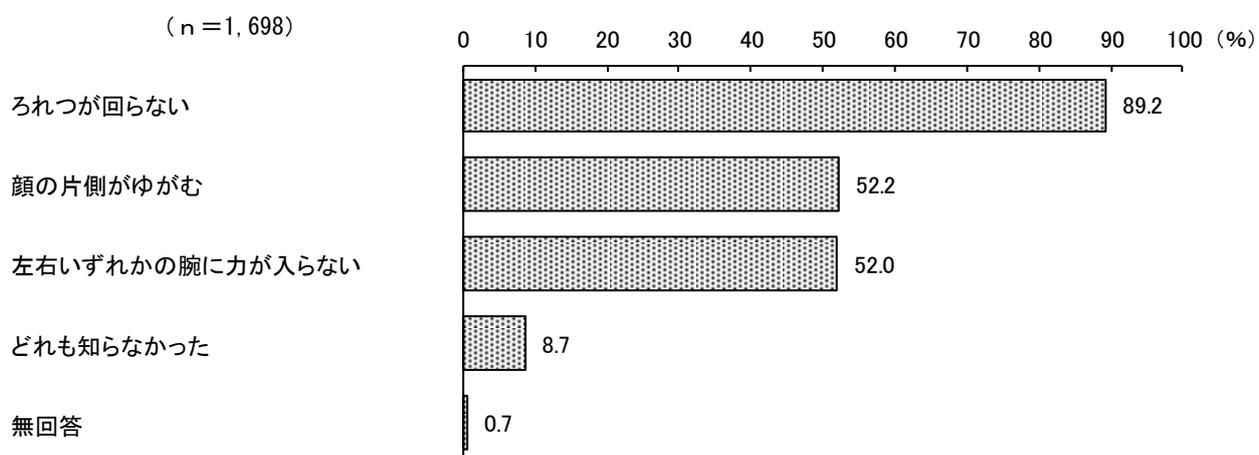
## 第8章 循環器病対策【問20～問22】

### 1 脳卒中の主な初期症状の認知度【問20】

#### 【全体の状況】

脳卒中の主な初期症状について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「ろれつが回らない」が89.2%で最も多く、次いで「顔の片側がゆがむ」が52.2%であった。(図表8-1-1)

図表8-1-1 脳卒中の主な初期症状の認知度（複数回答）



図表8-1-2 脳卒中の主な初期症状の認知度（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)						
	n	ろれつが回らない	顔の片側がゆがむ	左右いずれかの腕に力が入らない	どれも知らなかった	無回答
全 体	1,698	89.2	52.2	52.0	8.7	0.7
<b>【地 域 別】</b>						
横 浜	677	88.8	55.1	53.3	9.2	0.3
川 崎	241	87.6	51.5	51.5	10.4	0.8
相 模 原	121	92.6	50.4	48.8	5.8	0.8
横 須 賀 三 浦	111	91.0	53.2	55.0	9.0	-
県 央	176	88.1	48.3	51.7	9.7	1.7
湘 南	272	90.1	49.6	50.7	7.4	1.1
県 西	74	89.2	45.9	47.3	8.1	-
<b>【性・年代別】</b>						
男 性	703	86.1	47.5	47.4	11.4	0.9
女 性	935	91.3	56.0	55.2	7.0	0.5
男性 18～29歳	31	64.5	32.3	32.3	29.0	3.2
30 歳 代	54	83.3	33.3	35.2	16.7	-
40 歳 代	126	82.5	39.7	42.1	15.1	0.8
50 歳 代	179	89.4	46.9	46.4	8.4	0.6
60 歳 代	153	89.5	56.2	52.9	7.2	1.3
70～74歳	57	89.5	57.9	63.2	7.0	1.8
75歳以上	102	85.3	51.0	49.0	12.7	-
女性 18～29歳	56	71.4	32.1	26.8	26.8	-
30 歳 代	112	81.3	42.0	41.1	14.3	0.9
40 歳 代	175	92.0	48.0	49.1	6.3	1.1
50 歳 代	220	95.0	57.7	54.1	3.2	0.5
60 歳 代	179	96.1	65.9	63.1	3.4	-
70～74歳	60	93.3	55.0	63.3	5.0	-
75歳以上	132	93.9	72.7	74.2	5.3	0.8

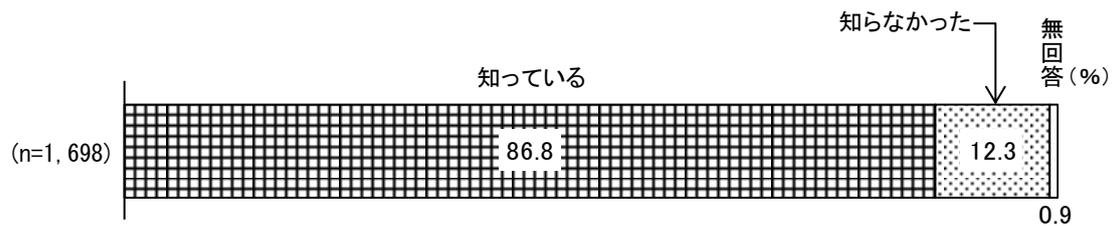
## 2 脳卒中への適切な対応の認知度【問21】

### 【全体の状況】

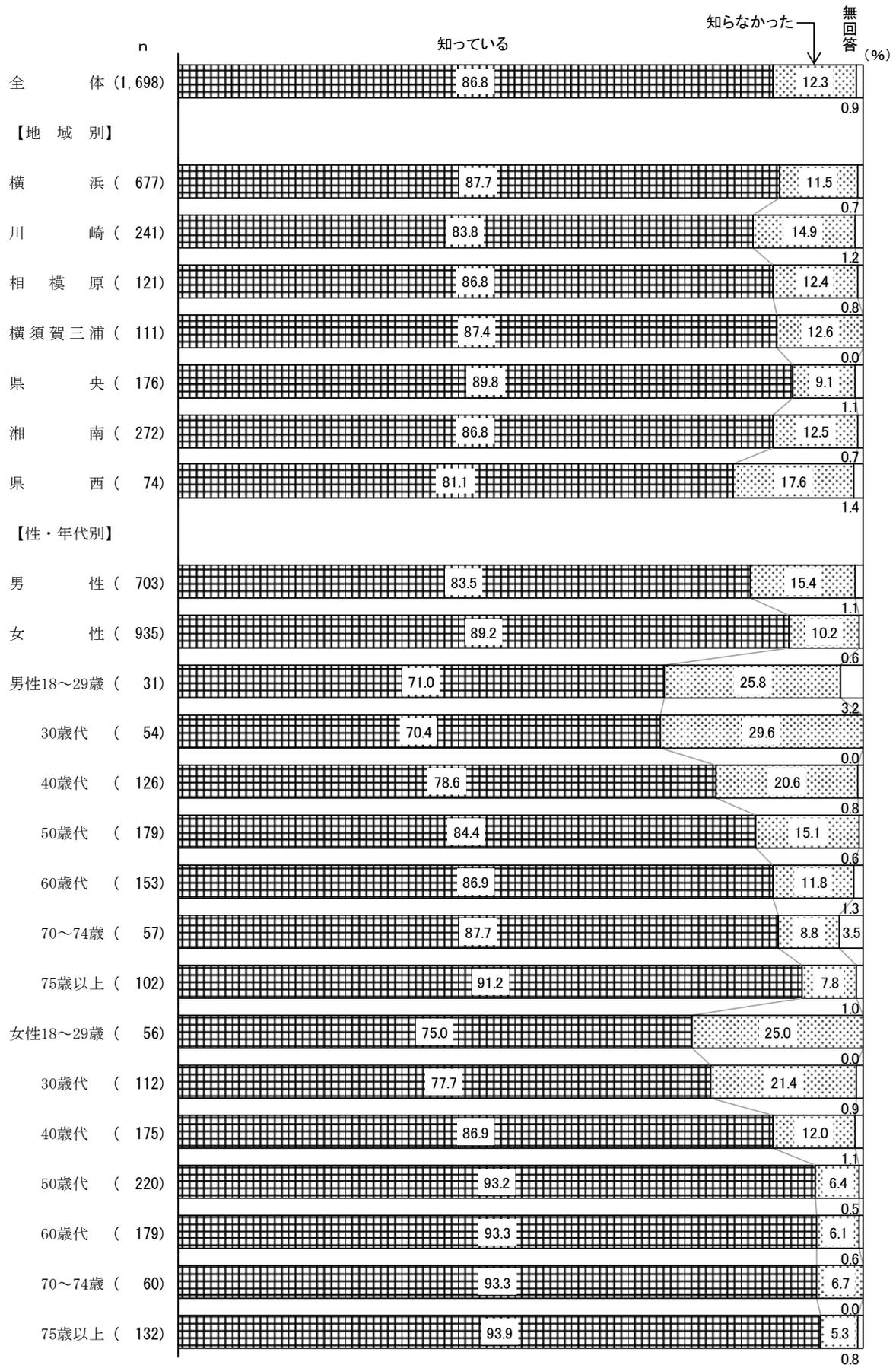
脳卒中は、発症後すぐに救急車を呼ぶなど、医療機関で適切な治療を行えば、後遺症を含めたその後の状態が改善される可能性が高まることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が86.8%であった。

一方、「知らなかった」が12.3%であった。(図表8-2-1)

図表8-2-1 脳卒中への適切な対応の認知度



図表8-2-2 脳卒中への適切な対応の認知度—地域別、性・年代別



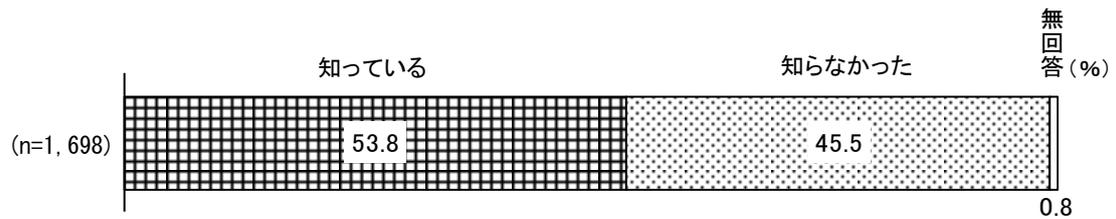
### 3 心臓病の再発防止対策の認知度【問22】

#### 【全体の状況】

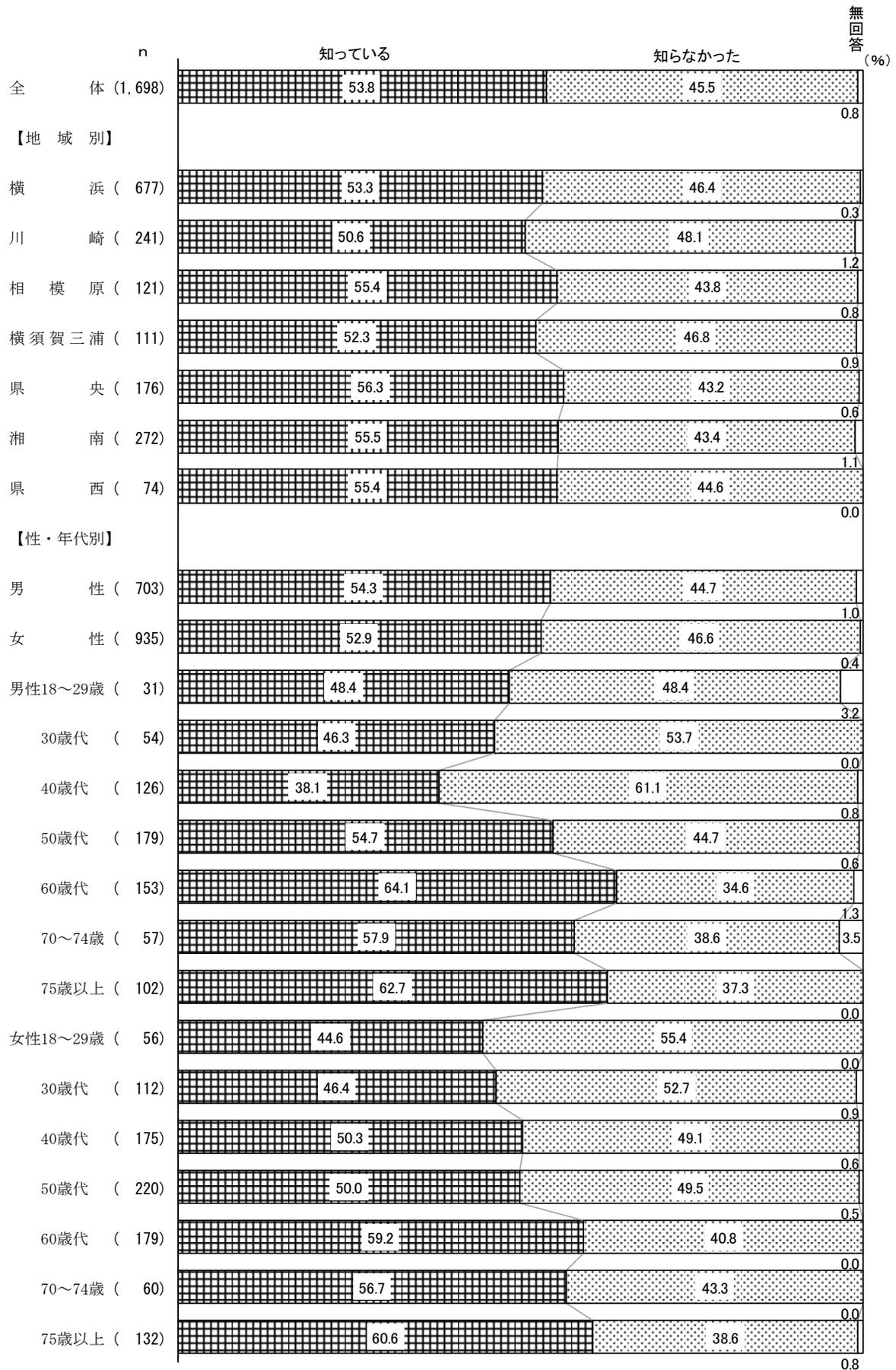
心臓病の再発を防ぐためには、治療後の適度な運動療法を中心としたリハビリテーションが重要であることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が53.8%であった。

一方、「知らなかった」が45.5%であった。(図表8-3-1)

図表8-3-1 心臓病の再発防止対策の認知度



図表8-3-2 心臓病の再発防止対策の認知度—地域別、性・年代別



## 第9章 依存症に対する意識【問23～問24-1】

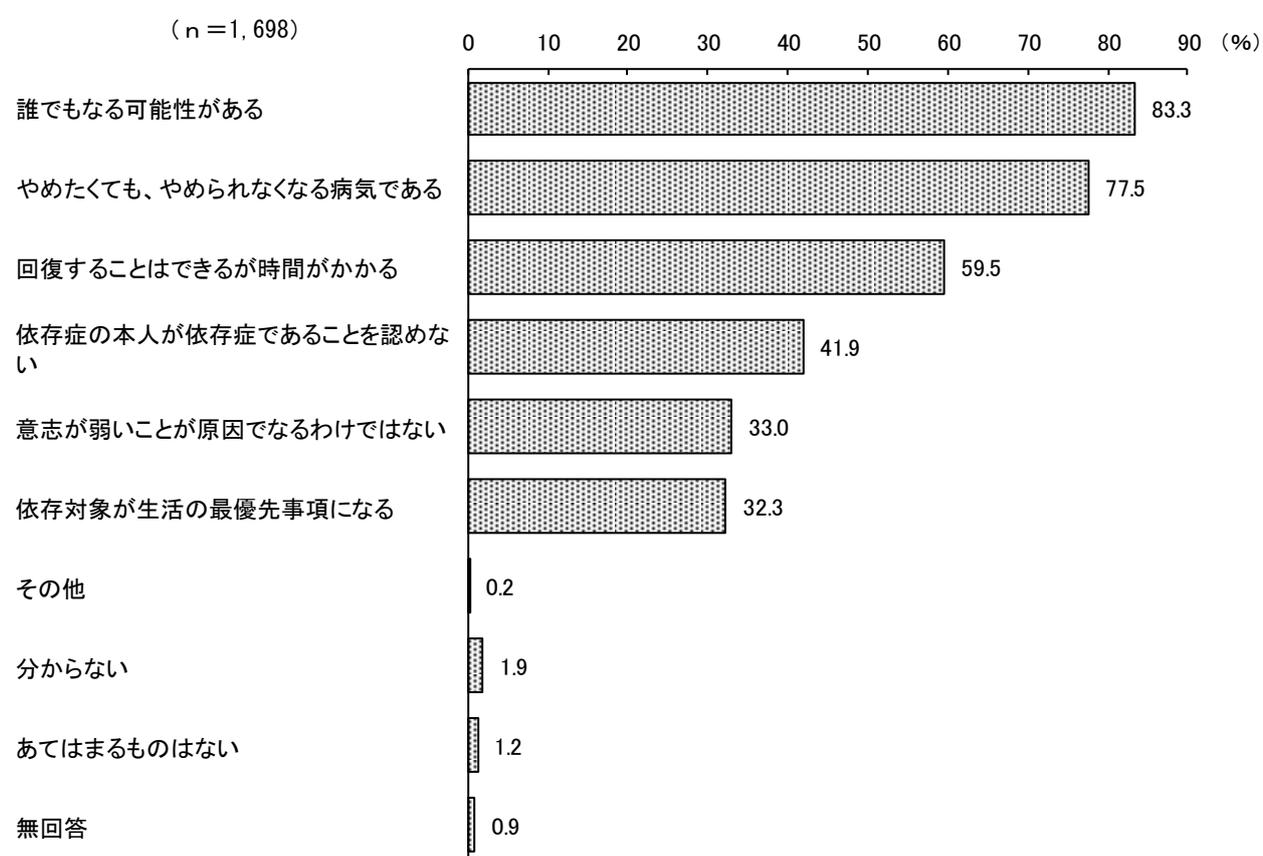
### 1 依存症について、あてはまると思うこと【問23】

#### 【全体の状況】

依存症について、あてはまると思うことを複数回答で尋ねたところ、「誰でもなる可能性がある」が83.3%で最も多く、次いで「やめたくても、やめられなくなる病気である」が77.5%であった。

(図表 9-1-1)

図表9-1-1 依存症について、あてはまると思うこと（複数回答）



図表9-1-2 依存症について、あてはまると思うこと（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

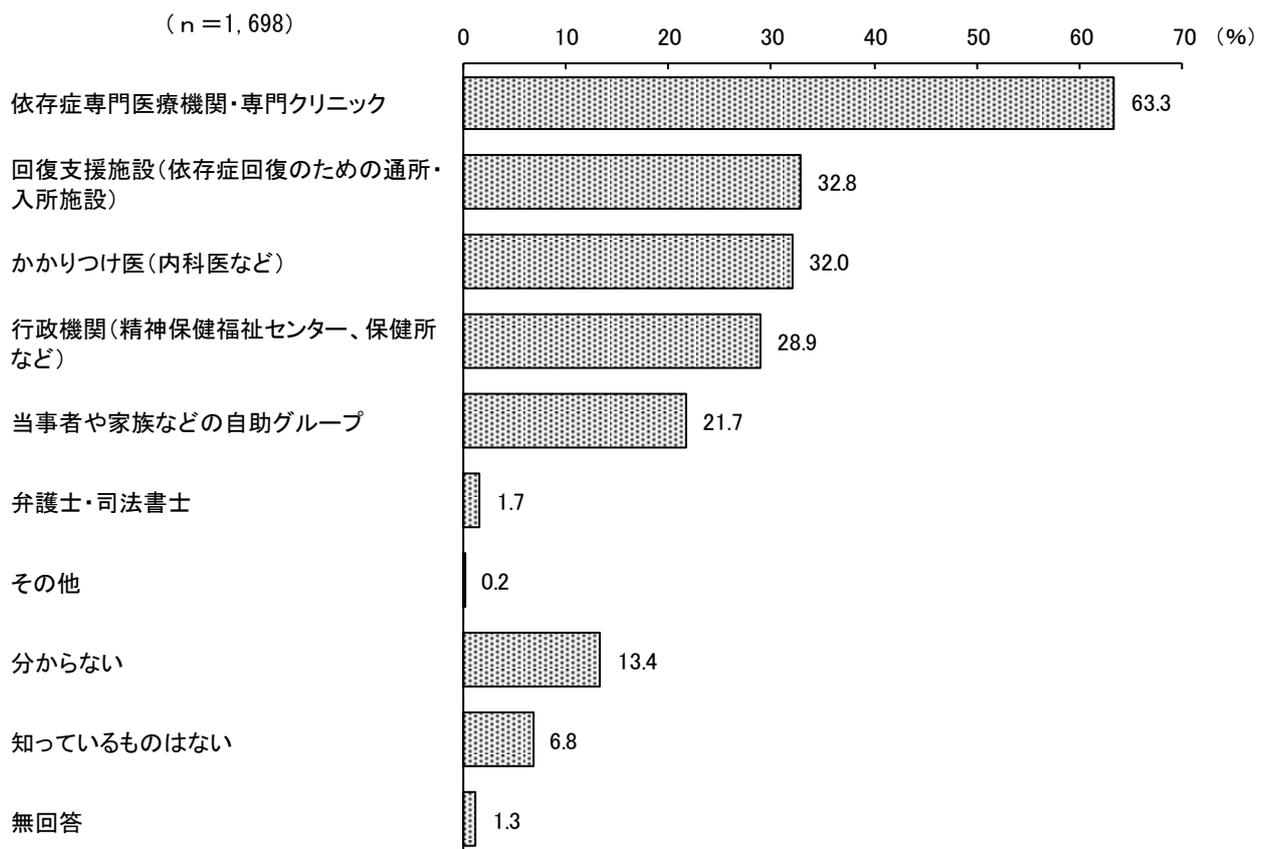
	n	誰でもなる可能性がある	やめたくても、やめられなくなる病気である	回復することはできるが時間がかかる	依存症の本人が依存症であることを認めない	意志が弱いことが原因でなるわけではない	依存対象が生活の最優先事項になる	その他	分からない	あてはまるものはない	無回答
全 体	1,698	83.3	77.5	59.5	41.9	33.0	32.3	0.2	1.9	1.2	0.9
【地 域 別】											
横 浜	677	81.5	77.8	57.9	43.3	32.8	33.5	0.1	1.9	1.5	0.7
川 崎	241	85.1	80.9	57.3	37.3	31.5	34.0	0.8	0.4	1.7	0.8
相 模 原	121	85.1	81.0	62.8	46.3	38.0	38.0	-	4.1	-	0.8
横須賀三浦	111	89.2	75.7	61.3	37.8	35.1	38.7	-	0.9	1.8	0.9
県 央	176	85.8	75.0	60.8	40.9	27.8	22.7	-	1.1	0.6	1.1
湘 南	272	82.0	74.6	58.8	40.8	33.8	30.1	0.4	3.3	1.1	0.7
県 西	74	83.8	77.0	66.2	50.0	39.2	33.8	-	1.4	-	1.4
【性・年代別】											
男 性	703	84.1	72.7	53.3	39.3	30.4	28.6	0.3	2.1	1.8	0.7
女 性	935	83.1	80.9	63.7	43.7	35.1	35.8	0.2	1.6	0.6	1.0
男性18～29歳	31	93.5	74.2	61.3	38.7	48.4	38.7	-	-	-	3.2
30歳代	54	92.6	72.2	53.7	44.4	40.7	46.3	1.9	-	-	-
40歳代	126	88.9	77.0	60.3	40.5	41.3	38.9	-	2.4	2.4	-
50歳代	179	84.4	69.3	52.0	40.2	33.0	26.3	0.6	3.9	1.1	0.6
60歳代	153	83.0	73.9	51.6	38.6	24.8	26.8	-	2.0	0.7	1.3
70～74歳	57	82.5	66.7	54.4	42.1	15.8	14.0	-	1.8	3.5	1.8
75歳以上	102	72.5	75.5	47.1	33.3	18.6	18.6	-	1.0	4.9	-
女性18～29歳	56	91.1	67.9	66.1	37.5	39.3	39.3	-	-	1.8	-
30歳代	112	85.7	77.7	49.1	33.0	31.3	33.9	0.9	3.6	-	0.9
40歳代	175	88.0	80.6	60.0	46.3	40.6	41.7	0.6	1.1	-	0.6
50歳代	220	90.0	84.5	66.8	50.9	39.5	40.0	-	1.4	-	-
60歳代	179	81.6	83.2	67.0	44.7	33.0	38.5	-	1.7	1.1	-
70～74歳	60	66.7	80.0	60.0	38.3	28.3	21.7	-	1.7	1.7	5.0
75歳以上	132	69.7	80.3	72.0	40.9	27.3	23.5	-	1.5	1.5	3.0

## 2 依存症に関する相談場所として知っているもの【問24】

### 【全体の状況】

依存症について、相談できる場所として知っているものを複数回答で尋ねたところ、「依存症専門医療機関・専門クリニック」が63.3%で最も多く、次いで「回復支援施設（依存症回復のための通所・入所施設）」が32.8%であった。（図表9-2-1）

図表9-2-1 依存症に関する相談場所として知っているもの（複数回答）



図表9-2-2 依存症に関する相談場所として知っているもの（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

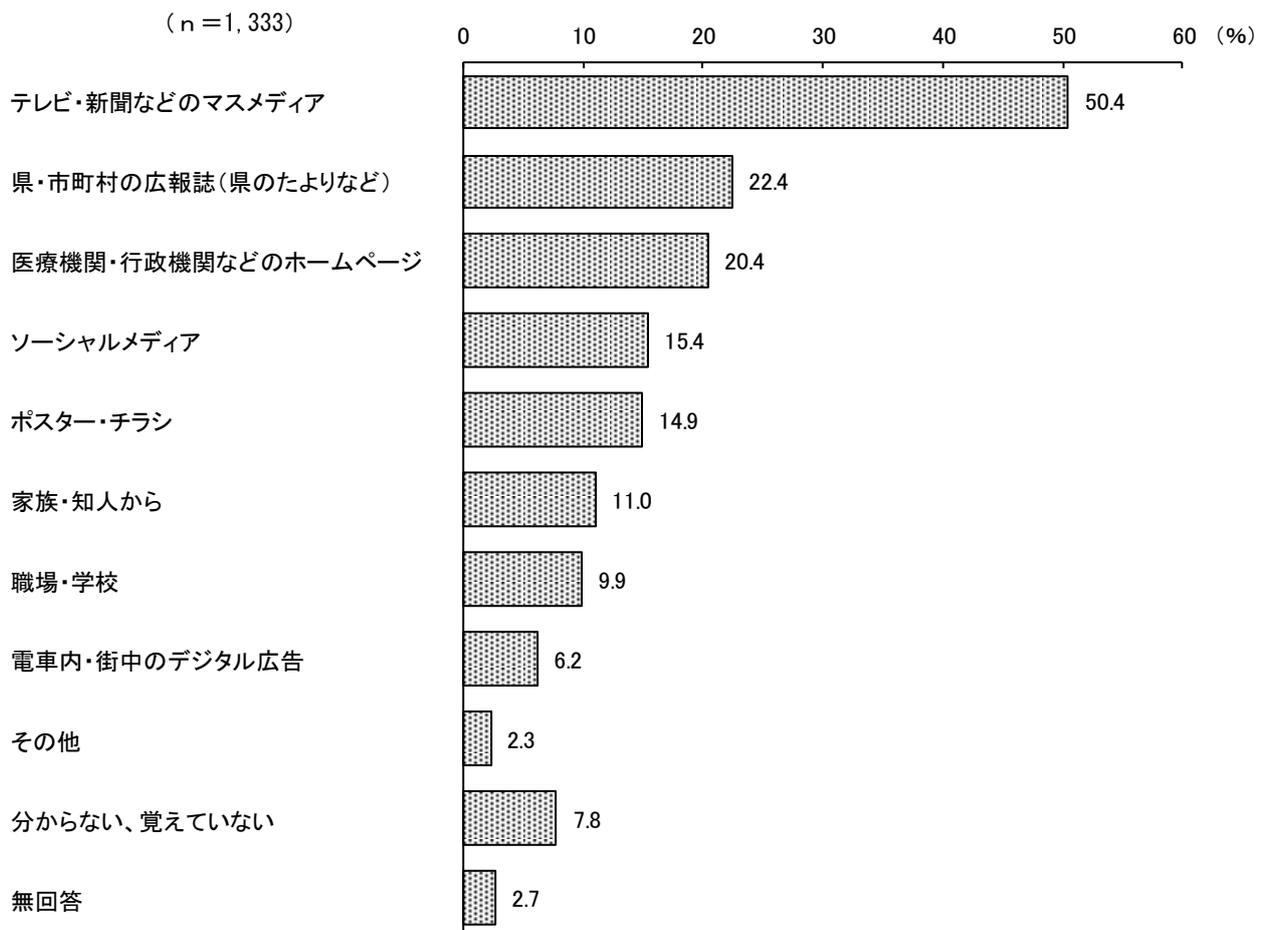
	n	依存症専門医療機関・専門クリニック	回復支援施設（依存症回復のため通所・入所施設）	かかりつけ医（内科医など）	行政機関（精神保健福祉センター、保健所など）	当事者や家族などの自助グループ	弁護士・司法書士	その他	分からない	知っているものはない	無回答
全 体	1,698	63.3	32.8	32.0	28.9	21.7	1.7	0.2	13.4	6.8	1.3
【地 域 別】											
横 浜	677	64.4	33.8	31.2	28.4	23.2	1.8	-	13.3	8.0	1.3
川 崎	241	60.2	31.1	32.8	20.7	23.7	1.2	0.4	12.0	7.9	1.2
相 模 原	121	72.7	36.4	37.2	39.7	16.5	1.7	0.8	9.9	4.1	0.8
横 須 賀 三 浦	111	78.4	31.5	31.5	29.7	23.4	-	0.9	9.9	3.6	0.9
県 央	176	60.8	35.8	27.3	33.5	19.3	2.8	-	15.3	6.3	1.7
湘 南	272	56.3	27.6	33.1	30.1	19.1	1.1	0.4	16.5	6.6	1.5
県 西	74	63.5	36.5	33.8	28.4	25.7	5.4	-	13.5	5.4	-
【性・年代別】											
男 性	703	55.5	23.9	30.0	25.5	14.7	2.1	0.1	16.6	10.8	1.4
女 性	935	69.3	39.1	33.4	31.9	27.2	1.5	0.3	11.1	3.9	1.2
男性18～29歳	31	67.7	19.4	35.5	29.0	19.4	3.2	-	6.5	3.2	6.5
30歳代	54	53.7	20.4	37.0	20.4	27.8	3.7	1.9	14.8	7.4	1.9
40歳代	126	66.7	31.0	28.6	19.8	17.5	2.4	-	17.5	5.6	-
50歳代	179	54.7	24.0	28.5	25.1	15.6	2.2	-	15.6	15.1	0.6
60歳代	153	57.5	26.8	26.8	30.7	11.1	1.3	-	17.0	11.1	1.3
70～74歳	57	47.4	19.3	26.3	19.3	10.5	-	-	17.5	12.3	3.5
75歳以上	102	42.2	16.7	36.3	30.4	8.8	2.9	-	20.6	11.8	2.0
女性18～29歳	56	62.5	23.2	53.6	26.8	28.6	3.6	-	12.5	3.6	-
30歳代	112	73.2	28.6	49.1	32.1	26.8	-	-	5.4	3.6	1.8
40歳代	175	70.3	34.9	32.6	31.4	30.9	1.7	-	10.3	5.7	0.6
50歳代	220	73.6	47.3	25.0	29.1	32.7	2.7	-	10.0	4.5	0.5
60歳代	179	68.7	41.9	29.1	36.3	23.5	1.1	1.1	12.3	3.4	0.6
70～74歳	60	61.7	36.7	35.0	38.3	23.3	1.7	-	11.7	1.7	3.3
75歳以上	132	64.4	43.9	31.8	30.3	19.7	-	0.8	16.7	2.3	3.0

### 3 相談できる場所を知ったきっかけ【問24-1】

#### 【全体の状況】

依存症について相談できる場所（問24）で、知っているという回答した1,333人に、相談できる場所を知ったきっかけを複数回答で尋ねたところ、「テレビ・新聞などのマスメディア」が50.4%で最も多く、次いで「県・市町村の広報誌（県のたよりなど）」が22.4%であった。（図表9-3-1）

図表9-3-1 相談できる場所を知ったきっかけ（複数回答）



図表9-3-2 相談できる場所を知ったきっかけ（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	テレビ・新聞などのマスメディア	県・市町村の広報誌（県のたよりなど）	医療機関・行政機関などのホームページ	ソーシャルメディア	ポスター・チラシ	家族・知人から	職場・学校	電車内・街中のデジタル広告	その他	分からない、覚えていない	無回答
全体	1,333	50.4	22.4	20.4	15.4	14.9	11.0	9.9	6.2	2.3	7.8	2.7
【地域別】												
横浜	524	49.2	21.8	19.1	13.2	16.6	9.2	9.9	7.3	2.5	8.4	3.1
川崎	190	49.5	13.7	19.5	23.7	11.1	11.1	9.5	3.7	1.6	8.9	3.2
相模原	103	55.3	21.4	19.4	23.3	16.5	5.8	11.7	11.7	2.9	7.8	2.9
横須賀三浦	95	43.2	18.9	20.0	10.5	12.6	16.8	9.5	5.3	6.3	9.5	2.1
県央	135	54.8	25.9	22.2	13.3	12.6	16.3	10.4	3.0	1.5	4.4	3.7
湘南	205	48.3	30.7	24.9	15.6	16.1	13.2	8.8	5.4	1.5	7.8	2.0
県西	60	60.0	23.3	20.0	11.7	15.0	11.7	13.3	5.0	1.7	5.0	-
【性・年代別】												
男性	500	48.0	22.2	23.2	15.0	16.0	10.2	9.4	6.0	1.0	10.2	1.8
女性	784	51.5	22.2	19.0	15.9	14.3	11.4	10.3	6.1	3.1	6.4	3.3
男性18～29歳	26	19.2	-	3.8	26.9	15.4	19.2	26.9	19.2	-	23.1	7.7
30歳代	41	34.1	7.3	22.0	29.3	14.6	4.9	9.8	17.1	4.9	14.6	-
40歳代	97	50.5	12.4	17.5	16.5	16.5	5.2	11.3	7.2	-	13.4	2.1
50歳代	123	52.8	16.3	20.3	16.3	15.4	12.2	12.2	4.1	-	8.1	0.8
60歳代	108	58.3	28.7	24.1	13.0	19.4	9.3	6.5	3.7	0.9	8.3	0.9
70～74歳	38	47.4	34.2	23.7	5.3	13.2	7.9	2.6	5.3	2.6	10.5	5.3
75歳以上	67	38.8	47.8	43.3	6.0	13.4	16.4	3.0	-	1.5	4.5	1.5
女性18～29歳	47	27.7	4.3	19.1	31.9	17.0	6.4	21.3	8.5	6.4	4.3	8.5
30歳代	100	37.0	10.0	11.0	27.0	18.0	7.0	9.0	8.0	2.0	15.0	4.0
40歳代	146	47.9	15.1	19.2	19.9	11.6	11.6	13.7	5.5	2.7	11.0	3.4
50歳代	187	60.4	19.3	14.4	16.6	13.9	10.7	9.6	7.0	2.7	4.3	3.2
60歳代	150	53.3	22.7	21.3	12.7	10.0	10.7	10.0	5.3	5.3	4.0	1.3
70～74歳	50	48.0	46.0	28.0	2.0	20.0	20.0	10.0	6.0	2.0	2.0	4.0
75歳以上	103	64.1	45.6	27.2	2.9	17.5	14.6	3.9	3.9	1.0	1.9	2.9

## 第10章 かながわの人権【問25～問27】

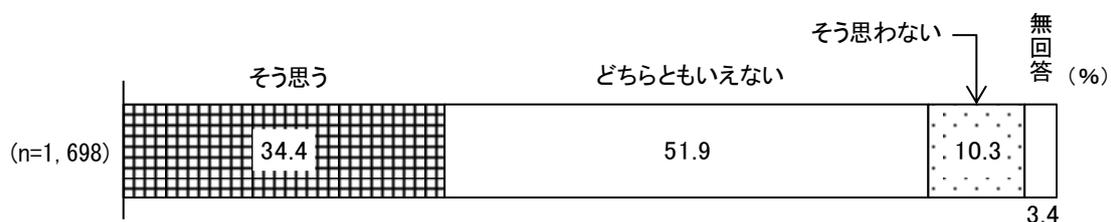
### 1 基本的人権が尊重されている社会か【問25】

#### 【全体の状況】

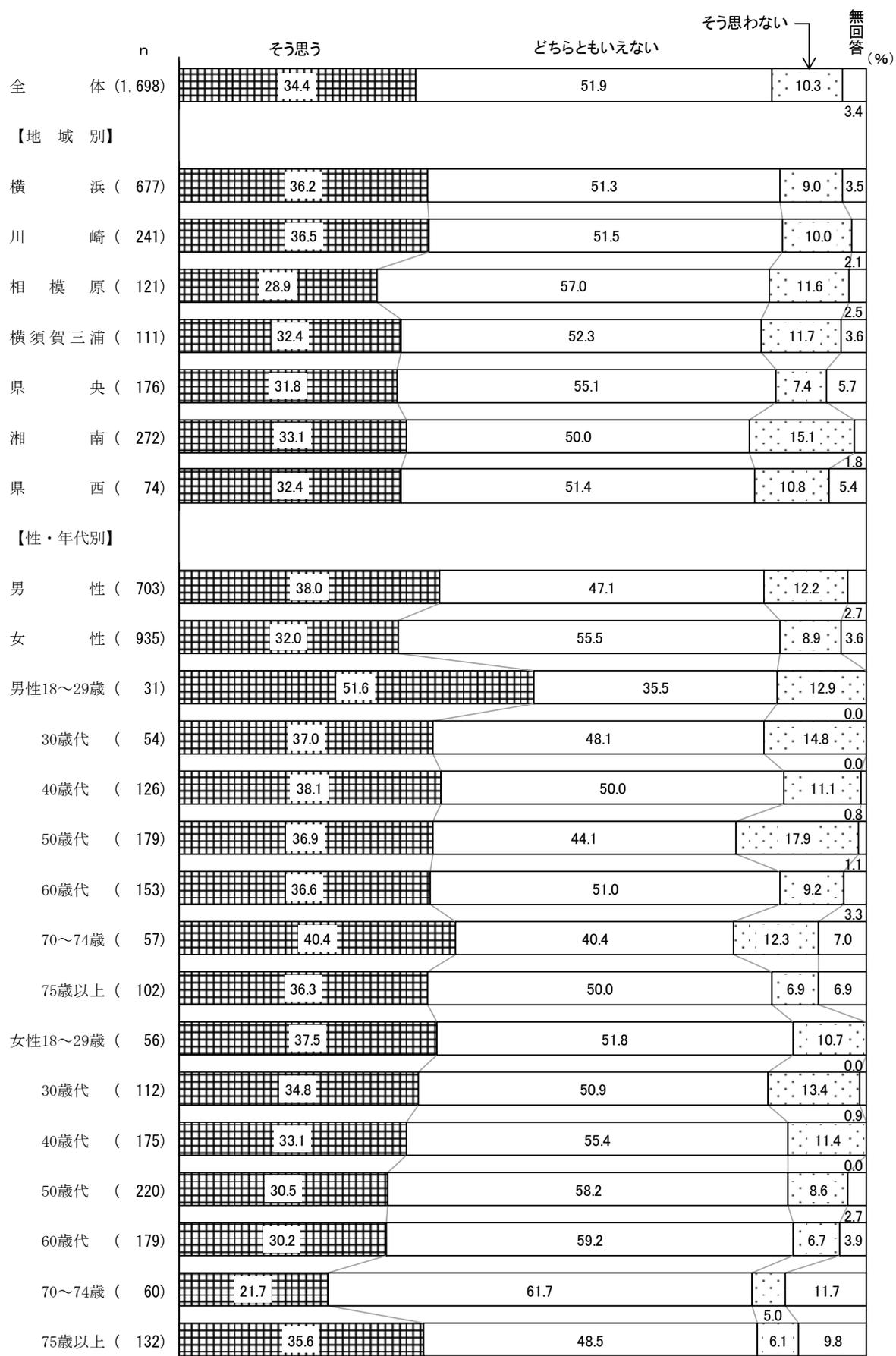
今の日本は基本的人権が尊重されている社会だと思うか尋ねたところ、「そう思う」が34.4%であった。

一方、「そう思わない」が10.3%であった。(図表10-1-1)

図表10-1-1 基本的人権が尊重されている社会か



図表10-1-2 基本的人権が尊重されている社会か—地域別、性・年代別



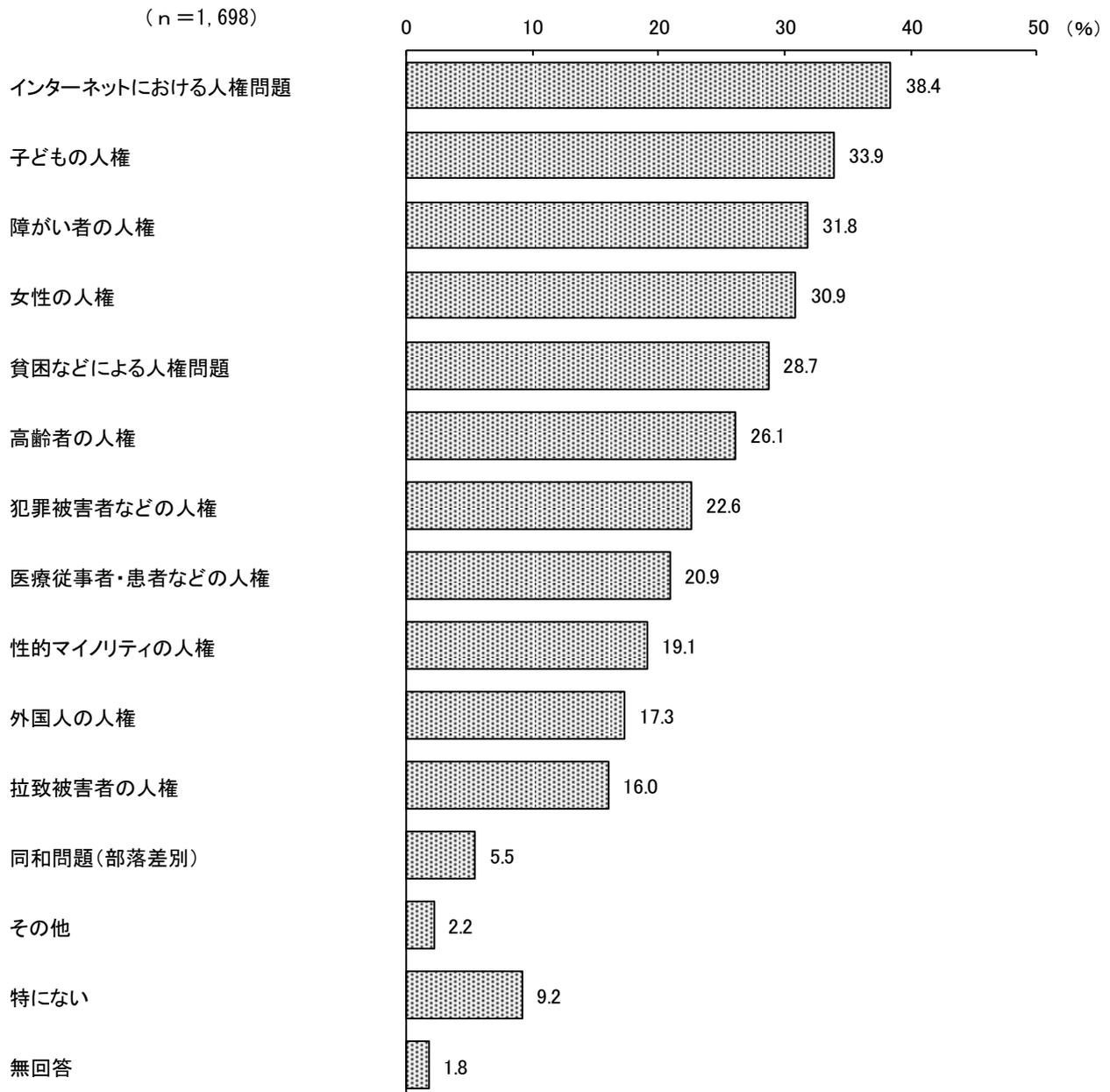
## 2 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題【問26】

### 【全体の状況】

普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題を複数回答で尋ねたところ、「インターネットにおける人権問題」が38.4%で最も多く、次いで「子どもの人権」が33.9%であった。

(図表10-2-1)

図表10-2-1 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（複数回答）



図表10-2-2 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（複数回答）

－地域別、性・年代別

(%)

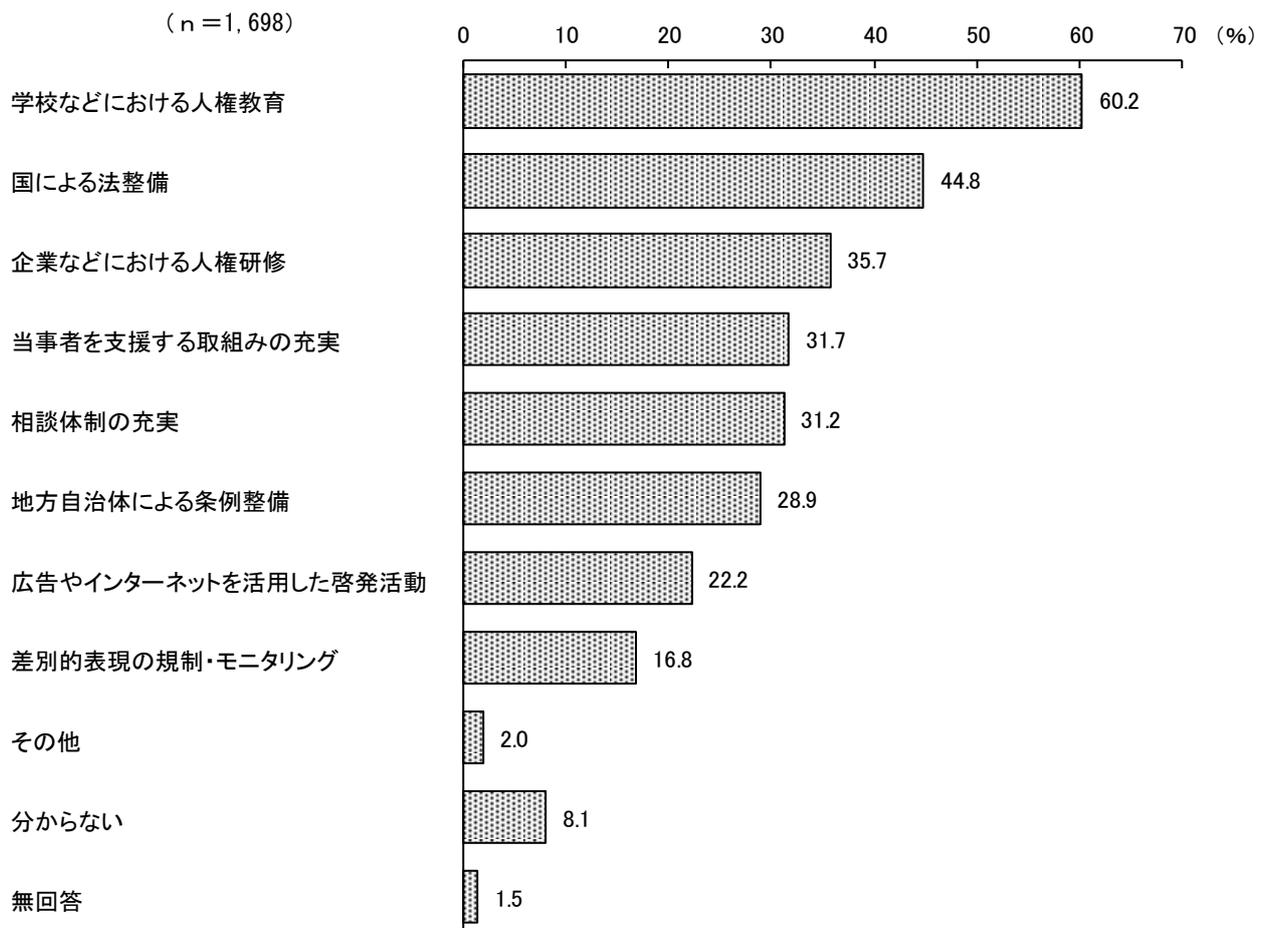
	n	インターネットにおける人権問題	子どもの人権	障がい者の人権	女性の人権	貧困などによる人権問題	高齢者の人権	犯罪被害者などの人権	医療従事者・患者などの人権	性的マイノリティの人権	外国人の人権	拉致被害者の人権	同和問題（部落差別）	その他	特にない	無回答
全 体	1,698	38.4	33.9	31.8	30.9	28.7	26.1	22.6	20.9	19.1	17.3	16.0	5.5	2.2	9.2	1.8
【地 域 別】																
横 浜	677	39.4	32.3	31.0	29.0	27.3	24.5	23.5	21.9	19.2	17.9	17.4	5.3	2.4	10.6	1.6
川 崎	241	38.2	34.0	29.5	30.7	26.6	21.6	26.6	21.6	21.2	18.3	15.8	6.2	2.9	8.7	1.7
相 模 原	121	34.7	39.7	32.2	38.0	30.6	26.4	22.3	20.7	23.1	16.5	12.4	5.8	1.7	6.6	0.8
横 須 賀 三 浦	111	45.9	35.1	37.8	29.7	34.2	23.4	23.4	23.4	20.7	17.1	9.0	3.6	1.8	9.9	2.7
県 央	176	35.2	31.3	35.2	35.2	26.1	27.8	23.9	17.6	17.0	18.8	17.0	6.3	1.7	5.7	2.8
湘 南	272	38.6	39.0	32.4	30.1	30.5	29.4	17.6	19.1	15.4	14.7	16.9	4.0	1.8	7.4	1.1
県 西	74	36.5	21.6	28.4	27.0	31.1	35.1	16.2	23.0	24.3	14.9	14.9	10.8	2.7	18.9	2.7
【性・年代別】																
男 性	703	38.4	28.6	31.3	21.5	27.6	24.3	22.9	17.4	15.6	19.6	14.7	5.7	3.0	11.7	1.7
女 性	935	38.8	38.2	32.1	37.8	28.9	26.6	22.6	24.1	22.2	15.7	16.8	5.3	1.6	7.8	1.7
男性18～29歳	31	29.0	25.8	22.6	25.8	35.5	9.7	16.1	29.0	25.8	48.4	12.9	-	6.5	6.5	3.2
30歳代	54	24.1	25.9	24.1	18.5	18.5	11.1	22.2	20.4	14.8	22.2	5.6	3.7	11.1	11.1	1.9
40歳代	126	38.1	28.6	26.2	25.4	22.2	16.7	22.2	13.5	21.4	20.6	8.7	7.9	4.0	16.7	0.8
50歳代	179	43.0	25.1	30.2	19.0	29.6	17.3	28.5	16.2	17.9	19.6	11.7	5.0	3.4	12.8	-
60歳代	153	43.8	37.3	37.3	26.1	36.6	32.7	22.9	22.9	15.7	18.3	20.3	6.5	-	7.8	1.3
70～74歳	57	45.6	22.8	40.4	21.1	28.1	26.3	21.1	7.0	3.5	17.5	22.8	12.3	1.8	8.8	5.3
75歳以上	102	29.4	27.5	31.4	14.7	19.6	44.1	17.6	16.7	8.8	11.8	19.6	2.0	1.0	12.7	3.9
女性18～29歳	56	39.3	32.1	21.4	53.6	23.2	14.3	19.6	19.6	30.4	25.0	5.4	-	-	7.1	-
30歳代	112	31.3	44.6	12.5	44.6	18.8	10.7	20.5	19.6	22.3	18.8	8.0	5.4	4.5	6.3	0.9
40歳代	175	46.9	42.3	25.1	41.1	22.9	14.9	22.9	25.1	24.6	12.6	11.4	4.0	2.9	10.3	0.6
50歳代	220	39.5	38.2	35.0	35.0	30.0	23.6	18.2	24.5	26.8	22.7	18.6	7.3	0.9	6.4	0.9
60歳代	179	38.0	40.8	44.7	39.1	39.1	44.7	29.6	25.7	21.2	14.0	21.2	8.4	1.1	7.3	0.6
70～74歳	60	43.3	31.7	31.7	28.3	33.3	33.3	20.0	16.7	15.0	11.7	21.7	5.0	1.7	6.7	5.0
75歳以上	132	31.8	29.5	40.2	28.0	30.3	37.9	24.2	28.8	12.9	6.1	25.0	2.3	-	9.8	6.1

### 3 人権課題を解消するために力を入れるべき取り組み【問27】

#### 【全体の状況】

人権課題を解消するために、力を入れて取り組む必要があると思うことを複数回答で尋ねたところ、「学校などにおける人権教育」が60.2%で最も多く、次いで「国による法整備」が44.8%であった。（図表10-3-1）

図表10-3-1 人権課題を解消するために力を入れるべき取り組み（複数回答）



図表10-3-2 人権課題を解消するために力を入れるべき取組み（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	学校などにおける人権教育	国による法整備	企業などにおける人権研修	当事者を支援する取組みの充実	相談体制の充実	地方自治体による条例整備	啓発やインターネットを活用した活動	差別的表現の規制・モニタリング	その他	分からない	無回答
全体	1,698	60.2	44.8	35.7	31.7	31.2	28.9	22.2	16.8	2.0	8.1	1.5
【地域別】												
横浜	677	59.8	44.2	34.3	33.5	33.4	27.6	24.8	15.8	2.2	8.9	1.0
川崎	241	61.0	45.6	34.0	30.7	26.1	28.6	20.3	24.1	2.1	7.1	1.7
相模原	121	63.6	50.4	40.5	38.0	33.9	39.7	19.8	15.7	2.5	6.6	-
横須賀三浦	111	63.1	46.8	42.3	34.2	30.6	30.6	19.8	20.7	2.7	5.4	1.8
県央	176	59.7	44.9	42.0	26.7	26.7	21.6	26.7	14.2	1.1	8.0	2.3
湘南	272	61.0	44.1	33.1	28.7	32.7	31.3	19.5	14.3	1.5	8.5	1.8
県西	74	52.7	36.5	33.8	29.7	28.4	27.0	13.5	14.9	2.7	13.5	1.4
【性・年代別】												
男性	703	56.2	45.8	33.4	26.9	24.0	29.7	20.9	16.5	3.0	9.8	1.1
女性	935	64.1	44.3	38.1	35.7	35.8	28.0	24.0	17.3	1.4	7.0	1.4
男性18～29歳	31	61.3	51.6	35.5	12.9	25.8	29.0	19.4	22.6	-	3.2	-
30歳代	54	38.9	46.3	24.1	24.1	29.6	33.3	20.4	14.8	7.4	9.3	-
40歳代	126	61.9	46.0	30.2	23.8	23.0	27.0	27.0	15.9	2.4	13.5	0.8
50歳代	179	54.2	46.9	33.5	26.8	20.7	29.1	16.2	12.3	2.2	12.3	0.6
60歳代	153	58.8	46.4	40.5	34.0	24.2	34.0	21.6	18.3	3.3	5.9	1.3
70～74歳	57	57.9	40.4	26.3	29.8	24.6	26.3	21.1	17.5	3.5	8.8	3.5
75歳以上	102	54.9	43.1	34.3	23.5	27.5	27.5	21.6	20.6	2.9	9.8	2.0
女性18～29歳	56	57.1	50.0	44.6	28.6	35.7	26.8	16.1	17.9	1.8	7.1	-
30歳代	112	64.3	50.0	33.9	22.3	20.5	28.6	27.7	17.9	1.8	10.7	0.9
40歳代	175	69.7	49.1	35.4	36.0	32.0	32.0	30.9	16.0	1.7	5.1	-
50歳代	220	68.2	42.7	42.3	36.8	35.5	29.1	23.6	20.0	1.8	7.3	-
60歳代	179	63.1	41.3	40.8	41.3	44.7	26.3	20.7	14.5	1.1	4.5	2.2
70～74歳	60	53.3	43.3	25.0	36.7	31.7	26.7	13.3	11.7	1.7	5.0	6.7
75歳以上	132	59.1	37.1	37.9	39.4	43.9	23.5	24.2	20.5	-	9.8	3.0

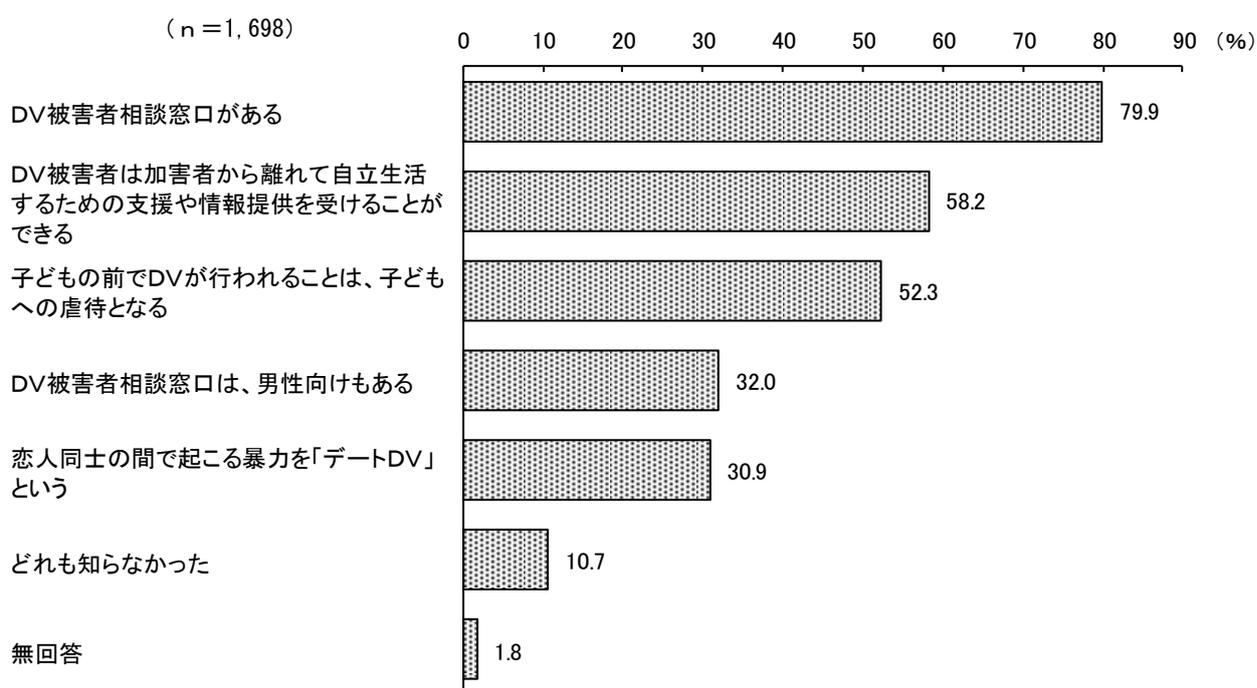
## 第11章 配偶者等からの暴力【問28】

### 1 配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと【問28】

#### 【全体の状況】

配偶者等からの暴力（DV）について、知っていたことを複数回答で尋ねたところ、「DV被害者相談窓口がある」が79.9%で最も多く、次いで「DV被害者は加害者から離れて自立生活するための支援や情報提供を受けることができる」が58.2%であった。（図表11-1-1）

図表11-1-1 配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと（複数回答）



図表11-1-2 配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと（複数回答）

—地域別、性・年代別

(%)

	n	D V 被 害 者 相 談 窓 口 が あ る	立 生 活 す る こ と が で き る 支 援 や 情 報 提 供	D V 被 害 者 は 加 害 者 か ら 離 れ て 自 ら 受 け る こ と が あ る	子 ど も の 前 で D V が 行 わ れ る こ と は 、 子 ど も へ の 虐 待 と な る	D V 被 害 者 相 談 窓 口 は 、 男 性 向 け も あ る	「 デ ー ト D V 」 と い う 恋 人 同 士 の 間 で 起 こ る 暴 力 を	ど れ も 知 ら な か つ た	無 回 答
全 体	1,698	79.9	58.2	52.3	32.0	30.9	10.7	1.8	
【地 域 別】									
横 浜	677	80.9	59.5	54.8	34.4	31.0	10.6	0.7	
川 崎	241	79.3	56.0	51.9	32.4	35.3	12.4	2.5	
相 模 原	121	83.5	63.6	59.5	31.4	29.8	9.9	—	
横 須 賀 三 浦	111	82.9	60.4	52.3	36.0	26.1	9.0	1.8	
県 央	176	75.6	58.5	40.3	30.1	26.7	14.8	3.4	
湘 南	272	78.7	54.0	51.1	28.7	32.0	8.1	1.8	
県 西	74	75.7	59.5	54.1	28.4	37.8	13.5	4.1	
【性・年代別】									
男 性	703	73.0	44.5	41.5	29.0	22.9	16.5	1.8	
女 性	935	85.2	68.9	61.2	35.2	37.2	6.5	1.2	
男性18～29歳	31	80.6	25.8	48.4	41.9	45.2	9.7	6.5	
30歳代	54	66.7	25.9	46.3	33.3	25.9	20.4	—	
40歳代	126	76.2	38.1	40.5	34.9	26.2	16.7	1.6	
50歳代	179	74.9	48.0	40.2	33.5	26.3	14.5	—	
60歳代	153	72.5	47.1	47.7	26.8	21.6	16.3	2.6	
70～74歳	57	71.9	57.9	36.8	15.8	17.5	15.8	3.5	
75歳以上	102	68.6	51.0	34.3	18.6	9.8	19.6	2.9	
女性18～29歳	56	76.8	44.6	64.3	30.4	50.0	10.7	—	
30歳代	112	86.6	58.0	60.7	40.2	46.4	8.9	0.9	
40歳代	175	91.4	71.4	64.0	44.6	42.3	5.7	—	
50歳代	220	91.8	75.9	68.2	43.2	44.5	3.2	—	
60歳代	179	80.4	74.9	63.7	32.4	34.6	7.8	1.7	
70～74歳	60	76.7	70.0	46.7	21.7	15.0	8.3	5.0	
75歳以上	132	78.8	64.4	48.5	17.4	18.9	6.8	3.0	

## 第12章 犯罪被害者等への支援【問29～問31】

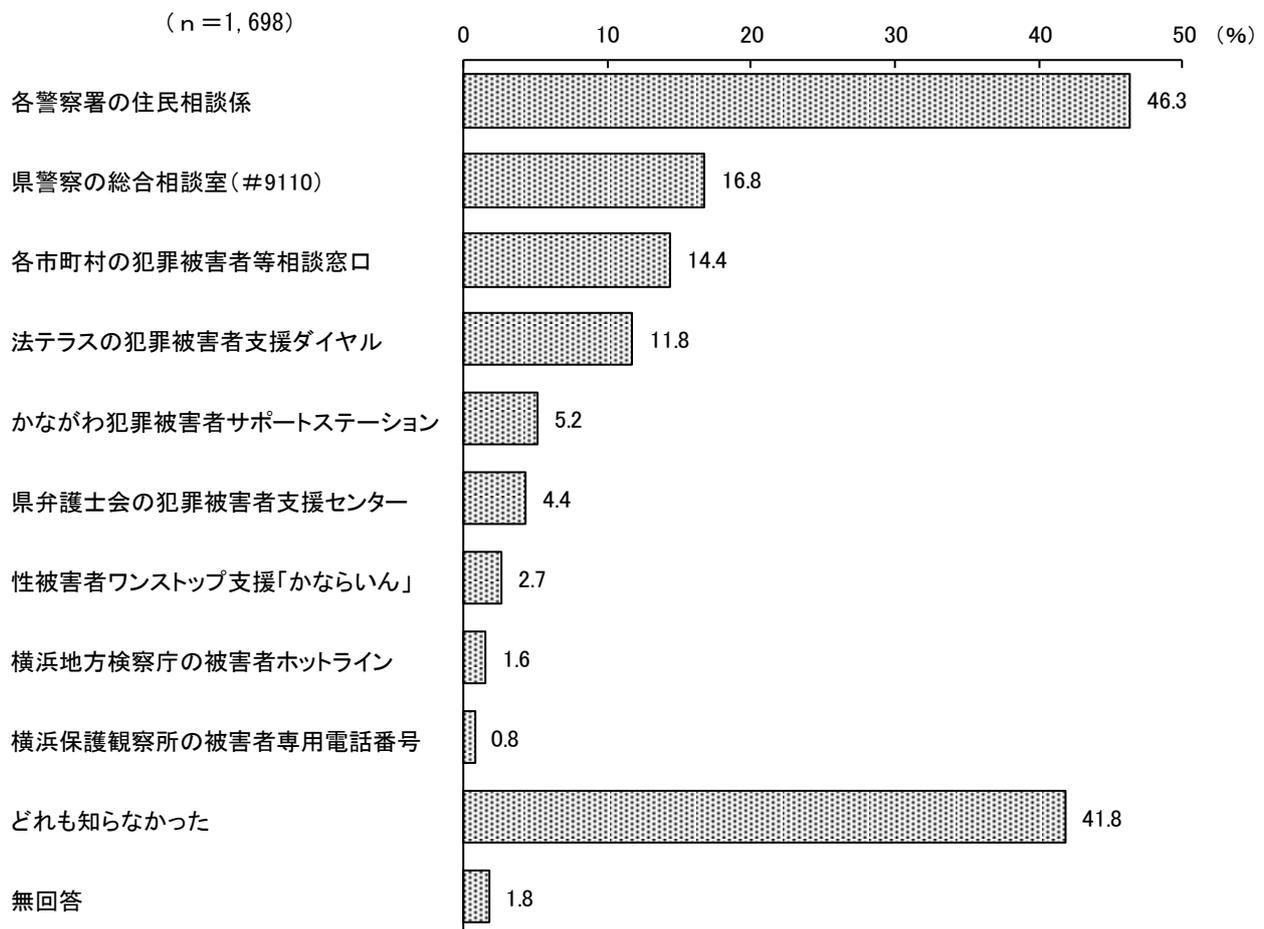
### 1 犯罪被害者等の相談窓口として知っているもの【問29】

#### 【全体の状況】

犯罪被害者等の相談窓口のうち、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「各警察署の住民相談係」が46.3%で最も多く、次いで「県警察の総合相談室（#9110）」が16.8%であった。

一方、「どれも知らなかった」が41.8%であった。（図表12-1-1）

図表12-1-1 犯罪被害者等の相談窓口として知っているもの（複数回答）



図表12-1-2 犯罪被害者等の相談窓口として知っているもの（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	各警察署の住民相談係	9110 県警察の総合相談室（#）	各市町村の犯罪被害者等相談窓口	法テラスの犯罪被害者支援ダイヤル	かながわ犯罪被害者サポートステーション	県弁護士会の犯罪被害者支援センター	性被害者ワンストップ支援「かならいん」	横浜地方検察庁の被害者ホットライン	横浜保護観察所の被害者専用電話番号	どれも知らなかった	無回答
全体	1,698	46.3	16.8	14.4	11.8	5.2	4.4	2.7	1.6	0.8	41.8	1.8
【地域別】												
横浜	677	45.8	16.5	12.4	12.7	4.6	4.9	3.4	2.1	0.9	42.4	1.8
川崎	241	43.2	15.8	10.4	11.2	3.7	5.4	0.8	1.7	0.4	44.8	1.7
相模原	121	52.1	17.4	20.7	12.4	4.1	5.0	2.5	0.8	1.7	36.4	-
横須賀三浦	111	47.7	15.3	17.1	12.6	6.3	6.3	1.8	0.9	-	40.5	1.8
県央	176	47.7	17.6	19.3	12.5	6.3	2.8	1.7	1.7	1.1	40.3	2.8
湘南	272	46.3	18.0	13.2	8.1	7.0	1.1	4.0	0.7	0.7	42.3	1.1
県西	74	44.6	18.9	20.3	17.6	6.8	9.5	1.4	2.7	1.4	44.6	1.4
【性・年代別】												
男性	703	45.2	18.1	12.8	11.4	5.3	5.7	2.3	1.7	0.7	43.5	1.4
女性	935	47.2	15.8	15.1	12.2	5.3	3.4	3.1	1.5	1.0	41.1	1.6
男性18～29歳	31	29.0	19.4	12.9	19.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	41.9	3.2
30歳代	54	42.6	11.1	11.1	11.1	1.9	3.7	-	1.9	1.9	50.0	-
40歳代	126	47.6	15.9	14.3	11.9	7.9	2.4	2.4	0.8	-	41.3	-
50歳代	179	43.6	18.4	9.5	11.2	5.6	6.1	2.8	2.8	1.1	46.9	0.6
60歳代	153	49.7	22.2	15.7	13.7	5.9	5.9	3.3	1.3	0.7	39.9	2.6
70～74歳	57	43.9	14.0	10.5	5.3	3.5	7.0	-	1.8	-	45.6	3.5
75歳以上	102	46.1	19.6	14.7	8.8	3.9	9.8	2.0	1.0	-	41.2	2.0
女性18～29歳	56	53.6	10.7	12.5	16.1	1.8	-	1.8	-	-	33.9	-
30歳代	112	50.0	12.5	15.2	12.5	4.5	2.7	3.6	1.8	-	40.2	0.9
40歳代	175	45.7	13.7	16.6	12.6	5.1	-	6.9	-	0.6	47.4	0.6
50歳代	220	42.3	14.5	14.5	11.8	4.5	3.6	3.2	1.4	1.4	45.0	0.9
60歳代	179	44.1	13.4	14.0	16.2	5.6	5.0	1.1	1.1	0.6	43.6	1.1
70～74歳	60	50.0	23.3	18.3	8.3	5.0	3.3	-	3.3	1.7	36.7	1.7
75歳以上	132	55.3	25.8	15.2	6.8	9.1	7.6	2.3	3.8	2.3	28.0	6.1

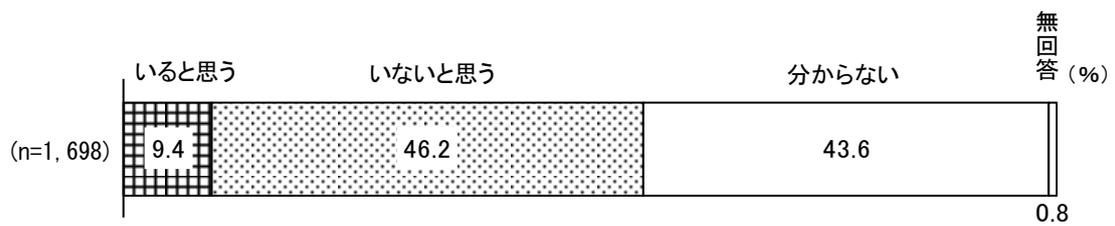
## 2 身近に現在、犯罪被害にあっている17歳以下の子どもはいると思うか【問30】

### 【全体の状況】

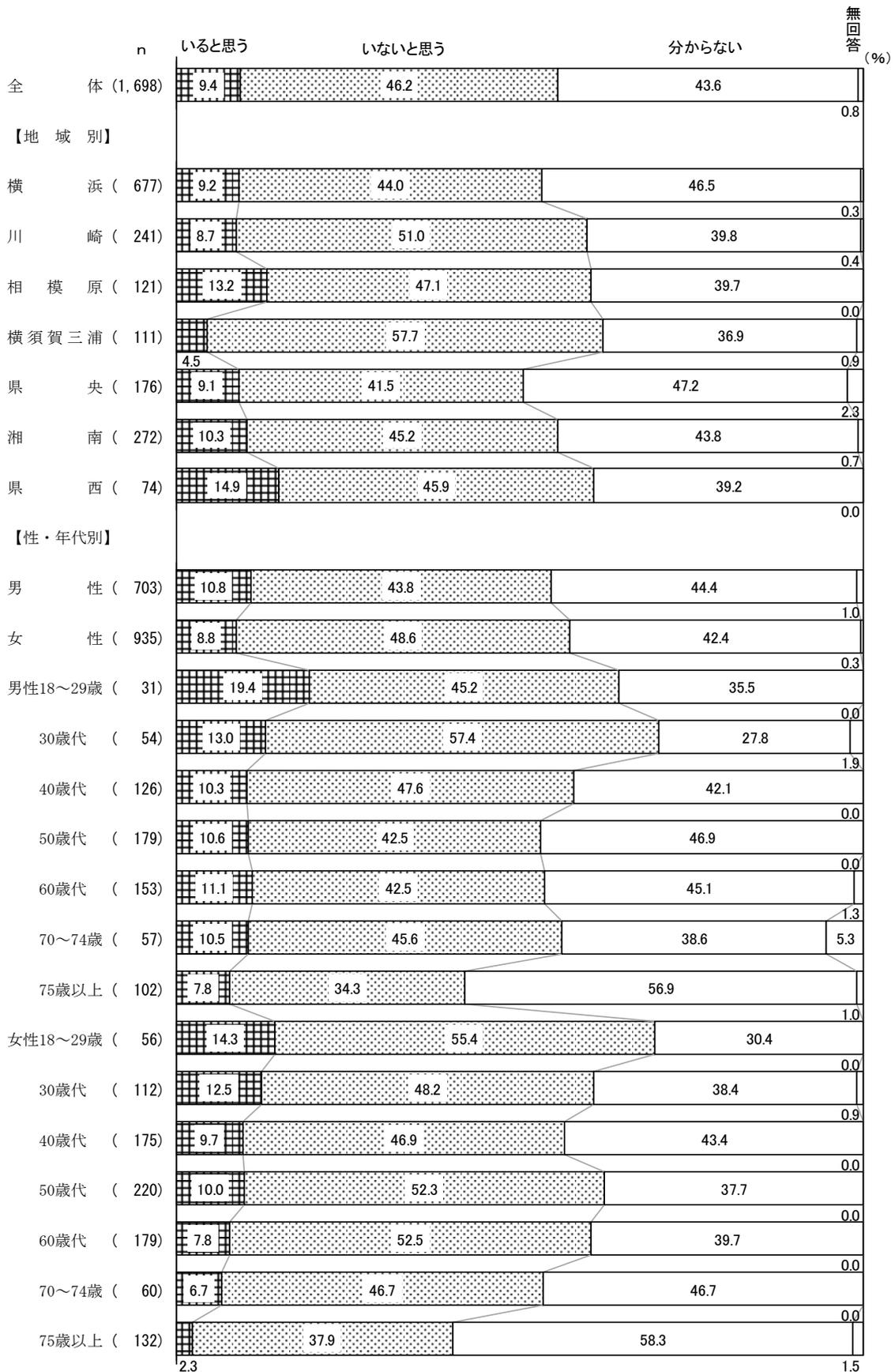
近所や職場、親戚などの身近に、現在、犯罪被害にあっている17歳以下の子どもはいると思うか尋ねたところ、「いると思う」が9.4%であった。

一方、「いないと思う」が46.2%であった。(図表12-2-1)

図表12-2-1 身近に現在、犯罪被害にあっている17歳以下の子どもはいると思うか



図表12-2-2 身近に現在、犯罪被害にあっている17歳以下の子どもはいると思うか  
—地域別、性・年代別

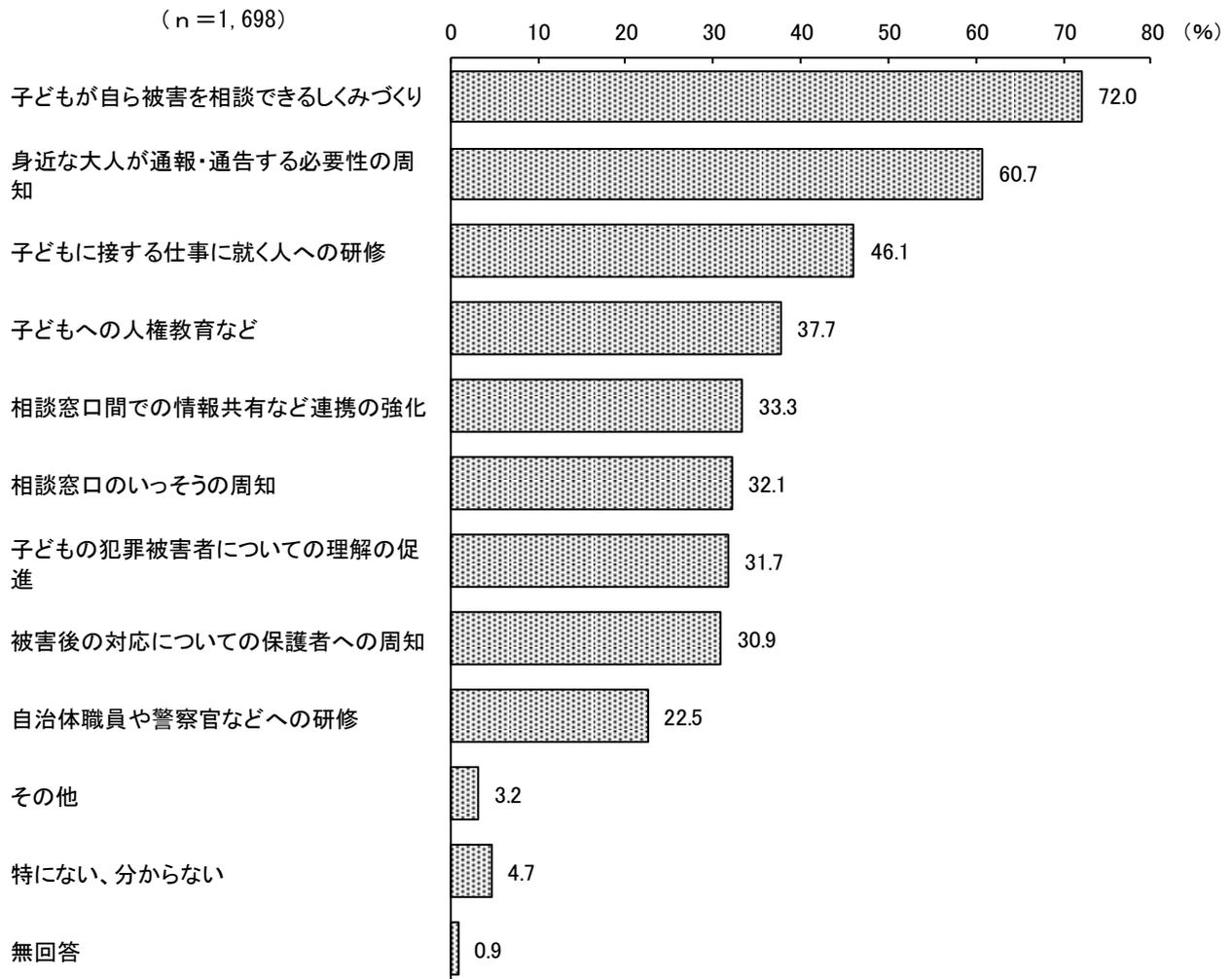


### 3 犯罪被害にあっている子どもを早期発見するために効果的だと思う取組み【問31】

#### 【全体の状況】

犯罪被害にあっている子どもを早期発見するために効果的だと思う取組みについて複数回答で尋ねたところ、「子どもが自ら被害を相談できるしくみづくり」が72.0%で最も多く、次いで「身近な大人が通報・通告する必要性の周知」が60.7%であった。(図表12-3-1)

図表12-3-1 犯罪被害にあっている子どもを早期発見するために効果的だと思う取組み（複数回答）



図表12-3-2 犯罪被害にあっている子どもを早期発見するために効果的だと思う取組み（複数回答）  
—地域別、性・年代別

		(%)											
	n	子どもが自ら被害を相談できるしくみづくり	身近な大人が通報・通告する必要の周知	子どもに接する仕事に就く人への研修	子どもへの人権教育など	相談窓口間の情報共有など連携の強化	相談窓口のいっそうの周知	子どもの犯罪被害者についての理解の促進	被害後の対応についての保護者への周知	自治体職員や警察官などへの研修	その他	特にない、分からない	無回答
全体	1,698	72.0	60.7	46.1	37.7	33.3	32.1	31.7	30.9	22.5	3.2	4.7	0.9
【地域別】													
横浜	677	71.2	58.5	47.9	37.7	32.6	31.9	31.8	30.1	23.9	3.1	5.0	0.9
川崎	241	72.6	61.8	49.4	35.3	33.6	31.1	34.0	30.3	21.2	4.1	4.1	0.8
相模原	121	77.7	70.2	47.9	38.8	32.2	25.6	29.8	36.4	23.1	4.1	4.1	-
横須賀三浦	111	72.1	65.8	43.2	39.6	35.1	36.0	31.5	33.3	22.5	3.6	4.5	0.9
県央	176	71.0	61.9	43.8	41.5	31.3	32.4	34.1	32.4	19.9	2.3	2.3	1.7
湘南	272	70.2	58.1	41.2	37.1	34.9	34.6	28.7	29.8	21.0	3.7	5.5	0.4
県西	74	75.7	59.5	41.9	39.2	33.8	36.5	36.5	29.7	25.7	1.4	9.5	-
【性・年代別】													
男性	703	64.2	55.2	40.3	32.6	29.7	27.3	26.7	26.3	22.2	4.0	8.0	0.7
女性	935	77.5	64.8	50.3	41.9	35.9	35.5	36.0	34.2	22.8	2.8	2.5	0.9
男性18～29歳	31	64.5	51.6	41.9	29.0	32.3	29.0	35.5	25.8	41.9	6.5	-	-
30歳代	54	66.7	51.9	25.9	25.9	27.8	16.7	37.0	33.3	18.5	7.4	9.3	-
40歳代	126	64.3	58.7	47.6	36.5	29.4	27.8	30.2	31.0	19.8	5.6	8.7	-
50歳代	179	62.6	55.3	41.9	31.3	26.8	21.8	30.2	24.6	20.1	2.2	8.9	-
60歳代	153	69.3	54.9	37.9	41.8	35.3	32.7	22.2	25.5	24.8	3.9	4.6	1.3
70～74歳	57	59.6	59.6	40.4	22.8	28.1	26.3	19.3	17.5	26.3	7.0	8.8	3.5
75歳以上	102	60.8	52.0	39.2	26.5	28.4	34.3	19.6	26.5	18.6	1.0	10.8	1.0
女性18～29歳	56	66.1	66.1	48.2	32.1	26.8	33.9	33.9	26.8	23.2	1.8	3.6	-
30歳代	112	79.5	63.4	52.7	50.9	30.4	27.7	45.5	35.7	20.5	4.5	1.8	0.9
40歳代	175	75.4	67.4	57.1	45.7	35.4	33.7	44.6	38.3	24.6	6.3	1.7	-
50歳代	220	78.6	70.0	47.3	44.5	39.5	33.6	36.8	34.1	24.5	3.2	1.8	0.5
60歳代	179	82.1	64.2	51.4	39.7	39.1	40.2	31.3	31.8	25.1	1.1	2.2	0.6
70～74歳	60	73.3	60.0	38.3	33.3	33.3	43.3	16.7	33.3	11.7	-	5.0	1.7
75歳以上	132	77.3	56.8	49.2	36.4	35.6	37.9	31.1	34.1	20.5	-	3.8	3.0

## 第13章 生活に不安や課題がある人への支援【問32～問34】

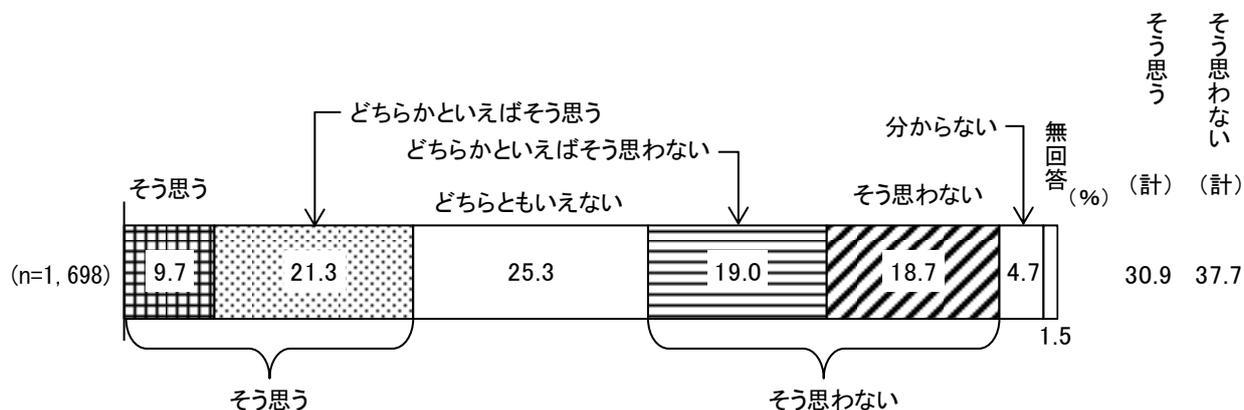
### 1 誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度【問32】

#### 【全体の状況】

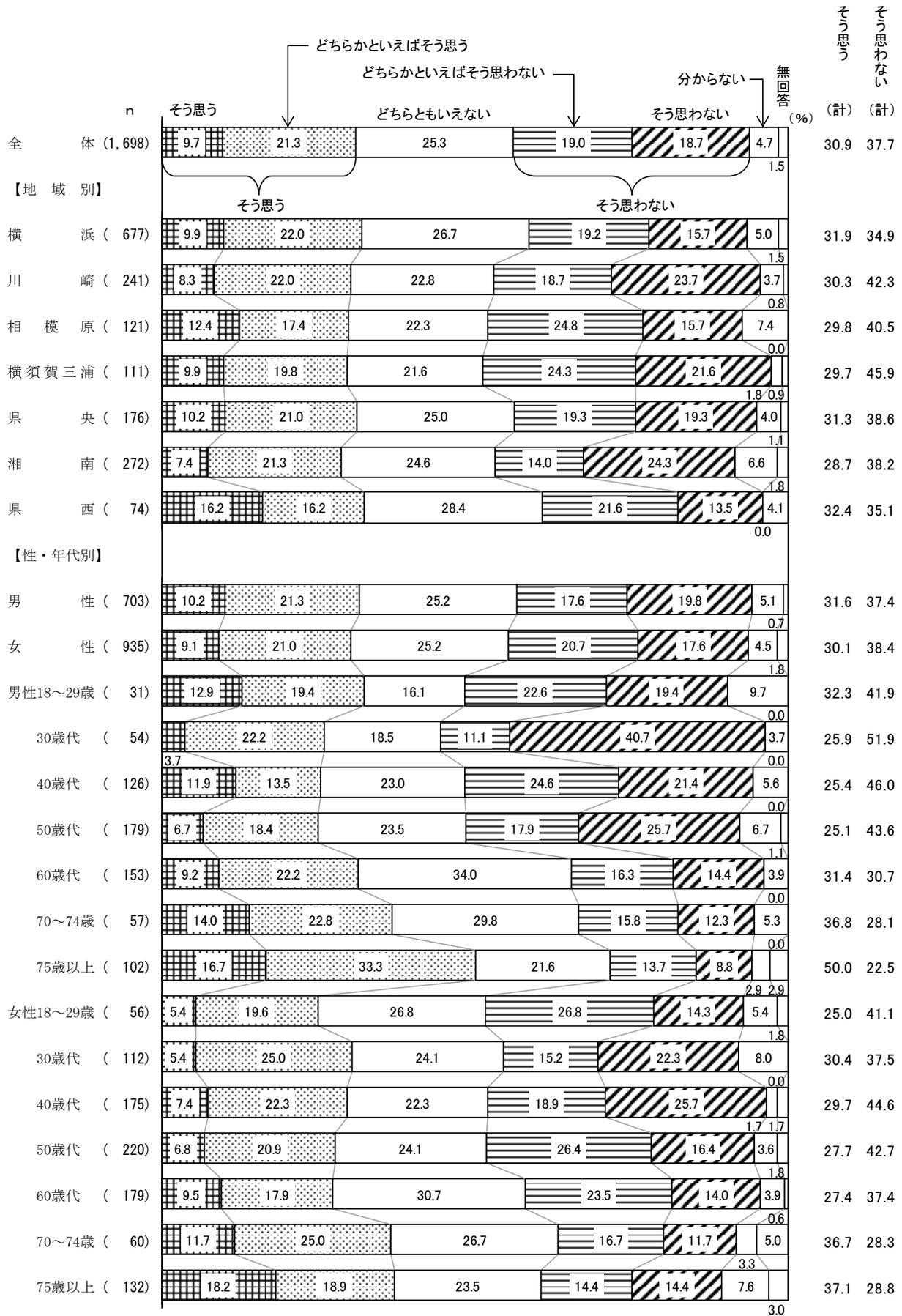
私たちのくらす社会では、生まれ育った環境にかかわらず誰もが夢や希望を持てると思うか尋ねたところ、「そう思う」(9.7%)と「どちらかといえばそう思う」(21.3%)を合わせた《そう思う》は30.9%であった。

一方、「そう思わない」(18.7%)と「どちらかといえばそう思わない」(19.0%)を合わせた《そう思わない》は37.7%であった。(図表13-1-1)

図表13-1-1 誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度



図表13-1-2 誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度—地域別、性・年代別



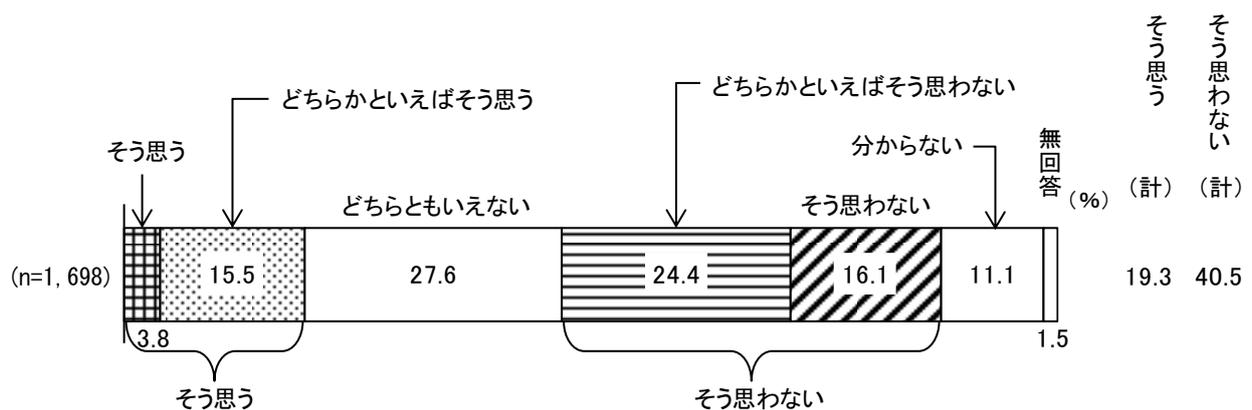
## 2 ひとり親家庭への支援状況【問33】

### 【全体の状況】

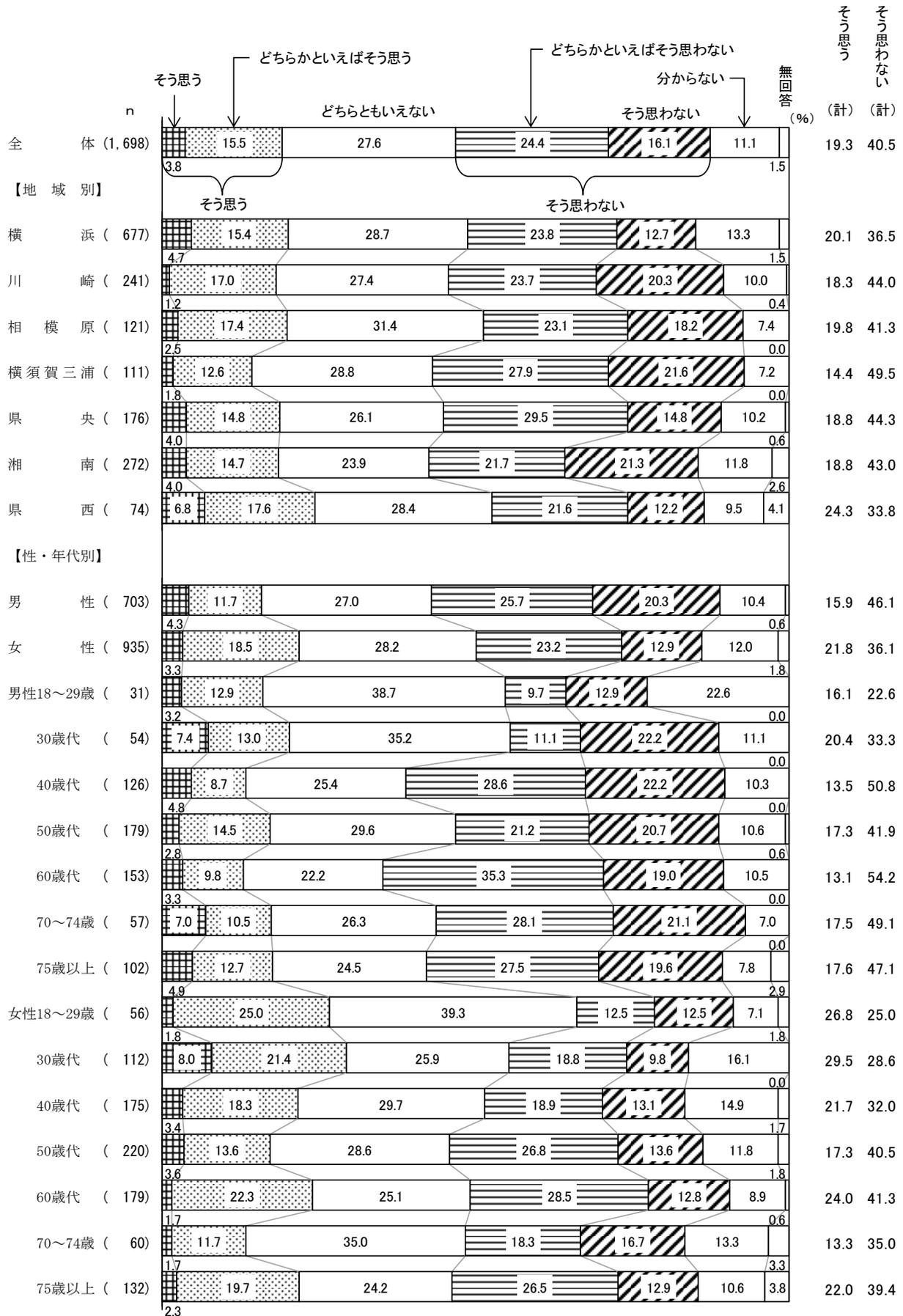
ひとり親家庭を、社会全体で支援できていると思うか尋ねたところ、「そう思う」(3.8%)と「どちらかといえばそう思う」(15.5%)を合わせた《そう思う》は19.3%であった。

一方、「そう思わない」(16.1%)と「どちらかといえばそう思わない」(24.4%)を合わせた《そう思わない》は40.5%であった。(図表13-2-1)

図表13-2-1 ひとり親家庭への支援状況



図表13-2-2 ひとり親家庭への支援状況—地域別、性・年代別



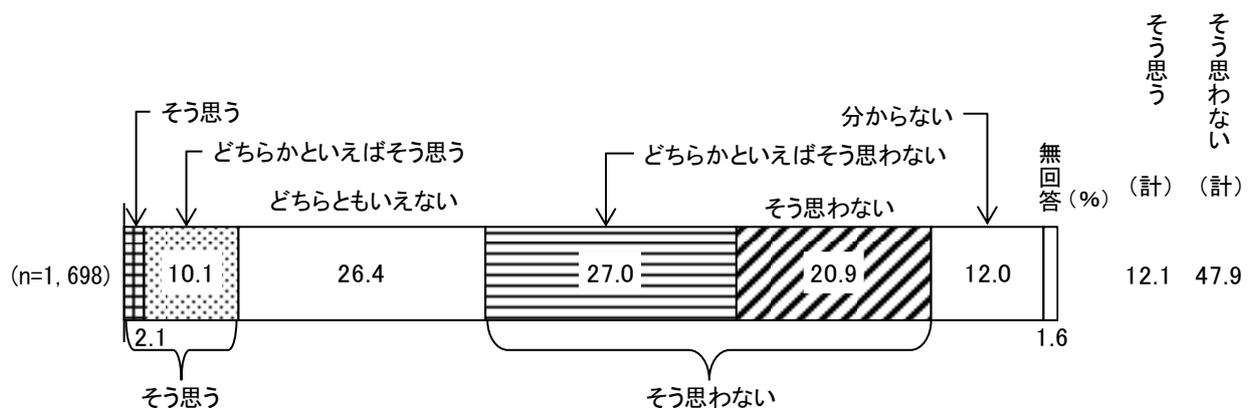
### 3 日々の生活に悩みや課題を抱える女性への支援状況【問34】

#### 【全体の状況】

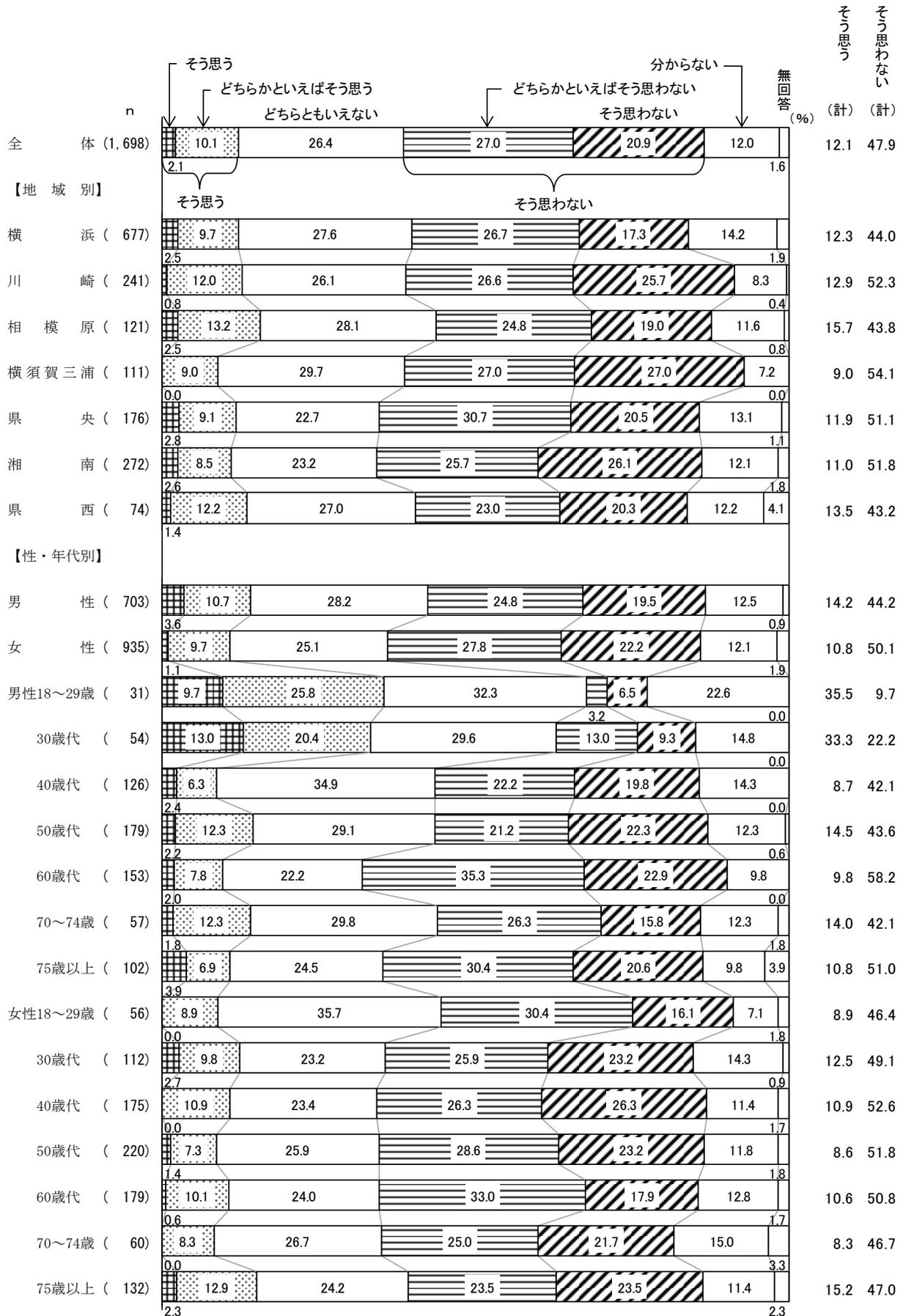
日々の生活に悩みや課題を抱える女性を、社会全体で支援できていると思うか尋ねたところ、「そう思う」(2.1%)と「どちらかといえばそう思う」(10.1%)を合わせた《そう思う》は12.1%であった。

一方、「そう思わない」(20.9%)と「どちらかといえばそう思わない」(27.0%)を合わせた《そう思わない》は47.9%であった。(図表13-3-1)

図表13-3-1 日々の生活に悩みや課題を抱える女性への支援状況



図表13-3-2 日々の生活に悩みや課題を抱える女性への支援状況—地域別、性・年代別



## 第14章 インクルーシブ教育【問35～問37】

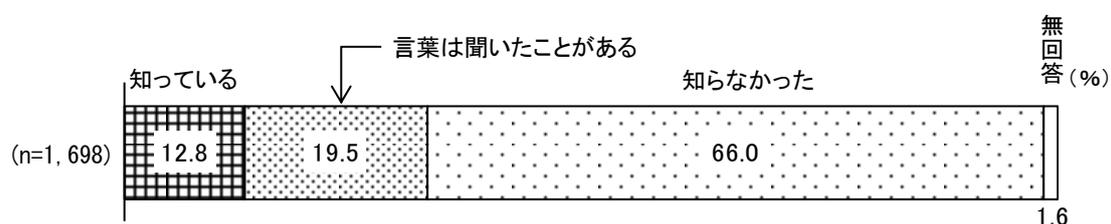
### 1 県のめざす「インクルーシブ教育」の認知度【問35】

#### 【全体の状況】

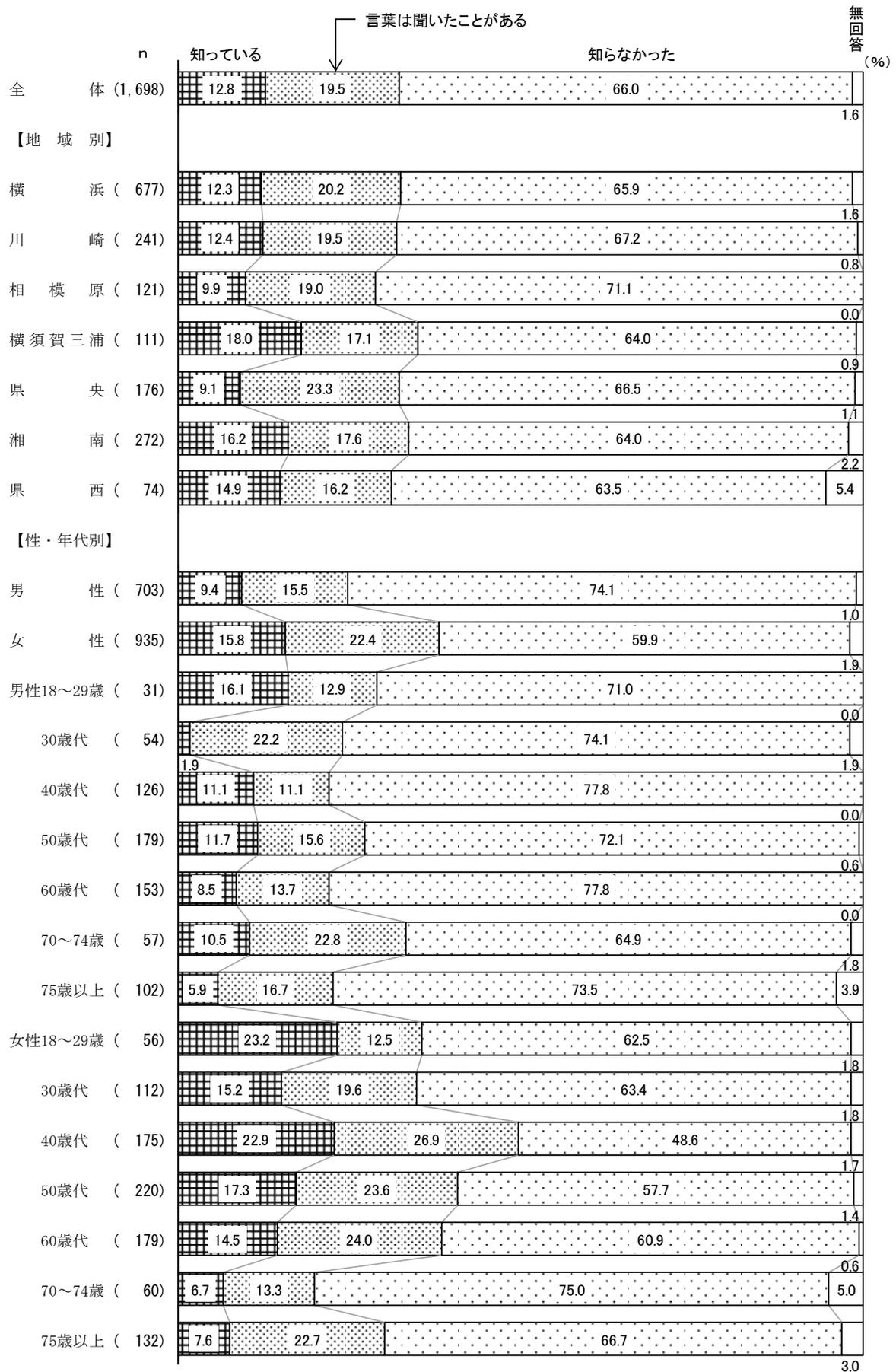
県のめざす「インクルーシブ教育」を知っているか尋ねたところ、「知っている」が12.8%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が19.5%であった。

一方、「知らなかった」が66.0%であった。(図表14-1-1)

図表14-1-1 県のめざす「インクルーシブ教育」の認知度



図表14-1-2 県のめざす「インクルーシブ教育」の認知度—地域別、性・年代別



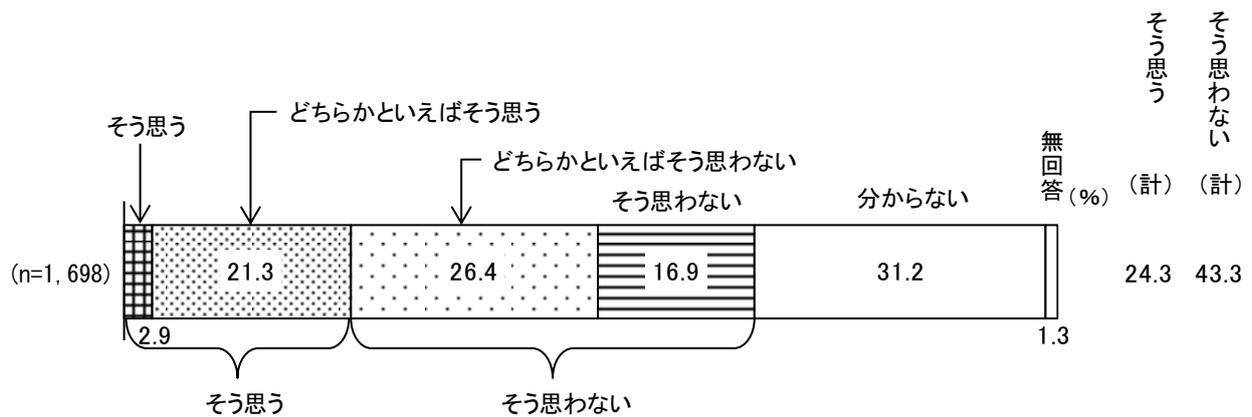
## 2 現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか【問36】

### 【全体の状況】

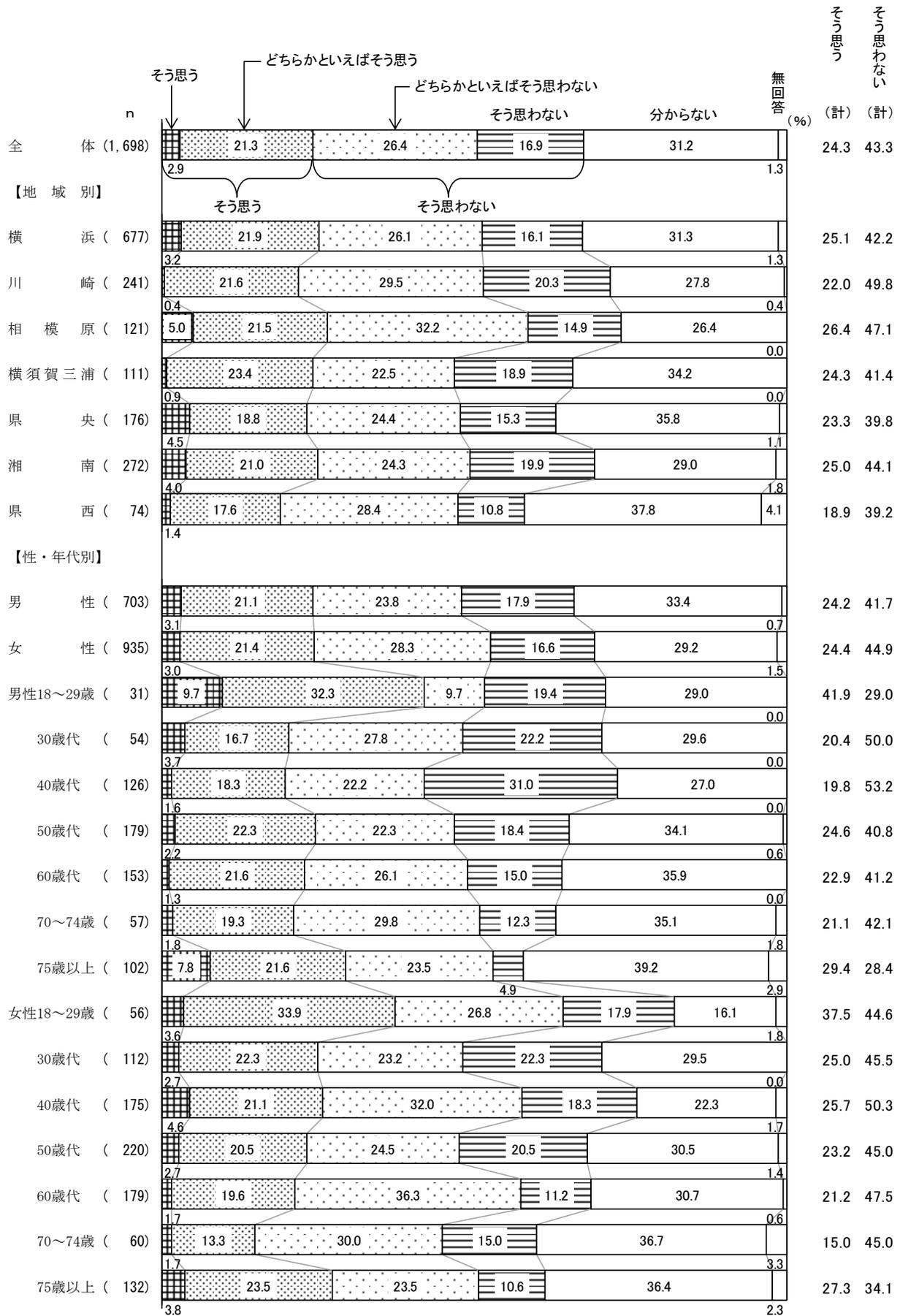
現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか尋ねたところ、「そう思う」(2.9%)と「どちらかといえばそう思う」(21.3%)を合わせた《そう思う》は24.3%であった。

一方、「そう思わない」(16.9%)と「どちらかといえばそう思わない」(26.4%)を合わせた《そう思わない》は43.3%であった。(図表14-2-1)

図表14-2-1 現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか



図表14-2-2 現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うかー地域別、性・年代別



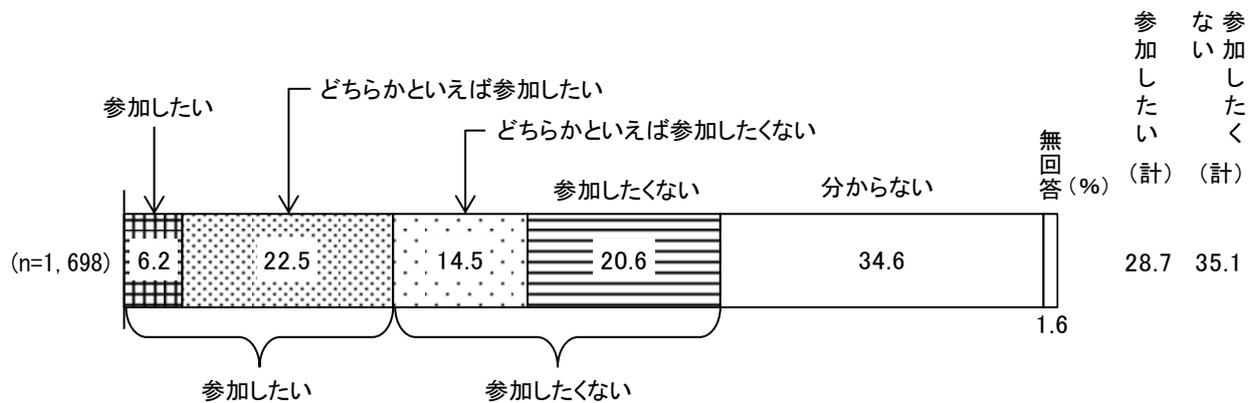
### 3 すべての子どもが学べる学校づくりへの参加意向【問37】

#### 【全体の状況】

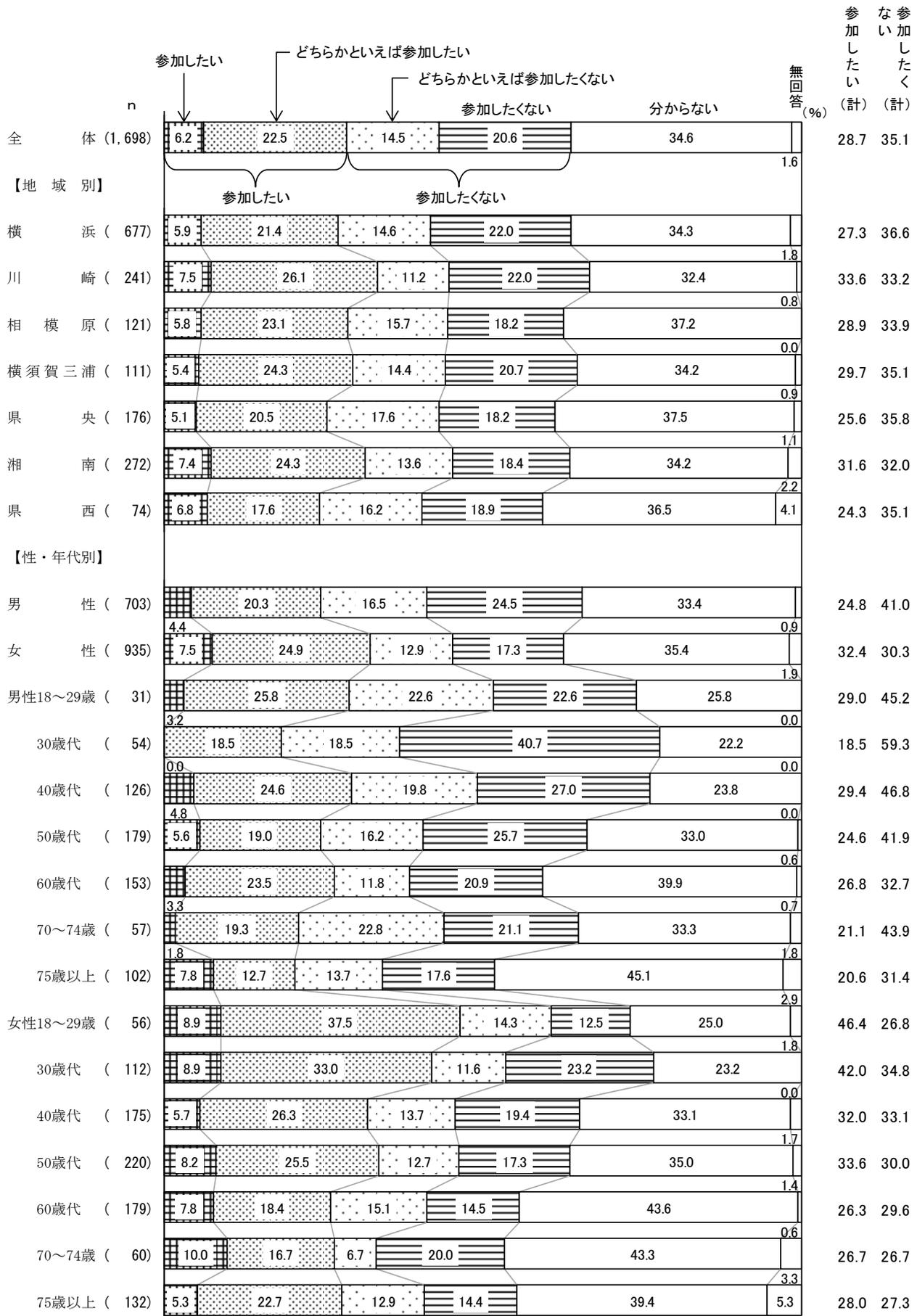
すべての子どもが学べる学校づくりに、ボランティアなどで参加したいと思うか尋ねたところ、「参加したい」(6.2%)と「どちらかといえば参加したい」(22.5%)を合わせた《参加したい》は28.7%であった。

一方、「参加したくない」(20.6%)と「どちらかといえば参加したくない」(14.5%)を合わせた《参加したくない》は35.1%であった。(図表14-3-1)

図表14-3-1 すべての子どもが学べる学校づくりへの参加意向



図表14-3-2 すべての子どもが学べる学校づくりへの参加意向—地域別、性・年代別



## 第15章 かながわの広報【問38～問40】

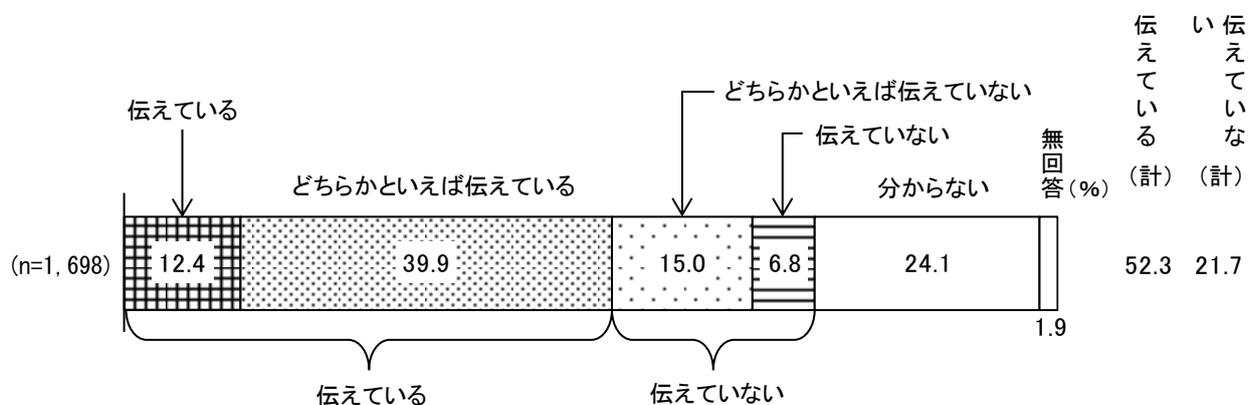
### 1 県の広報の達成度【問38】

#### 【全体の状況】

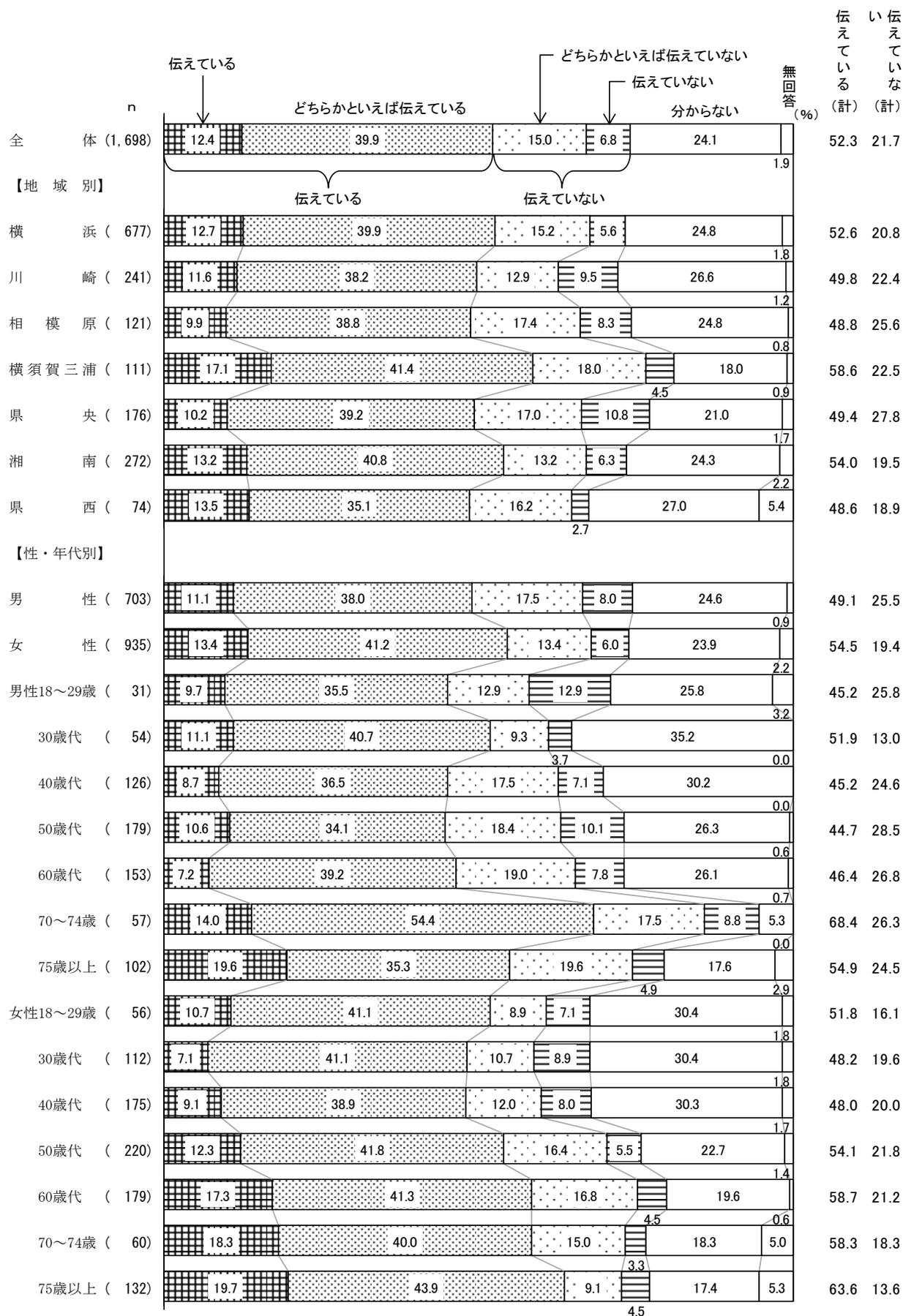
県が県政情報を伝えていると思うか尋ねたところ、「伝えている」(12.4%)と「どちらかといえば伝えている」(39.9%)を合わせた《伝えている》は52.3%であった。

一方、「伝えていない」(6.8%)と「どちらかといえば伝えていない」(15.0%)を合わせた《伝えていない》は21.7%であった。(図表15-1-1)

図表15-1-1 県の広報の達成度



図表15-1-2 県の広報の達成度—地域別、性・年代別



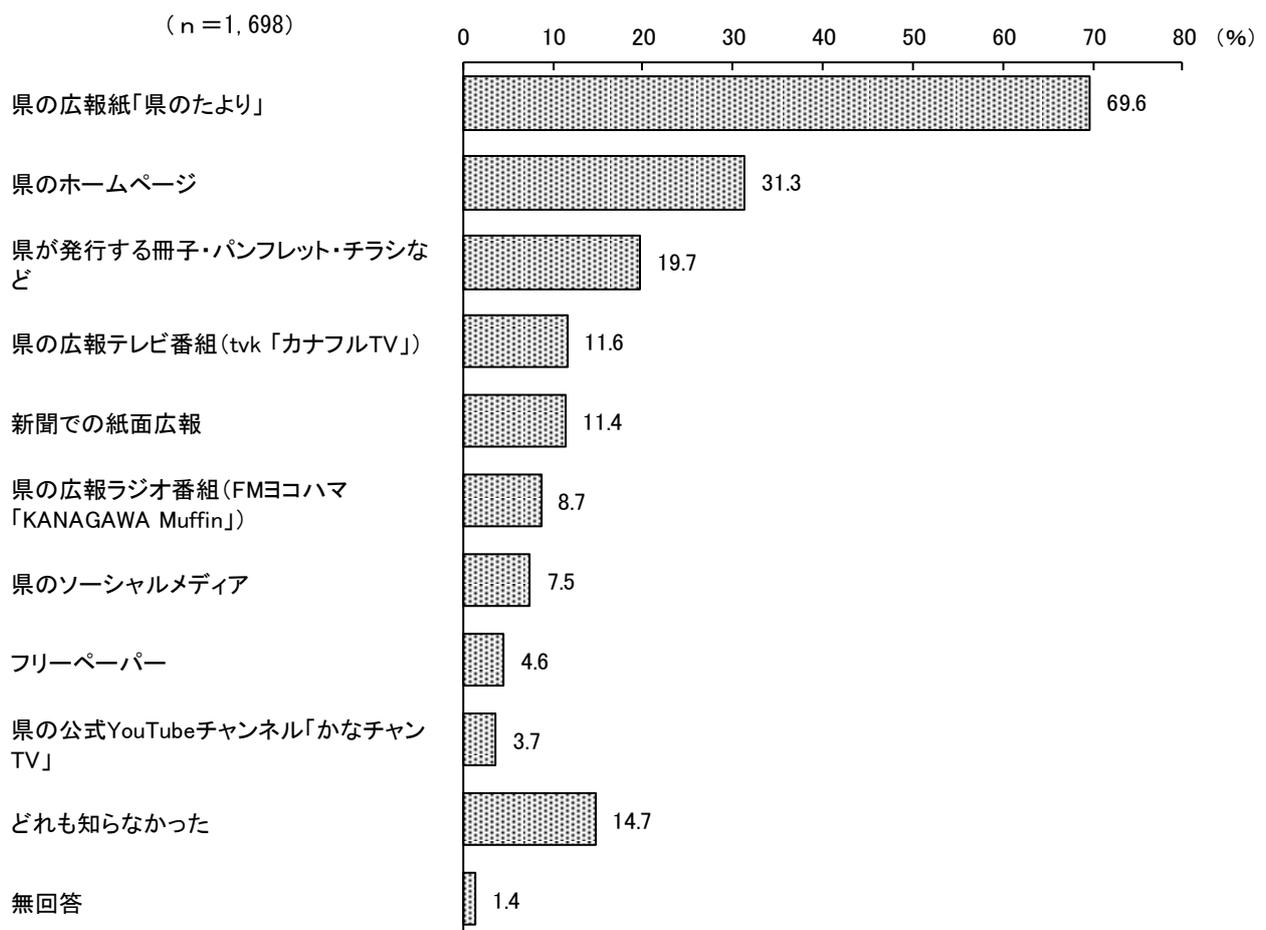
## 2 県の広報媒体の認知度【問39】

### 【全体の状況】

県が県政情報を伝えている広報媒体について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」が69.6%で最も多く、次いで「県のホームページ」が31.3%であった。

(図表 15-2-1)

図表15-2-1 県の広報媒体の認知度（複数回答）



図表15-2-2 県の広報媒体の認知度（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

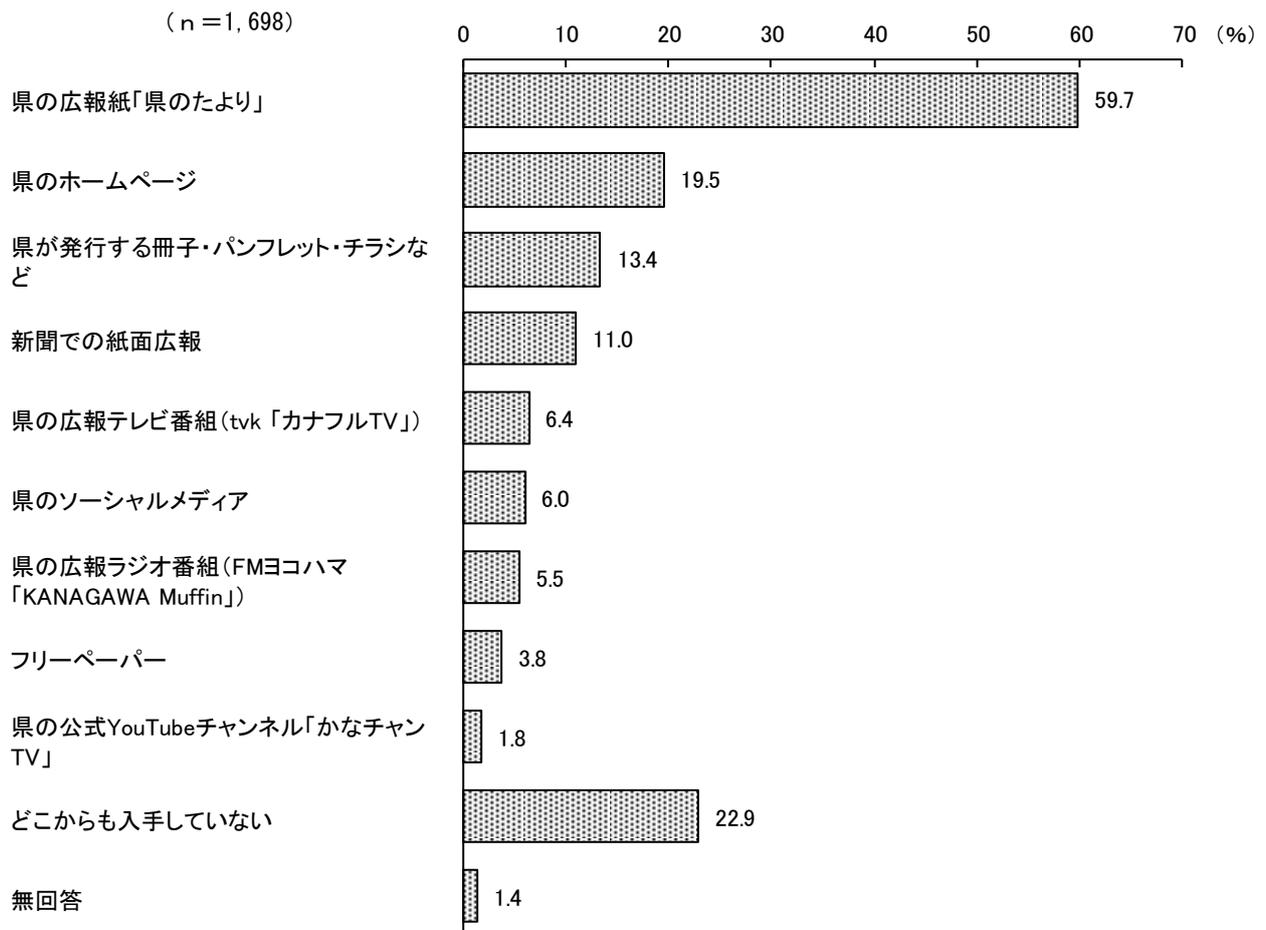
	n	県の広報紙「県のたより」	県のホームページ	県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	県の広報テレビ番組（「tvk」）	新聞での紙面広報	県庁（「Muf fin」）	県の広報ラジオ番組（「FMヨコハマ」）	県のソーシャルメディア	フリーペーパー	県の公式YouTubeチャンネル	どれも知らなかった	無回答
全体	1,698	69.6	31.3	19.7	11.6	11.4	8.7	7.5	4.6	3.7	14.7	1.4	
【地域別】													
横浜	677	75.8	30.3	20.1	10.0	10.6	6.5	7.4	4.6	3.7	13.4	1.2	
川崎	241	64.3	32.8	21.2	6.2	6.6	3.7	7.1	4.6	2.1	18.3	0.4	
相模原	121	53.7	38.8	22.3	14.9	14.9	14.9	13.2	6.6	4.1	14.0	0.8	
横須賀三浦	111	78.4	30.6	17.1	13.5	10.8	10.8	7.2	4.5	1.8	10.8	-	
県央	176	61.9	31.3	18.8	9.7	11.4	10.2	8.0	4.5	4.5	17.6	1.1	
湘南	272	64.3	32.7	16.2	18.0	14.3	12.5	6.6	4.8	4.0	16.9	1.8	
県西	74	75.7	25.7	25.7	17.6	12.2	16.2	4.1	2.7	6.8	9.5	5.4	
【性・年代別】													
男性	703	63.7	31.7	18.9	11.9	11.8	9.5	6.3	2.8	4.0	20.2	0.9	
女性	935	73.9	31.4	20.3	10.9	10.6	8.3	8.8	6.2	3.5	10.9	1.5	
男性18～29歳	31	25.8	32.3	22.6	9.7	16.1	25.8	12.9	9.7	3.2	25.8	-	
30歳代	54	37.0	33.3	16.7	7.4	3.7	7.4	9.3	1.9	1.9	40.7	-	
40歳代	126	51.6	24.6	16.7	8.7	8.7	6.3	8.7	4.0	2.4	33.3	1.6	
50歳代	179	68.7	39.1	15.1	11.7	10.1	12.8	6.1	2.8	7.3	15.6	-	
60歳代	153	65.4	32.0	20.9	14.4	9.8	9.8	7.2	3.3	3.3	17.0	-	
70～74歳	57	78.9	42.1	22.8	12.3	19.3	5.3	1.8	-	1.8	8.8	1.8	
75歳以上	102	85.3	20.6	23.5	15.7	20.6	5.9	1.0	1.0	3.9	9.8	2.9	
女性18～29歳	56	19.6	28.6	19.6	7.1	7.1	12.5	16.1	7.1	-	33.9	1.8	
30歳代	112	42.0	33.0	20.5	8.0	5.4	6.3	16.1	8.9	2.7	24.1	-	
40歳代	175	61.7	38.9	16.6	6.3	3.4	10.3	13.7	11.4	2.9	16.6	2.3	
50歳代	220	85.9	38.6	20.0	12.3	8.6	6.8	10.0	6.4	4.1	5.5	1.4	
60歳代	179	89.9	38.0	22.3	12.3	14.0	12.3	4.5	5.0	4.5	2.8	-	
70～74歳	60	86.7	8.3	16.7	11.7	15.0	5.0	1.7	-	3.3	8.3	3.3	
75歳以上	132	93.2	11.4	25.0	16.7	22.7	4.5	-	0.8	4.5	3.8	2.3	

### 3 県政情報の入手先【問40】

#### 【全体の状況】

県政情報をどこから入手しているか複数回答で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」が59.7%で最も多く、次いで「県のホームページ」が19.5%であった。(図表 15-3-1)

図表15-3-1 県政情報の入手先（複数回答）



図表15-3-2 県政情報の入手先（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	県の広報紙「県のたより」	県のホームページ	県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	新聞での紙面広報	県の広報テレビ番組（tvk「カナフルTV」）	県のソーシャルメディア	県マ（KANAGAWA Muffin）	県の広報ラジオ番組（FMヨコハ）	フリーペーパー	県の公式YouTubeチャンネル「かなちゃんTV」	どこからも入手していない	無回答
全体	1,698	59.7	19.5	13.4	11.0	6.4	6.0	5.5	3.8	1.8	22.9	1.4	
【地域別】													
横浜	677	67.2	18.5	13.7	9.6	5.6	6.6	4.1	4.0	1.5	20.8	1.2	
川崎	241	57.7	22.0	14.5	5.8	2.9	5.0	1.2	4.1	0.8	22.8	0.4	
相模原	121	43.0	24.0	12.4	13.2	10.7	9.9	12.4	5.0	4.1	26.4	-	
横須賀三浦	111	71.2	18.0	12.6	13.5	8.1	5.4	9.0	3.6	-	16.2	-	
県央	176	50.6	20.5	11.9	13.6	5.1	5.1	6.8	2.8	2.8	29.0	1.7	
湘南	272	48.5	19.9	12.5	15.1	9.6	6.6	5.9	3.7	1.8	28.7	2.2	
県西	74	64.9	12.2	13.5	8.1	8.1	-	10.8	4.1	5.4	14.9	5.4	
【性・年代別】													
男性	703	54.1	21.8	12.9	12.1	7.1	4.7	7.4	2.3	2.1	28.9	0.9	
女性	935	63.5	17.6	13.6	9.8	5.7	7.2	4.2	5.1	1.7	18.8	1.6	
男性18～29歳	31	19.4	19.4	12.9	9.7	6.5	6.5	19.4	-	-	35.5	-	
30歳代	54	20.4	16.7	11.1	1.9	5.6	7.4	1.9	-	-	53.7	-	
40歳代	126	43.7	20.6	11.9	4.8	4.8	7.9	4.8	2.4	3.2	42.1	0.8	
50歳代	179	55.9	21.2	9.5	9.5	6.1	3.9	7.8	4.5	2.2	31.3	-	
60歳代	153	54.9	24.2	13.1	14.4	9.8	5.2	9.8	2.6	1.3	22.9	-	
70～74歳	57	75.4	29.8	15.8	21.1	5.3	1.8	7.0	1.8	1.8	12.3	1.8	
75歳以上	102	79.4	19.6	19.6	23.5	9.8	1.0	5.9	-	3.9	10.8	3.9	
女性18～29歳	56	14.3	19.6	8.9	3.6	3.6	16.1	1.8	3.6	-	46.4	1.8	
30歳代	112	33.0	18.8	15.2	1.8	-	10.7	1.8	6.3	0.9	38.4	0.9	
40歳代	175	46.3	21.7	9.7	4.6	1.1	10.3	2.9	8.6	-	28.6	1.7	
50歳代	220	69.5	22.7	10.5	6.8	5.5	8.6	3.6	6.8	3.2	14.5	1.4	
60歳代	179	83.2	19.6	16.2	13.4	6.7	3.9	8.9	3.9	1.7	7.3	-	
70～74歳	60	80.0	3.3	13.3	16.7	11.7	1.7	3.3	-	1.7	11.7	5.0	
75歳以上	132	89.4	6.1	21.2	23.5	13.6	0.8	3.8	1.5	3.0	3.8	2.3	

第IV部 調査票と単純集計結果



## 調査票と単純集計結果

調査期間 令和7年10月24日～11月18日  
標本設計数 4,000 有効回収数(率) 1,698(42.5%)  
※「n」は、質問に対する回答者の総数を表す。  
「-」は、回答者が皆無であることを示す。  
※ 比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。

# 令和7年度(2025年)神奈川県『県民ニーズ調査』(第2回課題調査) 調査票

この調査は、県民の皆様のご意見やお考えをお聴きし、今後の県の施策を検討する基礎資料とするものです。日ごろのお考えを率直にお聴かせください。



### 【テーマ】

- |                           |                     |
|---------------------------|---------------------|
| 1 かながわの文化芸術               | 8 循環器病対策            |
| 2 伝統的工芸品                  | 9 依存症に対する意識         |
| 3 2027年国際園芸博覧会            | 10 かながわの人権          |
| 4 脱炭素・環境                  | 11 配偶者等からの暴力        |
| 5 生物多様性                   | 12 犯罪被害者等への支援       |
| 6 「未病改善」の取組み              | 13 生活に不安や課題がある人への支援 |
| 7 かながわ救急相談センター<br>(#7119) | 14 インクルーシブ教育        |
|                           | 15 かながわの広報          |

### ◆ 記入上の留意事項

- この調査のご回答は、**封筒のあて名のご本人様**にお願いいたします。
- この調査は無記名式です。お名前やご住所の**記入は不要**です。
- お答えは、直接、この調査票の**あてはまる番号を○**で囲んでください。
- ご記入いただく筆記用具の種類や色の指定はありません。
- 分かる質問だけお答えいただければ結構です。

ご記入いただいた調査票は、同封の**返送用封筒**に入れ、  
**11月18日(火)まで**にご投函ください。  
(切手の貼り付け、お名前やご住所の記入は不要です)



※インターネットからもご回答いただけます！  
(左記二次元コードから回答画面へ)

インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。

【お問い合わせ先】 神奈川県 政策局 政策部 情報公開広聴課 広聴グループ

○ お問い合わせフォーム



二次元コードから送信

※11月18日まで受付

○ 電話 (045)210-3672

※ 受付時間 月～金 8:30～17:15  
(12:00～13:00を除く/土日祝日は閉庁)

# 1 かながわの文化芸術

問1 この1年間で文化芸術を鑑賞、または、文化芸術活動に参加※した日数はどのくらいになりますか。  
(○は1つ) (n=1,698) (%)

1 週に5日以上	0.2	6 年に2～3日程度	24.1
2 週に2～4日程度	1.0	7 年に1日程度	12.8
3 週に1日程度	2.1	8 まったくない	31.4
4 月に1～3日程度	8.7	9 分からない	1.3
5 3か月に1～2日程度	16.0		(無回答 2.5)

※ ここでいう鑑賞とは、コンサートや美術展、映画、歴史的な文化財、アートや音楽のフェスティバルなどの文化芸術イベントを楽しみ、味わうことをいい、活動に参加とはそれ以外のことをいいます。

問2 ホールなどの文化施設での公演や展覧会へ行ってみたいと思うジャンルは、次のうちどれですか。  
(○はいくつでも) (n=1,698) (%)

1 伝統文化(民謡、三味線、歌舞伎、能など)	20.3	6 文学(詩、俳句、短歌、小説など)	4.5
2 演芸(落語、講談、漫才、浪曲など)	23.1	7 美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など)	43.9
3 生活文化(生け花、盆栽、書道など)	11.0	8 映像作品(映画、アニメ、CGなど)	54.9
4 音楽(歌謡曲、ポップス、クラシックなど)	57.4	9 その他	1.2
5 演劇・舞踊(ミュージカル、バレエなど)	38.6	10 行ってみたいとは思わない	7.7
			(無回答 2.2)

問3 文化芸術活動に参加※してみたいと思うジャンルは、次のうちどれですか。  
(○はいくつでも) (n=1,698) (%)

1 伝統文化(民謡、三味線、歌舞伎、能など)	5.7	6 文学(詩、俳句、短歌、小説など)	5.0
2 演芸(落語、講談、漫才、浪曲など)	3.5	7 美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など)	26.0
3 生活文化(生け花、盆栽、書道など)	15.1	8 映像作品(映画、アニメ、CGなど)	9.8
4 音楽(歌謡曲、ポップス、クラシックなど)	18.5	9 その他	1.2
5 演劇・舞踊(ミュージカル、バレエなど)	8.0	10 してみたいとは思わない	43.7
			(無回答 3.4)

※ ここでいう参加とは、自身で創作、発表することに限り、鑑賞や読書を含みません。

## 2 伝統的工芸品

問4 県の伝統的工芸品のうち、知っているものを選んでください。(〇は3つまで) (n=1,698) (%)

1 鎌倉彫	62.8	3 小田原漆器	15.4
2 箱根寄木細工	83.9	4 どれも知らなかった	9.5
(無回答 2.7)			

### 【問4で1～3を選んだ方へ】

問4-1 鎌倉彫、箱根寄木細工、小田原漆器などの伝統的工芸品に、どのようなイメージがありますか。(〇は3つまで) (n=1,491) (%)

1 文化や歴史がある	77.1	6 値段が高い	35.4
2 品質が良い	39.2	7 実用的ではない	11.7
3 個性がある	29.2	8 あまり身近なものではない	21.7
4 使い勝手が良い	1.6	9 その他	0.7
5 生活の質を向上させてくれる	7.8	10 特にない、分からない	1.5
(無回答 2.8)			

### 【全員の方がお答えください】

問5 鎌倉彫、箱根寄木細工、小田原漆器などの伝統的工芸品を、今後、購入したいと思いますか。(〇は1つ) (n=1,698) (%)

1 ぜひ購入したいと思う	2.0	4 あまり購入したいと思わない	18.6
2 機会があれば購入したいと思う	36.8	5 購入したいと思わない	16.9
3 どちらともいえない	23.1	(無回答 2.5)	

### 【問5で1、2を選んだ方へ】

問5-1 購入するとしたら、何のためですか。(〇は3つまで) (n=659) (%)

1 普段づかいのため	48.9	4 お土産として	37.6
2 観賞・飾りのため	44.0	5 その他	0.9
3 贈りものとして	34.9	6 特にない、分からない	0.3
(無回答 0.3)			

### 3 2027年国際園芸博覧会

問6 2027年3月から9月に横浜市で「国際園芸博覧会（正式略称：GREEN×EXPO 2027※）」が開催されることを知っていますか。（○は1つ）（n=1,698）（%）

1 知っている	51.0	3 知らなかった	38.0
2 言葉は聞いたことがある	10.1		（無回答 0.8）

※ GREEN×EXPO 2027 とは、横浜市で開催される、1都3県初の万国博覧会のことをいいます。日本での最上位クラスの国際園芸博覧会の開催は1990年「大阪花の万博」以来37年ぶり2回目となります。

→【問6で1、2を選んだ方へ】

問6-1 GREEN×EXPO 2027を知ったきっかけは何ですか。（○はいくつでも）（n=1,038）（%）

1 チラシ・パンフレット	24.6	7 イベント	3.9
2 ポスター・看板・横断幕など	53.1	8 植物園・公園など	7.0
3 SNS（X（旧Twitter）、Facebook、Instagramなど）	8.3	9 家族や知人などから聞いた	12.2
4 ウェブサイト（ホームページなど）	9.2	10 その他	8.2
5 広報誌（県のたよりなど）	32.5	11 分からない、覚えていない	1.0
6 テレビ・ラジオ	21.7		（無回答 -）

【全員の方がお答えください】

問7 GREEN×EXPO 2027に何を期待しますか。（○は3つまで）（n=1,698）（%）

1 世界中から集まった植物が見られること	44.6
2 農地や里山など日本の昔ながらの風景	16.4
3 農業や花だん作りなどの体験企画への参加	9.5
4 地元でとれた産物や食を楽しむ市場	39.3
5 花と緑あふれる庭などの展示	42.5
6 生物多様性や脱炭素の取組みについての展示	13.3
7 仮想現実※やロボットなど最新技術の展示	13.6
8 ボランティア参加	1.8
9 その他	1.7
10 特になし	17.9
	（無回答 2.8）

※ 仮想現実とは、コンピューターの中に作られた仮想的な世界を、あたかも現実のように体験できる技術のことをいいます。

## 4 脱炭素・環境

問8 今後、県には環境に関するどのような取組みに対して、特に力を入れてほしいですか。

(〇はいくつでも) (n=1,698) (%)

1 脱炭素化※など地球温暖化を防ぐための取組み	54.0	6 環境教育に関する取組み	29.6
2 自然環境や生物多様性の保全のための取組み	51.7	7 その他	2.2
3 廃棄物対策など資源循環のための取組み	56.4	8 特にない、分からない	5.7
4 大気環境保全のための取組み	35.9		
5 水質や水辺の環境保全のための取組み	56.8		(無回答 0.9)

※ 脱炭素化とは、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出を実質的にゼロにすることをいいます。

問9 省エネや再エネ※の導入など、脱炭素を意識した取組みを行っていますか。

(〇は1つ) (n=1,698) (%)

1 すでに行っている	24.3	4 あまり関心がなく行う予定もない	8.0
2 今後行う予定である	3.7	5 全く関心がない	4.6
3 関心はあるが行ってはいない	58.4		(無回答 1.1)

※ 再エネとは、「再生可能エネルギー」の略称で、太陽光・風力・水力・地熱・バイオマスなどから作られ、資源を枯渇させずに繰り返し使うことができ、発電や熱利用をするときに地球温暖化の原因となる二酸化炭素をほとんど出さないエネルギーのことをいいます。

問10 家で使用する電力について、再エネ由来の電力を使用※したいと思いませんか。

(〇は1つ) (n=1,698) (%)

1 すでに使用している	7.9	4 使用したいと思わない	9.7
2 電気代が今よりもかかっても使用したい	1.9	5 分からない	13.6
3 電気代が今と同じか、それ以下であれば使用したい	65.8		(無回答 1.1)

※ 再エネ由来の電力の使用とは、自宅やマンションの屋根などに太陽光発電設備を設置し、その電力を使っている、または電力会社が用意している再生可能エネルギープランを契約していることをいいます。

問11 「気候変動への適応」※に関心がありますか。

(〇は1つ) (n=1,698) (%)

1 関心がある	51.1	4 関心がない	2.4
2 どちらかといえば関心がある	36.8	5 分からない	4.7
3 どちらかといえば関心がない	4.4		(無回答 0.6)

※ 気候変動への適応とは、地球温暖化を主要因とした気温上昇や大雨の増加などによる健康被害や自然災害などの影響を防いだり減らしたりすること(例:災害への備え、熱中症予防など)をいいます。地球温暖化が進むと、これらの影響は更に大きくなる恐れがあります。

## 5 生物多様性

問 12 「生物多様性」※の言葉の意味を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,698) (%)

1 知っている	39.7	3 知らなかった	21.7
2 言葉は聞いたことがある	35.9		(無回答 2.7)

※ **生物多様性**とは、様々な自然が存在し、そこに住む様々な生きものたちに個性があり、お互いに関わりを持っていることをいいます。

問 13 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることはありますか。

(○はいくつでも) (n=1,698) (%)

1 生態系に配慮した農畜水産物(※1)を買う	18.4		
2 生物多様性保全に取り組む企業(※2)の製品を買う	12.8		
3 身近な自然を生物多様性の視点で考える	26.8		
4 生物多様性に関する記事や広告に目を留める	23.1		
5 生物多様性を保全する活動に参加する	2.1		
6 家族や友人と生物多様性保全の話をする	4.8		
7 その他	0.9		
8 特にない	44.2		(無回答 3.4)

※1 **生態系に配慮した農畜水産物**とは、環境保全型農業や有機畜産により生産された農畜産物、持続可能な漁業による水産物のことをいいます。例えば、有機JAS認証やエコファーマーマーク、海のエコラベルがついた製品が挙げられます。

※2 **生物多様性保全に取り組む企業**とは、製品製造時に環境負荷軽減に配慮したり、清掃や植林などの保全活動を継続して実施したりしている企業のことをいいます。

問 14 お住いの周辺地域の自然環境は、おおよそ3年前と比べてどのような変化があったと感じますか。 (○は1つ) (n=1,698) (%)

1 豊かになった	0.9	4 どちらかといえば劣化した	21.7
2 どちらかといえば豊かになった	5.0	5 劣化した	9.0
3 変化はない	50.3	6 分からない	10.8
			(無回答 2.3)

## 6 「未病改善」の取組み

問 15 「未病（ME-BYO）」※の言葉の意味を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,698) (%)

1 知っている	31.4	3 知らなかった	37.6
2 言葉は聞いたことがある	28.3		(無回答 2.7)

※ **未病**とは、健康と病気を「二分論」の概念で捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものと捉え、すべての変化の過程を表す概念のことをいいます。

問 16 過去1年間で「未病改善」※の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）を以前と比べて行うようになったと思いますか。 (○は1つ) (n=1,698) (%)

1 もともと行っており、今も行っている	27.3	
2 以前ほどではないが、少しずつ行っている	17.7	
3 以前は行っていなかったが、行うようになった	8.7	
4 以前は行っていなかったが、少しずつ行うようになった	16.2	
5 以前は行っていたが、まったく行わなくなった	2.4	
6 以前から行っておらず、今も行っていない	25.1	(無回答 2.6)

※ **未病改善**とは、心身の状態の変化の中で、特定の疾患の予防にとどまらず、心身をより健康な状態に近づけていくことをいいます。県では「食」「運動」「社会参加」を基本に、「未病改善」の取組みを進めています。

問 17 「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）をするにあたって必要だと思うものは何ですか。 (○は3つまで) (n=1,698) (%)

1 医師など、専門家からの健康状態に関するアドバイス	37.4	
2 健康に良い食材や調理方法など、食に関する情報	47.6	
3 ボランティア募集など社会参加できる情報や相談窓口	4.4	
4 スポーツセンターなど、気軽に運動ができる施設	41.4	
5 家族、友人など、一緒に健康に良い行動ができる仲間	31.0	
6 健康状態を気軽に知ることができる施設やイベント	26.0	
7 民間企業が提供する健康関連の商品サービス	4.3	
8 将来（10～20年後）の自分に起こりうる健康リスクを知ること	24.5	
9 その他	2.1	
10 特になし	2.9	
11 分からない	4.3	(無回答 3.7)

問 18 「フレイル」※という言葉を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,698) (%)

1 知っている	32.7	3 知らなかった	45.1
2 言葉は聞いたことがある	18.8		(無回答 3.4)

※ **フレイル**とは、高齢になって心身の活力（筋力、認知機能、社会とのつながりなど）が低下した状態のことをいい、多くの人々が健康な状態からこのフレイルの段階を経て、要介護状態になると考えられています。

## 7 かながわ救急相談センター（#7119）

問 19 かながわ救急相談センター（#7119）※を知っていますか。 （○は1つ）（n=1,698）（%）

1 知っている	36.7	3 知らなかった	39.5
2 言葉は聞いたことがある	23.3		（無回答 0.5）

※ かながわ救急相談センター（#7119）とは、急な病気やケガをして、「救急車を呼んだ方がいいのか」、「今すぐ病院に行った方がいいのか」などで迷ったときに、電話でアドバイスを受けることができる電話相談窓口のことをいいます。

## 8 循環器病対策

問 20 脳卒中の主な初期症状について、知っているものを選んでください。

（○はいくつでも）（n=1,698）（%）

1 顔の片側がゆがむ	52.2	3 ろれつが回らない	89.2
2 左右いずれかの腕に力が入らない	52.0	4 どれも知らなかった	8.7
			（無回答 0.7）

問 21 脳卒中は、発症後すぐに救急車を呼ぶなど、医療機関で適切な治療を行えば、後遺症を含めたその後の状態が改善される可能性が高まることを知っていますか。 （○は1つ）（n=1,698）（%）

1 知っている	86.8	2 知らなかった	12.3	（無回答 0.9）
---------	------	----------	------	-----------

問 22 心臓病は、ひとたび発症すると再発率が高いという特徴があります。再発を防ぐためには、治療後の適度な運動療法を中心としたリハビリテーションが重要であることを知っていますか。

（○は1つ）（n=1,698）（%）

1 知っている	53.8	2 知らなかった	45.5	（無回答 0.8）
---------	------	----------	------	-----------

## 9 依存症に対する意識

問 23 依存症※について、あてはまると思うことを選んでください。(○はいくつでも) (n=1,698) (%)

1 誰でもなる可能性がある	83.3	7 その他	0.2
2 意志が弱いことが原因でなるわけではない	33.0	8 分からない	1.9
3 やめたくても、やめられなくなる病気である	77.5	9 あてはまるものはない	1.2
4 回復することはできるが時間がかかる	59.5		
5 依存症の本人が依存症であることを認めない	41.9	(無回答	0.9)
6 依存対象が生活の最優先事項になる	32.3		

※ 依存症とは、アルコールや薬物など、特定の物質を摂取することや、ギャンブルやゲーム、インターネットなど、特定の行動にのめり込み、心やからだ、社会生活に問題が出ることをいいます。

問 24 依存症について、相談できる場所として知っているものを選んでください。

(○はいくつでも) (n=1,698) (%)

1 依存症専門医療機関・専門クリニック	63.3		
2 かかりつけ医 (内科医など)	32.0		
3 行政機関 (精神保健福祉センター、保健所など)	28.9		
4 回復支援施設 (依存症回復のための通所・入所施設)	32.8		
5 当事者や家族などの自助グループ	21.7		
6 弁護士・司法書士	1.7		
7 その他	0.2		
8 分からない	13.4		
9 知っているものはない	6.8	(無回答	1.3)

### 【問 24 で 1～7 を選んだ方へ】

問 24-1 相談できる場所を知ったきっかけを選んでください。(○はいくつでも) (n=1,333) (%)

1 ポスター・チラシ	14.9	7 家族・知人から	11.0
2 県・市町村の広報誌 (県のたよりなど)	22.4	8 職場・学校	9.9
3 医療機関・行政機関などのホームページ	20.4	9 その他	2.3
4 テレビ・新聞などのマスメディア	50.4	10 分からない、覚えていない	7.8
5 ソーシャルメディア (※1)	15.4		
6 電車内・街中のデジタル広告 (※2)	6.2	(無回答	2.7)

※1 ソーシャルメディアとは、例えばX (旧 Twitter)、Facebook、Instagram などがあります。

※2 デジタル広告とは、電車のドア上や網棚上の液晶ディスプレイ、街中のデジタルサイネージなどを使った広告のことをいいます。

## 10 かながわの人権

問 25 今の日本は基本的人権が尊重されている社会だと思いますか。 (○は1つ) (n=1,698) (%)

1 そう思う	34.4	3 そう思わない	10.3
2 どちらともいえない	51.9	(無回答)	3.4

問 26 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題は何ですか。

(○はいくつでも) (n=1,698) (%)

1 子どもの人権	33.9	8 貧困(※2)などによる人権問題	28.7
2 女性の人権	30.9	9 犯罪被害者などの人権	22.6
3 障がい者の人権	31.8	10 拉致被害者の人権	16.0
4 高齢者の人権	26.1	11 性的マイノリティの人権	19.1
5 医療従事者・患者などの人権	20.9	12 インターネットにおける人権問題	38.4
6 同和問題(部落差別)(※1)	5.5	13 その他	2.2
7 外国人の人権	17.3	14 特にない	9.2
			(無回答) 1.8

※1 同和問題(部落差別)とは、一部の人が、特定の地域出身であることや、そこに住んでいることを理由に日常生活の上で様々な差別を受けるといった、わが国固有の人権課題のことをいいます。

※2 貧困とは、平均収入の半分以下の世帯であり、年齢に関係なく住む家がない状態に陥っている状態や、適切な支援につながらず、生活に困窮している状態のことをいいます。

問 27 人権課題を解消するために、力を入れて取り組む必要があると思うことは何ですか。

(○はいくつでも) (n=1,698) (%)

1 学校などにおける人権教育	60.2	6 差別的表現の規制・モニタリング	16.8
2 企業などにおける人権研修	35.7	7 国による法整備	44.8
3 広告やインターネットを活用した啓発活動	22.2	8 地方自治体による条例整備	28.9
4 相談体制の充実	31.2	9 その他	2.0
5 当事者を支援する取組みの充実	31.7	10 分からない	8.1
			(無回答) 1.5

## 11 配偶者等からの暴力

問 28 配偶者等からの暴力(DV)について、知っていたことを選んでください。

(○はいくつでも) (n=1,698) (%)

1 DV被害者相談窓口がある	79.9
2 DV被害者相談窓口は、男性向けもある	32.0
3 DV被害者は加害者から離れて自立生活するための支援や情報提供を受けることができる	58.2
4 子どもの前でDVが行われることは、子どもへの虐待となる	52.3
5 恋人同士の間で起こる暴力を「デートDV」という	30.9
6 どれも知らなかった	10.7
(無回答) 1.8	

## 12 犯罪被害者等への支援

問 29 犯罪被害者等の相談窓口のうち、知っているものを選んでください。

(〇はいくつでも) (n=1,698) (%)

1	各警察署の住民相談係	46.3	
2	県警察の総合相談室 (#9110)	16.8	
3	かながわ犯罪被害者サポートステーション	5.2	
4	性被害者ワンストップ支援「かならいん」	2.7	
5	各市町村の犯罪被害者等相談窓口	14.4	
6	法テラスの犯罪被害者支援ダイヤル	11.8	
7	県弁護士会の犯罪被害者支援センター	4.4	
8	横浜地方検察庁の被害者ホットライン	1.6	
9	横浜保護観察所の被害者専用電話番号	0.8	
10	どれも知らなかった	41.8	(無回答 1.8)

問 30 近所や職場、親戚などの身近に、現在、犯罪被害にあっている 17 歳以下の子どもはいますか。

(〇は1つ) (n=1,698) (%)

1	いると思う	9.4	3	分からない	43.6
2	いないと思う	46.2			(無回答 0.8)

子どもが被害者となりうる犯罪には殺人、暴行、恐喝、詐欺、窃盗、痴漢、交通事故など様々な種類がありますが、これらの他にも、家庭や学校の中だけの問題とされがちな虐待、いじめも含まれます。また、子どもに性的画像（児童ポルノ）を撮影するよう要求したり、拡散したりすることも犯罪です。

問 31 犯罪被害にあっている子どもを早期発見するために効果的だと思う取組みは何ですか。

(〇はいくつでも) (n=1,698) (%)

1	子どもが自ら被害を相談できるしくみづくり	72.0	
2	子どもへの人権教育など	37.7	
3	被害後の対応についての保護者への周知	30.9	
4	子どもに接する仕事に就く人への研修	46.1	
5	身近な大人が通報・通告する必要性の周知	60.7	
6	自治体職員や警察官などへの研修	22.5	
7	子どもの犯罪被害者についての理解の促進	31.7	
8	相談窓口のいっそうの周知	32.1	
9	相談窓口間での情報共有など連携の強化	33.3	
10	その他	3.2	
11	特にない、分からない	4.7	(無回答 0.9)

## 13 生活に不安や課題がある人への支援

問 32 私たちのくらす社会では、生まれ育った環境にかかわらず誰もが夢や希望を持てると思いますか。 (〇は1つ) (n=1,698) (%)

1	そう思う	9.7	4	どちらかといえばそう思わない	19.0
2	どちらかといえばそう思う	21.3	5	そう思わない	18.7
3	どちらともいえない	25.3	6	分からない	4.7
(無回答 1.5)					

問 33 ひとり親家庭を、社会全体で支援できていると思いますか。 (〇は1つ) (n=1,698) (%)

1	そう思う	3.8	4	どちらかといえばそう思わない	24.4
2	どちらかといえばそう思う	15.5	5	そう思わない	16.1
3	どちらともいえない	27.6	6	分からない	11.1
(無回答 1.5)					

問 34 日々の生活に悩みや課題を抱える女性を、社会全体で支援できていると思いますか。 (〇は1つ) (n=1,698) (%)

1	そう思う	2.1	4	どちらかといえばそう思わない	27.0
2	どちらかといえばそう思う	10.1	5	そう思わない	20.9
3	どちらともいえない	26.4	6	分からない	12.0
(無回答 1.6)					

## 14 インクルーシブ教育

問 35 県のめざす「インクルーシブ教育」※を知っていますか。 (〇は1つ) (n=1,698) (%)

1	知っている	12.8	3	知らなかった	66.0
2	言葉は聞いたことがある	19.5	(無回答 1.6)		

※ インクルーシブ教育とは、共生社会の実現に向け、すべての子どもが、(障がい、国籍、性別などにかかわらず、) 同じ場でともに学びともに育つことをめざす取組みのことをいいます。

問 36 現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思いますか。 (〇は1つ) (n=1,698) (%)

1	そう思う	2.9	4	そう思わない	16.9
2	どちらかといえばそう思う	21.3	5	分からない	31.2
3	どちらかといえばそう思わない	26.4	(無回答 1.3)		

問 37 すべての子どもが学べる学校づくりに、ボランティアなどで参加したいと思いますか。 (〇は1つ) (n=1,698) (%)

1	参加したい	6.2	4	参加したくない	20.6
2	どちらかといえば参加したい	22.5	5	分からない	34.6
3	どちらかといえば参加したくない	14.5	(無回答 1.6)		

## 15 かながわの広報

問 38 県は、災害や感染症対策などの取組み、イベントの実施など県政情報を伝えていると思いますか。  
(○は1つ) (n=1,698) (%)

1 伝えている	12.4	4 伝えていない	6.8
2 どちらかといえば伝えている	39.9	5 分からない	24.1
3 どちらかといえば伝えていない	15.0	(無回答)	1.9

問 39 県が県政情報を伝えている広報媒体について、知っているものを選んでください。  
(○はいくつでも) (n=1,698) (%)

1 県の広報紙「県のたより」	69.6	
2 県の公式 YouTube チャンネル「かなチャン TV」	3.7	
3 県の広報テレビ番組 (tvk「カナフル TV」)	11.6	
4 県の広報ラジオ番組 (FM 横浜「KANAGAWA Muffin」)	8.7	
5 県のホームページ	31.3	
6 県のソーシャルメディア※	7.5	
7 県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	19.7	
8 新聞での紙面広報	11.4	
9 フリーペーパー	4.6	
10 どれも知らなかった	14.7	(無回答 1.4)

※ ソーシャルメディアとは、例えば X (旧 Twitter)、Facebook、Instagram などがあります。

問 40 県政情報をどこから入手していますか。  
(○はいくつでも) (n=1,698) (%)

1 県の広報紙「県のたより」	59.7	
2 県の公式 YouTube チャンネル「かなチャン TV」	1.8	
3 県の広報テレビ番組 (tvk「カナフル TV」)	6.4	
4 県の広報ラジオ番組 (FM 横浜「KANAGAWA Muffin」)	5.5	
5 県のホームページ	19.5	
6 県のソーシャルメディア	6.0	
7 県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	13.4	
8 新聞での紙面広報	11.0	
9 フリーペーパー	3.8	
10 どこからも入手していない	22.9	(無回答 1.4)

…\*\*

最後に、集計結果を分析するために必要な項目についてお聞きします。(個人を特定するものではありません。)

F 1 お住まいの地域はどちらですか。 (n=1,698) (%)

1	横浜 (横浜市)	39.9
2	川崎 (川崎市)	14.2
3	相模原 (相模原市)	7.1
4	横須賀三浦 (横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町)	6.5
5	県央 (厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村)	10.4
6	湘南 (平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町)	16.0
7	県西 (小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町)	4.4
		(無回答 1.5)

F 2 差し支えなければ、あなたの性別をお聞かせください。 (n=1,698) (%)

1	男性	41.4	2	女性	55.1	(無回答 3.5)
---	----	------	---	----	------	-----------

F 3 あなたの年齢は、おいくつですか。(2025年11月1日現在) (n=1,698) (%)

1	18~19歳	0.2	5	35~39歳	5.1	9	55~59歳	10.7	13	75~79歳	9.8
2	20~24歳	2.4	6	40~44歳	7.7	10	60~64歳	10.9	14	80歳以上	4.5
3	25~29歳	2.7	7	45~49歳	10.2	11	65~69歳	9.1			
4	30~34歳	4.8	8	50~54歳	13.2	12	70~74歳	7.1	(無回答 1.8)		

F 4 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。あてはまるものをすべて選んでください。(同居、別居は問いません。) (n=1,698) (%)

1	小学校入学前	7.8	5	短大、専門学校等在学中	0.8	9	その他	2.4
2	小学校在学中	10.1	6	大学、大学院等在学中	7.5	10	子どもはいない	30.7
3	中学校在学中	6.7	7	学校教育終了 [未婚]	23.3			
4	高校在学中	7.9	8	学校教育終了 [既婚]	24.4	(無回答 2.4)		

F 5 現在のお宅の家族形態は、次のどれにあたりますか。 (n=1,698) (%)

1	一人暮らし (単身世帯)	14.6	4	祖父母と親と子の世帯 (3世代世帯)	3.5
2	夫婦のみ (1世代世帯)	27.5	5	その他の世帯	4.8
3	親と子の世帯 (2世代世帯)	47.4			(無回答 2.1)

F 6 あなたの現在のお仕事は、次のどれにあたりますか。1～9の中から1つ選んでください。  
また、1～5を選んだ方は、右のア～ケの中から1つ選んでください。

(n=1,698) (%)

(n=1,068) (%)

1 自営業主 5.4	→	ア 農林水産業 0.4
2 家族従業者 (家業手伝い) 1.0		イ 商工サービス業(各種商店、飲食店、工事店などの経営) 4.9
3 勤め (フルタイム) 40.2	→	ウ 自由業(開業医、弁護士、茶華道師匠、芸術家など) 4.4
4 勤め (パートタイム) 16.2	→	エ 経営・管理職(会社等の部長級、官公庁の課長級以上) 8.3
5 内職 0.2		オ 専門・技術職(研究員、技術者、勤務医、看護師など) 18.8
6 主婦・主夫(勤めていない) 14.5		カ 事務職(事務系会社員・公務員、警察官、駅員など) 24.3
7 学生 0.8		キ 教育職(教諭、保育士など) 6.1
8 無職 16.0		ク 技能・労務職(工場の生産工程従事者、運転士など) 9.8
9 その他 1.8		ケ 販売・サービス職(商店、サービス業などの従業員) 20.5
(無回答 4.0)		(無回答 2.5)

質問は以上です。最後までご協力いただき、ありがとうございました。

同封の返送用封筒で、11月18日(火)までにご投函ください。(切手は不要です。)

なお、インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。

今回の調査でお伺いしたテーマについて、ご意見やご提案がありましたら、お書きください。

ご意見やご提案を希望するテーマの番号に○をつけてください。

- |                           |                     |
|---------------------------|---------------------|
| 1 かながわの文化芸術               | 8 循環器病対策            |
| 2 伝統的工芸品                  | 9 依存症に対する意識         |
| 3 2027年国際園芸博覧会            | 10 かながわの人権          |
| 4 脱炭素・環境                  | 11 配偶者等からの暴力        |
| 5 生物多様性                   | 12 犯罪被害者等への支援       |
| 6 「未病改善」の取組み              | 13 生活に不安や課題がある人への支援 |
| 7 かながわ救急相談センター<br>(#7119) | 14 インクルーシブ教育        |
|                           | 15 かながわの広報          |

下記にその内容をご記載ください。

223人(13.1%)から自由意見が寄せられました。

